

平成 21 年

2009 年

三重県立総合医療センター一年報

目 次

基本理念・基本方針

1. 病院の概要

(1) 沿 革	1
(2) 施設整備の状況	5
(3) 学会認定状況	9
(4) 組 織 図	10
(5) 職種別定数及び現在員数	11

2. 各セクションの状況

(1) 平成 21 年診療実績	12
(2) 中央放射線部	40
(3) 中央検査部	41
(4) 薬 剤 部	42
(5) 看 護 部	43
(6) 機能訓練グループ	46
(7) 栄養グループ	47
(8) 地域連携室	48
(9) 医療安全管理部	54
(10) 学会・研究会発表及び論文発表実績	69

3. 統計データ

(1) 患者統計	84
(2) 図書蔵書状況	86
(3) 病歴管理室統計	87

県立総合医療センターの基本理念・基本方針

基本理念

救命救急、高度、特殊医療等を提供することにより、県の医療水準の向上に貢献します。
安全・安心で互いにささえあう社会の実現に向けて医療面から貢献します。

基本方針

- 1 患者の皆様の権利を尊重し、信頼と満足の得られるチーム医療を提供します。
- 2 県の基幹病院として医療水準の向上に努め、安全で質の高い医療を提供します。
- 3 県内医療機関との連携を強化し、地域医療の充実に努めます。
- 4 職場環境を改善し、職員のモチベーションの向上に努めます。
- 5 公共性と経済性に配慮した健全な経営を行います。

受診される皆様の権利

- 1 人として尊重され最善の医療を受ける権利があります。
- 2 医療行為についての情報提供と説明を受ける権利があります。
- 3 患者の皆様の理解と同意に基づいた医療を受ける権利があります。
- 4 診療情報の保護により、プライバシーを尊重される権利があります。

守っていただく事項

- 1 心身の健康状態などの必要事項については、正確で詳細な情報をお伝えください。
- 2 医療行為は、理解と合意のうえを受けてください。
- 3 お互いに、礼儀正しく社会的ルールをお守りください。
- 4 医療費の支払い請求を受けたときは、速やかにお支払いください。

1. 病院の概要

(1) 沿革

- 昭和23年 8月 三重県医師会より旧海軍燃料廠附属病院を継承し三重県立医学専門学校・三重県立医科大学附属塩浜病院として発足
初代院長 渡辺 篤 病床数 113 床
- 24年 6月 二代院長 高安 正夫
- 25年 4月 塩浜病院乙種看護婦養成所を設立
12月 病床数 134 床 (普通病床 99 床・結核病床 35 床) 許可
生活保護法に基づく保険医療機関指定
- 27年 借用中の国有財産(土地 7,270 坪・建物 18 棟、1,809 坪)を譲り受ける
- 28年 2月 第6病棟(木造平屋建)竣工
4月 県立大学医学部附属塩浜病院准看護婦学校に推移
5月 「総合病院」の名称使用承認。
- 30年 7月 鉱工業の医学に及ぼす影響及び産業従事者の特殊疾患の研究を目的として病院敷地内に産業医学研究所設立
- 31年 7月 第1病棟(鉄筋コンクリート2階建)竣工
- 32年 3月 第3病棟(鉄筋コンクリート2階建)竣工
8月 病床数 307 床 (一般 220 床・結核 87 床) 許可
健康保険法に基づく保健医療機関指定
- 33年 10月 基準看護(一般・結核)、基準給食承認
11月 病床数 307 床 (一般 208 床・結核 87 床・伝染病 12 床) 許可
- 34年 1月 東5病棟(鉄筋コンクリート4階建)竣工
国民保険法に基づく保険医療機関指定
9月 病床数 465 床 (一般 354 床・結核 99 床・伝染病 12 床) 許可
11月 中央治療棟(鉄筋コンクリート3階建)竣工
- 35年 1月 県立大学行政機構改革に伴い三重県立大学医学部附属塩浜病院、県立大学医学部附属准看護婦学校へ改称
- 36年 10月 手術室、ボイラー室及び変電室竣工
- 37年 5月 病床数 465 床 (一般 354 床・結核 91 床・精神病 8 床・伝染病 12 床) 許可
8月 病床数 465 床 (一般 354 床・結核 99 床・伝染病 12 床) 許可
- 38年 3月 外来診療B棟(鉄筋コンクリート2階建)竣工
- 39年 3月 外来診療A棟(鉄筋コンクリート2階建)竣工
7月 基準寝具承認
12月 看護婦宿舎(鉄筋コンクリート4階建)竣工
- 40年 4月 三代院長 藤野 敏行
第5病棟2階に公害患者のための空気清浄室設置

- 41年 2月 病床数 465 床（一般 354 床・結核 52 床・精神病 47 床・伝染病 12 床）許可
5月 「救急病院等を定める省令」に基づき救急病院の告示
- 44年 4月 四代院長 宮地 一馬
- 48年 3月 院内保育所（木造平屋建）竣工
- 49年 4月 五代院長 高崎 浩
県立大学の国立移管により三重県立大学医学部附属塩浜病院を廃止し、三重県立中央病院として発足
県立大学の国立移管により県立大学医学部附属准看護婦学校を廃止。塩浜高等看護学院を設立
- 9月 病院名称を三重県立中央病院から三重県立総合塩浜病院に改名
- 50年 6月 六代院長 森 幸夫
- 51年 4月 解剖霊安棟（木造）を鉄筋 2 階建に改築
5月 給水、ボイラー、焼却及び電気設備を改修
- 52年 4月 第 5 病棟西棟（木造 2 階建）を鉄筋コンクリート 4 階建に改築
- 53年 4月 第 1 病棟 1 階を検査室と薬品倉庫に改修
- 54年 3月 防災設備（スプリンクラー等）を改修
- 54年 9月 病院群輪番制病院に
- 55年 8月 外来棟冷房設置及び駐車場を整備
- 57年 8月 基準寝具承認
- 58年 1月 医事業務の電算化
3月 第 3 病棟の病床を第 5 病棟に移設（7 看護単位とする）
塩浜高等看護学院廃止
6月 X線コンピューター断層診断装置を設置
- 59年 3月 第 6・7 病棟、第三宿舎、倉庫 2 棟の木造建築を解体撤去
8月 結核病床 52 床、精神病床 47 床、伝染病 12 床を廃止、一般病床 354 床許可
- 60年 3月 食器洗浄棟を設置
- 61年 12月 県立総合病院整備基本計画策定
- 62年 3月 注射用与薬車を全病棟へ導入
錠剤自動分包機導入
- 平成 2年 3月 高周波加速電界発生機器収納施設（ライナック治療棟）設置
3年 3月 県立総合医療センター建設用地取得
4月 七代院長 杉山 陽一
4年 1月 県立総合医療センター建設工事着工
3月 県立総合医療センター（一般 350 床、救命救急センター 30 床）開設許可
7月 県立総合医療センターヘリポート設置許可承認
- 5年 4月 夜間看護等加算の承認
6月 県立総合医療センター医師公舎、看護婦宿舎、院内保育所建設工事着工
- 6年 3月 県立総合医療センター医師公舎建設工事完成
4月 医事課を医事経営課に改める

- 6月 総合医療センター建設工事完成
- 9月 県立総合塩浜病院閉院
- 10月 県立総合医療センター開院
 - 救急病院の指定
 - 身体障害者福祉法による更生医療指定病院の承認
 - 結核予防法指定病院の承認・生活保護指定病院の承認
 - 母子保健法による養育医療指定病院の承認
 - 臨床研修指定病院の承認
 - 保険医療機関の指定承認
 - 労災保険指定病院の変更承認・労災保険義肢採型指導医の指定変更承認
 - 労災アフターケア実施医療機関指定変更承認
- 7年 4月 NICU施設承認
- 8年 2月 エイズ拠点病院の選定
 - 4月 八代院長 宗行 万之助
- 9年 1月 災害拠点病院の指定
- 11年 4月 九代院長 鈴木 宏志
 - 適時適温給食導入
- 12年 1月 西棟・手術棟完成
- 13年 3月 6階東病棟改修完了
 - 4月 第二種感染症病床指定医療機関の指定
 - 病床数（一般412床、救命救急センター30床、感染症病床4床）許可
 - 7月 セミオープンベットの開設
- 14年 8月 地域がん診療拠点病院の指定
 - 10月 十代院長 小西 得司
- 15年 3月 地域周産期母子医療センターの選定
 - 8月 新オーダーリングシステム導入
 - 9月 救命救急センター HCU、ICU、CCU に分離
 - ICU、CCU 7床→6床
- 16年 2月 (財)日本医療機能評価機構による病院機能評価認定
 - 3月 パーキングシステム設置
 - 4月 患者相談窓口を設置
 - 6月 化学療法室を開設
- 17年 11月 太陽光発電システム設置
- 18年 1月 緩和外来開設
 - 8月 電子カルテ稼動
- 20年 3月 放射線治療システム(ライナック)の更新
- 20年 4月 十一代院長 高瀬 幸次郎
 - クレジットカード決裁開始
 - 災害用地下水供給システム稼動

- 7月 セカンドオピニオン外来開設
- 10月 化学療法室の移転・増床（7床→10床）
- 11月 自治会との災害給水協定締結
血管造影撮影装置(心臓・頭腹部アンギオ)の更新
- 21年 4月 DPC(医療費定額支払制度)開始
- 4月 (財)日本医療機能評価機構による病院機能評価更新認定
- 8月 がんサポート室開設
- 22年 3月 がん診療連携拠点病院指定更新

(2) 施設設備の概要

所在地 四日市市大字日永 5450 番の 132

●病床数

一般……………	412 床
感染症病床……………	4 床
救命救急センター……………	30 床
計	446 床

●診療科目

内科	脳神経外科	眼科	循環器科
小児科	耳鼻いんこう科	呼吸器科	産婦人科
精神科	消化器科	整形外科	神経内科
外科	リハビリ科	放射線科	心臓血管外科
皮膚科	麻酔科	呼吸器外科	泌尿器科

●本館敷地・建物概要

敷地面積……59,450.90 m²

建物規模……地下1階、地上7階、塔屋2階

建物構造……高層部SRC造、低層部RC造

建築面積……9,549.15 m²

延床面積……29,176.89 m²

駐車台数……約700台

●附属施設

医師公舎 R C 2階建、延床面積： 517.86 m² (12戸)

看護師宿舎 R C 3階建、延床面積：1,758.99 m² (68室)

院内保育所 R C 平屋建、延床面積： 233.40 m²

●厚生施設

食堂 (7階)、売店、喫茶、自販機コーナー、授乳室 (1階)

●付帯設備

電子カルテシステム

医療情報システム (オーダーリングシステム)

院外処方FAXステーション

災害備蓄倉庫

●電気設備

受変電設備受	電圧 6.6 kV 変圧器容量 3,800 kVA
非常用発電機設備	ガスタービンエンジン 3相3線 6.6 kV 1,000 kVA × 1台 ディーゼルエンジン 3相3線 220V 200 kVA × 1台 ディーゼルエンジン 3相3線 220/100V 150 kVA × 1台
非常用発電機燃料設備	地下タンク 40,000L (A重油)
無停電電源設備	医療用定格出力 75 kVA リニア搬送設備用定格出力 30 kVA × 1台 15 kVA × 1台
電気時計設備	親時計 1台、子時計 268台
電話交換設備	電子交換機中継台方式 一般電話機、多機能電話機、コードレス電話機、PHS
放送設備	非常・業務兼用定格出力 1,320W 系統 50
ナースコール	ベッド単位方式同時通話 PHS 対応
自動火災報知設備	GR型複合型受信機 (2系統、832回線)
その他	照明制御装置、避雷設備、中央集塵設備、投薬表示設備、電気錠、防犯カメラ設備、太陽光発電装置

●空気調和設備

主熱源	空気熱源スクルーヒートポンプ冷凍機 2台、ガス焚冷温水発生機 1台 合計約 610 冷凍トン
主空調方式	空気調和機、ファンコイルユニット、パッケージエアコン
空調制御設備	中央監視設備による自動制御 (病室用パッケージエアコンを除く)
換気設備	給気設備、排気設備

●給排水衛生設備

給水設備	上水受水槽 216,000L × 1台 井水受水槽 102,000L × 1台 上水高架水槽 60,000L × 1台 井水高架水槽 40,000L × 1台
排水設備	厨房・洗濯排水系、人工透析・解剖室排水系、生活排水系、検査系の 4 系統 処理能力 712 m ³ /日 R I 排水処理設備処理能力 0.2 m ³ /日
ボイラー設備	炉筒煙管式ボイラー 2基 最高使用圧力 10kg/cm ² 最大蒸発量 2.4t/h
医療ガス設備	液体酸素、気体酸素、笑気、窒素、圧縮空気
エレベータ設備	一般用 2台 業務用 3台 配膳用 1台 ヘリポート搬送用 1台 検体搬送用 1台

●リニア搬送設備

21 ステーションキャリア・コンテナ各 40台 走行レール全長 1,031メートル
--

- ヘリポート設備 陸上ヘリポート (屋上) 耐重量6.4t
着陸帯 22メートル (長さ) ×18メートル (幅)

●高額備品一覧

資産名称	メーカー	構造規格	数量
患者監視装置(医療用テレメタ)	フクダ電子	DS-7640	1
患者監視装置	日本光電	CNS-9303	1
心臓超音波診断装置 (NICU)	フィリップス	SONOS5500	1
フィールドアナライザー	カールツァイス	H F A II 750	1
眼科レーザー光凝固装置	トーマー	MD S 1000	1
超音波白内障手術装置	アルコン	レガシー2000	1
救急X線撮影装置	シーメンス	ベルチックス 3D-3	1
患者監視装置システム	日本光電		1
心臓超音波診断装置(救命センター)	フィリップス	SONOS5500	1
鼻マスク式人工呼吸器	バク・レスピロニクス	BiPAPVision	1
外科用超音波診断装置	GE横河	LOGIQ200MDpro	2
ガンマ線検出システム	センチューレメディカル	NEO2000	1
頭腹部アンギオ装置	東芝	スーパーG	1
脳機能検査装置	日本光電	EEG4524/BF	1
免疫測定装置	バクセルメディカル	ケルマ ADVIA Centaur	1
長時間心電図記録解析装置	フクダ電子	SCM-6000	1
脳波計	日本光電工業	EEG-1714	1
一般検査システム	シスメックス	UF-100 他	1
全自動輸血検査装置	オリンパス	ID-GelStation 他	1
全自動細菌検査装置	日本ビオメリュー	バイテック2システム	1
生化学自動分析装置	日本電子	JCA-BM1250	2
総合肺機能検査システム	チェスト	CHESTPkC-8800 BDN 型	1
総合血液検査システム	シスメックス	XE-AlphaN	1
血液ガスシステム	バクセルメディカル	ピットポイント 405	1
産婦人科用超音波診断装置	持田製薬	MEU-1585	2
分娩監視装置	フィリップス	OBトレスビュー、M1351A 他	1
超音波診断装置	GE横河	LOGIQ400MD	1
患者監視装置(モニタリングシステム)	日本光電	M 1 166 A	1
移動型外科用X線装置	フィリップス	BV Libra	1
筋電計	ニコレー	バイキングIV	1
内視鏡下血管採取システム	バイタル	バソビュエントスコープ	1
X線テレビ装置	東芝	DBA-300A	1
膝関節鏡視下手術セット	ストラッカー、ジンマー他		1

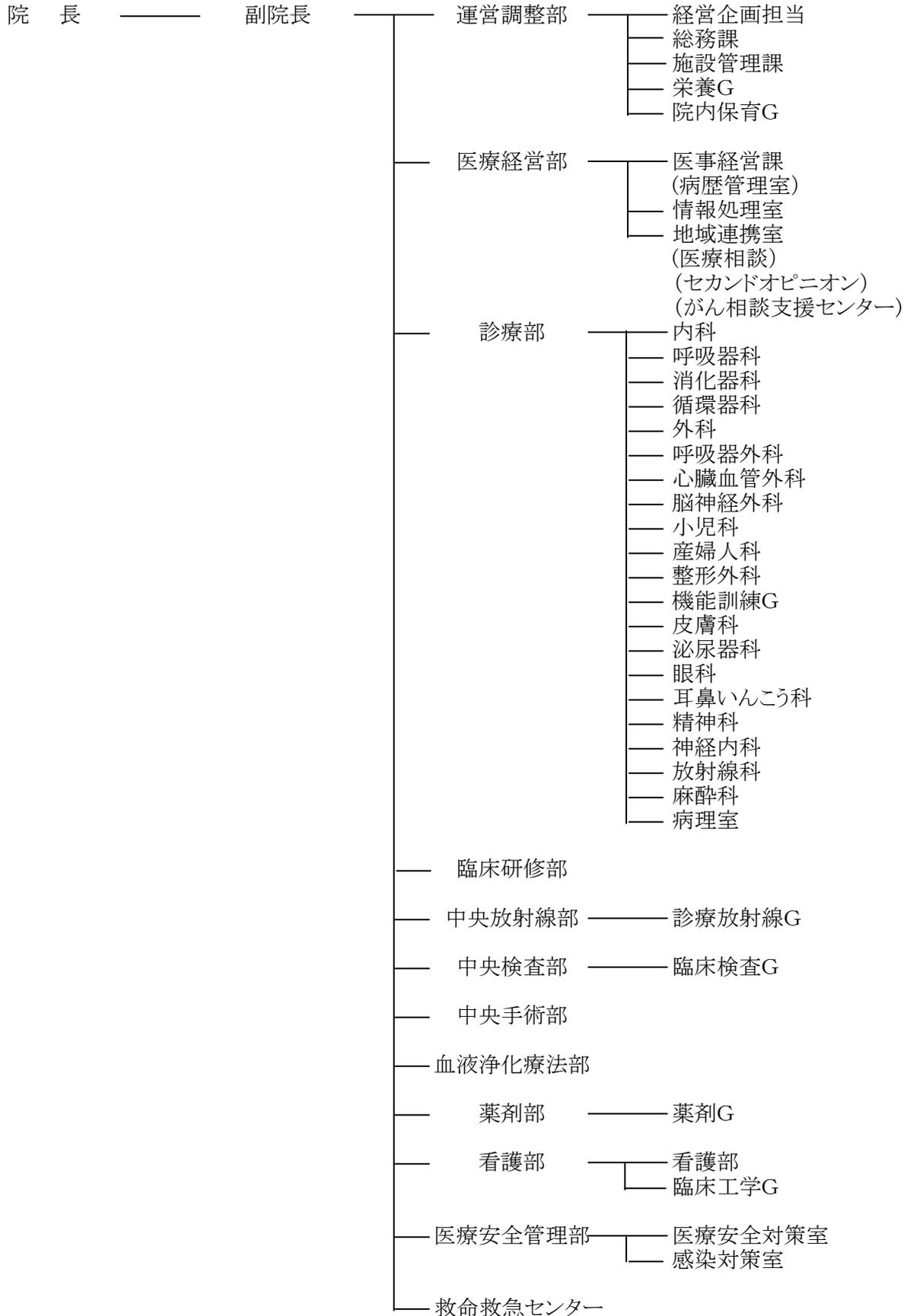
資産名称	メーカー	構造規格	数量
診断用X線撮影装置	東芝	KOX-50F	2
多軌道断層撮影装置	島津	HLZ-110	1
心アングロ装置	シーメンス	クロスコープ HS	1
CT装置	東芝	X Vision	1
ライナックシステム	三菱	EXL-15SP	1
ガンマーカメラ	東芝	GCA-7200	1
内照射装置(マイクロレプトン)	千代田テクノ	HDR 1 9 2 1 r	1
誘発電位・筋電図検査装置	日本光電	MEB-2208	1
X線テレビ撮影装置	東芝	DBA-300A	1
超音波診断装置 (心エコー室)	フィリップス	SONOS5500	1
乳房X線撮影装置	インスツルメンタルユーイメージング	アルファR T型	1
腹部超音波診断装置	シーメンス旭メデテック	ソノラインアンタレス	1
X線コンピュータ断層撮影装置	東芝メディカル	AquilionMULTI(16列)	1
磁気共鳴診断装置	シーメンス旭メデテック	MAGNETOM Symphony	1
腹部超音波診断装置(中央放射線部)	東芝メディカルシステムズ	nemio-10	1
X線テレビ装置	東芝	Winscope5000	1
腹部超音波診断装置	東芝メディカルシステムズ	AplioSSA-770A 他	1
一般撮影システム	フジフイルム	F C R	1
内視鏡ビデオシステム	オリンパス	OTY-SX2C 他	1
電子内視鏡システム	オリンパス	EVIS LUCERA CV-260	2
超音波内視鏡システム	オリンパス	EU-M2000	1
脳神経外科用手術顕微鏡	カールツァイス	OMUNI Pentero	1
泌尿器科用超音波診断装置	アロカ	ProSound SSD-4000	1

(3) 学会認定状況

- ・日本内科学会認定医制度教育病院
- ・日本小児科学会小児科専門医研修施設
- ・日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本外科学会認定制度修練施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本産科婦人科学会専門医制度委員会卒後研修指導施設
- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本脳神経外科学会専門医訓練施設（A項施設）
- ・日本医学放射線学会専門医修練協力機関
- ・日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設
- ・日本呼吸器外科学会専門医認定制度指定関連施設
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本神経学会准教育施設
- ・日本脳卒中学会認定研修教育病院
- ・日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設（認定施設）
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本大腸肛門病学会専門医修練施設
- ・日本周産期・新生児医学会周産期新生児専門医暫定研修施設
- ・日本透析医学会専門医制度教育関連施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定研修関連施設
- ・三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- ・呼吸器外科専門医合同委員会・関連施設
- ・日本乳癌学会認定医・専門医関連施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・日本アレルギー学会認定準教育施設

(4)三重県立総合医療センター組織図

平成21年4月1日現在



業務委託 医事業務、夜間休日警備、電話交換業務、施設管理中央監視、検体検査業務、医療用具等の滅菌消毒業務、患者給食業務、患者搬送業務、医療機器の保守点検業務、寝具等の洗濯業務、施設の清掃業務、医療ガス供給設備の保守点検業務、感染性廃棄物の処理業務

(5) 職種別定数及び現在員数

平成21年4月1日

職種		区分	定員	現在員	過不足	嘱託・業務補助
一般職	一般事務職		21	21	0	14
	電気技師		1	1	0	0
	情報技師		1	1	0	0
	保育士		4	3	-1	8
	医師		93	88	-5	0
	薬剤師		15	14	-1	2
	管理栄養士		3	3	0	1
	臨床検査技師		21	21	0	3
	診療放射線技師		18	18	0	2
	理学療法士		4	4	0	0
	作業療法士		2	1	-1	0
	言語聴覚士		1	1	0	0
	臨床工学技士		3	3	0	0
	看護師・助産師		309	312	3	52
	准看護師		0	0	0	7
	医療福祉技師		3	2	-1	0
	診療情報管理士		2	2	0	0
	司書		0	0	0	1
	保健師		1	1	0	0
	保育専門指導員		0	0	0	2
小計		502	496	-6	92	
現業職	病院施設管理員		4	4	0	0
	看護助手		4	4	0	9
	看護補助				0	23
	労務員				0	1
	小計		8	8	0	33
合計			510	504	-6	125

2. 各セクションの状況

(1) 平成21年診療実績

循環器科

当科は心臓血管疾患および高血圧等循環器疾患を広く担当しております。

心臓血管疾患では、虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)、心臓弁膜症、心筋症、不整脈、ペースメーカー植込み、先天性心疾患、肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症、大動脈疾患などを扱い、さらに救急診療としましては、心不全、急性心筋梗塞、不安定狭心症、不整脈、大動脈解離、肺血栓塞栓症などの循環器救急に迅速に対応すべく待機医を配しております。また心臓血管外科医と密な連携をとり対処しております。

虚血性心疾患の方には、非侵襲的な核医学検査とともに必要と思われる患者さんには積極的に心臓カテーテル検査を行っております。左心カテーテルの穿刺部位は肘の動脈(上腕動脈)、手首の動脈(橈骨動脈)、太ももの動脈(大腿動脈)を使用しておりますが、なるべく患者さんの負担にならないよう肘か手首の血管を選択するようにしております。冠動脈疾患の場合、患者さんの背景、重症度、年齢、糖尿病の有無などに応じて、内科的保存療法(投薬観察)か、バルーン、ステントなどによる冠動脈形成術か、冠動脈バイパス術かを厳密に選択しております。冠動脈インターベンション(冠動脈形成術)では、穿刺部位は手首の血管をほとんどの例で使用していますので、侵襲が少なく術後安楽にお過ごしいただけます。また再狭窄の少ない薬剤溶出性ステントを必要と判断される患者さんには積極的に使用するようし、再狭窄の減少とともに確実な治療成果を目指しています。

高齢化に伴い種々の心疾患を基礎とする心不全患者さんが激増しており、必要性および重症度に応じて入院投薬治療、補助循環装置の利用等手段を駆使して病態に則した治療を行い、また再入院を減らすよう努めております。

不整脈疾患に対しては、確実な診断と、投薬やペースメーカーによる治療にあたっています。より高度な不整脈治療を希望される場合は、大学病院の専門医に紹介させていただく場合もあります。

肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症に対しては、下肢静脈エコー、静脈造影、心エコー、マルチスライスCT、肺血流シンチ、肺動脈造影などを使用して、正確な診断と適正な治療(抗凝固療法、血栓溶解療法、回収可能型下大静脈フィルター留置術など)を行っております。

大動脈疾患に関しては、当院の血管外科との綿密な連携により、迅速かつ最も安全で確実な治療を提供しています。

以上、循環器疾患は緊急性が高いため、当科は24時間、365日体制で複数の医師が当直または待機にて診療させていただいております。当院にかかりつけの患者さんのみならず、近隣遠隔を問わず、他医、他院よりの紹介患者さんにおいても病診連携の意味から、幅広く対応させていただいております。

◆入院疾患の概要

疾患名	事例数
狭心症	238
心不全	287
急性心筋梗塞	73
慢性虚血性疾患	141
肥大型心筋症	9
拡張型心筋症	6

◆主疾患を含む治療成績

冠動脈造影総数 498 例

経皮的冠動脈形成術数 159 例

初期成功率 98% (157/159 例)

ステント挿入 152 例 (内 薬剤溶出ステント 139 例)

POBA (拡張のみ) 5 例

ペースメーカー植え込み術 23 例(新規 22 例 交換 1 例)

◆主疾患プロトコール

冠動脈造影検査 経皮的冠動脈形成術 急性心筋梗塞

急性大動脈解離 ペースメーカー植込み・電池交換

呼吸器科

主な疾患について記します。

<肺癌>

がん拠点病院の指定を受け、肺癌に対する集学的治療を最大のテーマとしています。患者さんの人間性を尊重し、病名はもちろん、病状、治療法、予後についても患者さんご本人及びご家族に説明し、理解していただいたうえで、一緒に癌と向き合う姿勢をとっています。たとえ進行癌や高齢者であっても、本人の治療希望があり、化学療法に耐えうるところが判断した場合には、延命を目指して積極的に化学療法を行っています。また生活の質を重視し、外来化学療法を推進することで、入院日数の短縮や在宅期間の延長に努めています。局所麻酔下胸腔鏡や超音波気管支鏡導入により診断率もさらに向上してきています。

<気管支喘息>

急性期病院として大発作による呼吸不全に対しては、人工呼吸管理を含む集中治療を行っています。慢性安定期には吸入ステロイドを主体とした治療とピークフローメーターや喘息日記を用いた自己管理指導を行っています。

<慢性閉塞性肺疾患 COPD>

かつて肺気腫と呼ばれていた「タバコ病」です。長時間作動型吸入抗コリン薬などによる治療や呼吸リハビリテーションにより労作時息切れなどの改善を目指します。重症例には在宅酸素療法や在宅人工呼吸管理を行っています。また、本疾患は肺炎併発リスクが高く、インフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチンによる感染予防を推奨しています。急性増悪による呼吸不全にはマスク型人工呼吸器を用い救命を目指しています。

<肺炎>

抗生物質の進歩した現在においても肺炎は日本人の死因の第4位であり、高齢者や進行した慢性疾患を有する患者さんにおいてはしばしば致命的となります。当科では学会ガイドラインに基づいた正確な肺炎重症度評価を行ったうえで治療を行っています。その一方、非高齢者や基礎疾患のない患者さんに対しては、不要な入院は避けて経口抗菌薬による通院での治療を推奨しています。

<その他、留意していただきたいこと>

1. 気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患などの慢性疾患については、その増悪時には管理・治療を行います。急性期を過ぎれば地域の開業医さんを紹介させていただいておりますので、ご理解をお願いいたします。
2. 当院には結核病棟がありませんので、排菌性結核の方は他病院を紹介させていただくことになります。
3. 睡眠時無呼吸症候群に関しては、検査機器の関係でスクリーニング検査しか行っていません。
4. 禁煙外来は開設していません。
5. 訪問診療はおこなっていません。

◆平成 21 年入院疾患の概要

疾患名	事例数	備考
肺癌	278例	
肺炎	208例	31例はCOPD
慢性閉塞性肺疾患 COPD	91例	
自然気胸	55例	
間質性肺炎	24例	
気管支喘息	37例	

◆主疾患（悪性疾患）を含む治癒成績（5年生存率など）

肺癌は治療成績がよくない癌の一つです。長年の喫煙で肺機能が損なわれている高齢者に多いことや、進行例での発見が多いことなどが、その理由です。

手術可能例は呼吸器外科にて手術を行っていますが、手術不能進行例や術後再発例は当科にて化学療法や放射線照射を行っており、平均を上まわる治療成績を出しています。

◆主疾患治療プロトコール（クリパスを含む。）

クリニカルパス

- 1) 呼吸リハビリテーション：対象は慢性閉塞性肺疾患。12日間。
- 2) 睡眠時呼吸検査：1泊2日。スクリーニングのみ。

◆その他

当科は日本呼吸器学会および日本呼吸器内視鏡学会の認定施設です。
また、日本アレルギー学会の準認定施設でもあります。

消化器科

◆診療方針

消化器科は消化器疾患全般について診療しております。

胃十二指腸潰瘍に対して、内視鏡的止血術、ピロリ菌感染の診断と除菌治療。また、消化管悪性腫瘍に対して、内視鏡検査を中心に、早期診断・内視鏡的治療・外科手術が必要な場合は外科との連携による的確な紹介を行っています。

また、B型あるいはC型肝炎ウイルスによる慢性肝炎、肝硬変に対するインターフェロンによるウイルス排除、肝癌に対する動脈塞栓術・リザーバ動注療法を行っています。またラジオ波焼灼療法や肝移植が適応となる患者様については三重大学病院等と密に連絡をとり適切に御紹介させていただいています。

今後は、消化器癌の症例増加を踏まえて、これまでの治療方針に加えて、さらに、大腸内視鏡検査数の増加・超音波内視鏡検査による癌診断の充実・進行癌に対する抗癌剤治療さらに、末期癌症例に対する緩和医療などにも取り組んでいきたいと考えています。

◆平成21年診療実績

肝癌	124
大腸ポリープ	105
胆石症	92
胃癌	36
胃・十二指腸潰瘍	91
腸閉塞	152
炎症性腸疾患	20
胃腸炎	45
消化管出血	35
食道静脈瘤	22
食道癌	17
大腸癌	30
胆膵癌	45
肝硬変・肝不全	78

◆主疾患治療プロトコール

胃・大腸ポリペクトミークリパス

ウイルス肝炎に対するインターフェロン治療クリパス

肝癌に対する動脈塞栓術、エタノール局注、ラジオ波焼灼療法のクリパス

食道静脈瘤内視鏡的治療クリパス

などがあります。

◆その他

平成 21 年年間消化器検査及び処置施行数（下記は当院全体の施行数です）

上部消化管内視鏡	2,371 例
上部消化管内視鏡的ポリープ切除術	5 例(うち ESD 2 例)
食道静脈瘤硬化療法/結紮術	18 例/17 例
下部消化管内視鏡	1,064 例
下部消化管内視鏡的ポリープ切除術	218 例
超音波内視鏡	13 例
内視鏡的逆行性膵胆管造影	310 例
内視鏡的胃ろう造設術	73 例

神経内科

診療方針（特徴）

神経内科は「内科的な神経疾患」を中心に診療を行います。

脳卒中を始め、頭痛、めまい、手足のしびれなど日常的な症状から、筋肉・末梢神経の疾患やパーキンソン病・脊髄小脳変性症・多発性硬化症・痴呆症などの各種変性疾患や専門疾患などを担当します。

CTやMRIなどの画像検査を始め、神経の機能を調べる神経生理検査や高次脳機能検査などの専門検査での評価・治療を行います。

特殊治療では、眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸へのボツリヌス局所療法も行っています。脳卒中に対しては、当院では脳卒中ユニットによるチーム医療を特徴とし、脳神経外科との合同診療を行っています。

◆主疾患を含む治療方針と概要

- ・ **脳卒中**：脳神経外科との合同チーム医療(脳卒中ユニット)を形成。
年間 200 から 250 人、主に虚血性脳血管障害中心に担当
毎日 24 時間迅速なる対応が可能としています。急性期脳血管障害の判定を行い、可能例には血栓溶解療法を始め、最適な治療方法を選択し加療を行います。
- ・ **超急性期加療**：脳梗塞発症 3 時間以内の超急性期加療として当院では脳卒中学会ガイドラインに基づき t-PA を用いた加療を行っており、その症例数は常に県内では上位に位置しています。
- ・ **ボツリヌス局所療法**
眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸に対しての局所注射療法
短時間で外来で可能。併行して頭蓋内画像検査、神経生理検査で評価を施行
年間 50 人から 70 人ほど施行
研修医にも研修中に資格取得してもらっております。
- ・ **変性疾患**：代表的なパーキンソン病で毎年、新規診断例が 10-15 人ほど見つかри、50 - 60 例が通院加療中。地域の医療機関と連携し在宅医療も充実させ、必要例にはレスパイト入院も受け容れている。
- ・ **認知症**：専門外来を設置し、病型診断、初期加療の開始を行い、在宅医療に向け地域医療機関と連携パスを作成中

◆主疾患治療プロトコール

- ①脳梗塞：三重脳卒中医療連携研究会の急性期基幹病院として登録され、統一連携パスを使用。
- ②眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸：ボツリヌス局所注射療法
- ③物忘れ外来：水曜日に専門外来、必要例に精査入院
- ④多発性硬化症へのインターフェロン導入コース
- ⑤γグロブリン大量療法(IVIg 療法)
- ⑥他

日本内科学会認定医 2 名・指導医 1 名

日本神経学会専門医常勤 2 名・指導医 1 名・非常勤 1 名

日本脳卒中学会専門医 1 名

日本臨床神経生理学会認定医 1 名

日本神経学会教育関連施設

日本脳卒中学会研修教育病院 指導医 1 名

ボツリヌス施行有資格者 当科 2 名

◆その他

逆紹介制度：基本的に外来・入院を問わずに、病状が安定した後にはかかりつけ医の医療機関へ逆紹介させていただきます。

外科

常勤 9 人、研修医 2~3 人で消化器疾患、乳腺疾患を中心に外科診療に携わり、平成 21 年の全手術症例は 573 例となっています。

特徴：

消化器癌の治療は個別化医療の臨床応用など著しい進歩を認め、当科も日々積極的に治療を更新しています。その中でも直腸癌は集学的治療が発展している分野であり、三重大学消化管・小児外科学講座との連携により、当院の放射線治療医の指導のもと、術前化学放射線療法を施行し癌腫を縮小させ、局所再発の軽減をはかり肛門を温存する治療を実施しています。個々の患者さんの病態に応じた治療であり大変好評です。肛門括約筋の温存術(ISR)も癌の位置や大きさ、深達度により可能です。

さらに当科では胃癌、大腸癌、胆石症、虫垂炎、腸閉塞、副腎腫瘍を対象に、腹腔鏡下手術を積極的に行っており、平成 20 年では 168 例と昨年比 20%増加しています。結腸癌は第一選択が腹腔鏡下手術です。上述した直腸癌の術前化学放射線療法後に腹腔鏡下手術を施行することも実施しています。胃癌も腹腔鏡下胃切除を積極的に行っており、術後機能を重視し幽門保存胃切除術も腹腔鏡下で施行しています。胆嚢炎では、炎症の程度、開腹の既往の有無にかかわらず全例腹腔鏡下手術の適応とし、開腹移行率は 1%前後と良好な結果をおさめています。総胆管結石症には、消化器内科医と共同で腹腔鏡下胆嚢摘出術と同時に内視鏡下で総胆管結石を採石する「ランデブー・メソッド」を取り入れています。虫垂炎の腹腔鏡下虫垂切除は、在院日数の短縮のみならず遺残膿瘍、創感染の軽減などの大きなメリットを認めています。

乳癌治療では、乳房温存療法、センチネルリンパ節生検による腋窩リンパ節郭清省略をとり入れ、毎年症例数が増加しています。さらに術前化学療法により乳房温存率が向上し、手術の縮小化がはかられています。

抗癌剤治療は外来化学療法室にて通院で行い、各癌腫の術後(術前)化学療法のほか、進行再発癌に対する QOL 改善、延命を目指す治療を行っています。月 1 回の化学療法安全運営会議をもち、治療レジメンの吟味・処方内容の院内統一を行い、一定の安全管理システムと適切な支持療法のもとに実施されています。

緩和ケアは、緩和治療医 2 名、薬剤師 1 名、看護師 2 名、臨床心理士 1 名にて構成される緩和ケア・チームが週 2 回の外来と院内回診を行い、精神的・肉体的・社会的緩和のための支援を行っています。

◆手術症例の概要

県立総合医療センター 手術内訳 2009年

疾患名	症例数
食道癌根治術	7
食道良性手術	2
胃十二指腸良性手術	10
胃十二指腸悪性手術	55
イレウスを除く小腸手術	16
イレウス手術	19
虫垂炎手術	40
大腸肛門悪性根治術	85
大腸良性手術	16
肛門良性手術	19
胆道良性手術	61
胆道悪性手術	4
肝切除術	10
膵良性手術	2
膵悪性腫瘍根治術	2
門脈、脾手術	2
乳癌根治術	61
乳腺良性手術	14
甲状腺手術	0
外傷手術	7
ヘルニア手術	86
その他	55
計	573

◆主疾患（悪性疾患）を含む治癒成績

- 術後 30 日以内の死亡症例は 6 例（直腸癌による穿孔性腹膜炎手術、虚血性大腸炎による穿孔性腹膜炎手術、外傷性下大静脈損傷、上行結腸悪性リンパ腫の試験開腹術[原病死]、術前から DIC を認めた絞扼性イレウス手術、食道癌末期の緩和的絞扼性イレウス手術）。
- 胆嚢摘出術は 61 例中 59 例を腹腔鏡下で施行し開腹移行は 0 でした。
- 胃癌、大腸癌、虫垂炎、イレウス手術など多くの症例で腹腔鏡下切除を施行しています。

◆主疾患治療プロトコール

主疾患治療プロトコール（クリニカルパスによる術後入院期間）

胃癌	胃全摘術	術後 14 日間
	幽門側胃切除術	術後 12 日間
大腸癌	大腸癌手術	術後 10 日間
乳癌手術	乳房切除又はリンパ節廓清を伴う手術	術後 7 日間
	乳腺部分切除かつセンチネルリンパ節生検	術翌日退院（2泊3日）
	腹腔鏡下胆嚢摘出術	術後 3 日間

◆その他

当科は日本外科学会・日本消化器外科学会の専門医修練施設、日本乳癌学会専門医制度関連施設、大腸癌研究会の会員施設に認定されています。

救命救急センターに外科医が1名（日本救急医学会救急科専門医）常勤し、救急診療体制が確立しています。

心臓血管外科

1. 心臓血管外科の診療内容

心臓とは人の胸の中にあり、収縮と拡張を規則正しく行うことで、血液を全身に送り続けている臓器です。心臓から送り出される血液によって、全身の臓器は酸素や栄養分を受け取ることができるのです。心臓から送り出される血液は酸素を十分含んだ血液(動脈血)で、動脈を通過して全身の臓器に送られ、全身の細胞を養います。役目の終わった血液は静脈血として静脈を通過して心臓に戻ってきます。血液にとって動脈は行き道、静脈は帰り道となります。心臓は、この血液を全身に送るために規則正しく、常に休むことなく動き続けます。1分間に約60-80回、1日におよそ10万回、1年では約4000万回、一生には約30億回も収縮と拡張を繰り返し、全身に血液を送り続けます。心臓は一回の収縮で約70ミリリットルの血液をおくりますので、一分間で約5リットル、一日で約7000リットルの血液を全身に送り続ける事になります。人が生まれてから、心臓は休むことなく血液を送り続け、血液の通り道である動脈と静脈は、この血液の流れを受け止め続けるわけです。この心臓と血管を含めて血液を全身に送る体のシステムを総称して「循環器」と言います。この様に常時大変な仕事をしている心臓と血管「循環器」ですので、機能障害が起こらない事のほうがむしろ不思議な事とさえ言えます。

最近よく耳にする「メタボリックシンドローム」と言う言葉をご存じの方は多いのではないかと思います。それは動脈硬化性疾患の危険性を高めるリスク症候群で、内臓脂肪蓄積に加え、脂質代謝異常(高脂血症)、高血圧、高血糖(糖尿病)を伴う病態です。いわゆる「生活習慣病」でもあり、主に生活習慣や環境・体質などによって症状もなく徐々に進んでいき、「動脈硬化」という血管の病気を通して、心臓や血管、すなわち循環器の大変な病気を引き起こしてしまいます。循環器は、人間のすべての臓器を養っている大切なシステムですので、循環器系に障害が出ることで、心臓だけでなく他の臓器例えば、脳や腎臓といった全身のあらゆる臓器の病気も引き起こしてしまう事も大きな問題とされています。循環器疾患は実に多様性に富んでおり、内科的治療のみでは対応できない病気も多い事がわかってきています。私たち、心臓血管外科ではその名の通り、心臓と血管の機能障害を外科的に治療することを専門としております。

私たちの心臓血管外科は、三重県立総合医療センターが開設された1994年10月に発足しました。循環器病の全身状態に最大限の配慮をした「体に優しい外科治療」をモットーに治療に当たっています。手術そのものが体に与える負担を医学用語で「手術侵襲」といいますが、私たちはこの手術侵襲を最小限に抑えた「低侵襲心臓手術」に取り組み、心臓から全身の血管(脳血管は除きます)まで広い範囲で診療を行っています。

病気に対する戦いは、病気に対する正しい理解から始まります。「心臓・血管がおかしいかな」と気になる方は、是非お気軽に当科までご相談ください。電子メールでのご相談や、いわゆるセカンドオピニオンに関するご相談にもお答えします。心臓血管外科・近藤宛で、当院に電子メールをお願いします。アドレスは sogohos@pref.mie.jp です。

私たち心臓血管外科は機能を再建する外科で、術前より良い状態にすることを目的として取り組んでおります。高い安全性と洗練された質の高い心臓血管外科治療を推し進め、

皆様の日常生活のレベルアップに貢献できるように努力いたしますので、お気軽にご相談下さい。

2. 体に優しい心臓手術

従来の心臓手術といえば、人工心肺装置(人工の肺で血液を酸素化し、心臓の代わりにポンプで血液を全身に送り出す装置)を用いて、心臓を止めて行なうため、体や心臓に負担の大きい大変な手術というのが常識でした。心臓に病気を持っている人は、心臓をはじめ全身の臓器に機能障害をもっている事が多く、患者さん本人にとってはますます負担と危険性の高いいわゆる「命がけの手術」となっていました。当施設では、冠動脈バイパス手術におきましては、人工心肺装置を使わず心臓も止めずに行う「体に優しい低侵襲心臓手術＝オフポンプ手術」に早くから取り組んできました。ご高齢のかたや脳梗塞・腎不全・糖尿病といった全身臓器の障害を持った患者さんにとっては特に有用な手術法です。

3. 冠動脈バイパス手術について

心臓を養っている冠動脈という血管が動脈硬化で細く狭くなると、十分な血液が心臓に行き届かなくなり、狭心症という病気を引き起こします。さらに冠動脈が詰まると心臓の筋肉が腐ってしまう心筋梗塞という病気を引き起こします。冠動脈バイパス手術は、この冠動脈が細く狭くなったり詰まったりした部位を飛び越えて、血液の新しい通り道をつける手術の事です。古くて痛んだ狭い道路はそのままにして、新しくバイパス道路を建設して、交通の便が良くなることと同じと考えていただければご理解いただけると思います。狭心症や心筋梗塞の患者さんに対して行う手術で、心臓の手術では最も多く行われている手術です。日本では年間に約 15000 人の人に行われています。

従来、心臓手術は人工の心臓や肺である人工心肺装置を使って、心臓を止めて行うのが常識でした。一方 2000 年頃より、心臓の表面の冠動脈に行うバイパス手術では、体に対する負担を軽減し安全性を向上させるため、人工心肺装置を使わず心臓も止めずに行う「心拍動下低侵襲冠動脈バイパス手術」が新しい手術法として登場してきました。人工心肺装置(ポンプ)を用いないためオフポンプ手術とも言います。この手術は「体にやさしく安全性が高い」と言う大きなメリットがある一方で、心臓を止めずに動かしたまま手術を行うため、質の高い結果を得るためには、高い手術スキルはもちろんのこと、麻酔を含め洗練された手術環境・チームワークが必要です。当科では早くからこの「オフポンプ冠動脈バイパス」に取り組み、多くの実績をあげてきました。

当科では冠動脈バイパス術にはオフポンプ手術による完全血行再建を第一選択としております。体外循環を用いず、心臓も止めないため、手術による身体への負担が軽く、脳血管障害、呼吸機能障害、腎機能障害などの合併症を有する患者さんや、高齢者でも、より安全に術後合併症を起こすことなく手術が可能となっております。最近では手術適応患者さんの高齢化もあり、大動脈～頭頸部動脈の動脈硬化の強い患者さんが増え、術中脳梗塞合併の危険性が高くなっておりますが、オフポンプ手術を第一選択とした 2002 年 6 月から現在まで、術中脳梗塞はゼロを維持しております。また、自己血輸血(詳細は後述)のみで手術可能で、手術翌日から食事もでき、入院期間も短くなりました。2010 年 5 月まで

で、緊急手術も含めた全単独冠動脈バイパス術患者さんの93.0%で、待機手術では98.1%でオフポンプにて手術を行っております。

バイパスに用いるグラフトは、遠隔成績が良好である(長持ちする)内胸動脈を主に、多くの患者様に動脈グラフトを用いております。何らかの理由で動脈グラフトが用いられない場合は静脈グラフトを用いております。しかしこの2-3年は重症例が多く(年々増加傾向にあります)、静脈グラフトを用いる場合も増加しているのが現状です。

4. 心臓弁膜症の手術について

心臓は4つの部屋、左心房・左心室・右心房・右心室を持っています。左右の心室は血液を勢いよく送り出すために、入口と出口には弁と呼ばれるものがついており、血液の流れが一方向に進み、戻ってこないようにする働きがあります。この弁の機能に障害を来した状態を弁膜症といいます。具体的には弁がきちんと閉まらなくて、血液が逆流してしまう「閉鎖不全症」と、弁の開きが悪くなり血液の通りが悪くなる「狭窄症」があります。中でも全身に血液を送り出す左心室の入口と出口にある弁、それぞれ僧帽弁、大動脈弁と言いますが、これらの機能障害がひどくなった場合には手術が必要となります。この弁膜症に対して、私たちは、弁病変の形や心臓の機能・患者さんの状態に応じて、一人一人の患者さんに最も適切な手術法を選択し提供いたします。

僧帽弁疾患では、自己弁を温存する形成術を第一選択とし、さらに心房細動を有する患者さんでは、積極的に不整脈手術(MAZE 手術)を追加し、抗凝固不要を目指しております。そして飲み薬をできる限り少なくし、手術後の生活のレベルアップを図っています。

大動脈弁疾患では、人工弁置換術が基本となります。術後抗凝固が不要な生体弁を用いるか、半永久的な耐久の機械弁を用いるかは、患者さんの年齢、合併疾患の有無等を考慮し、患者さんと相談の上決定しております。

5. 大動脈疾患の手術について

大動脈とは全身へ血液を送る最も太い動脈です。心臓から出て頭の方へ向かい、胸の上部でUターンして胸の中を下半身へ向かって走行します。そして、横隔膜を貫通しお腹にはいり、お臍(へそ)の下あたりで左右の脚(あし)に向かうように分岐します。

手術が必要になる大動脈の病気の中で、最も多いのが大動脈瘤です。大動脈瘤とは読んで字の如く大動脈が「瘤(こぶ)」状に徐々に膨らむ病気です。これは、動脈硬化+高血圧症が主な原因です。動脈硬化を促進する因子=高血圧症、糖尿病、高脂血症(高コレステロール血症)、喫煙、肥満等をお持ちの方は、持っていない人に比べ、大動脈瘤になる危険性が高くなります。

多くは無症状で、いつの間にか大きくなり、他の疾患の精査で偶然発見されることが多いです。腹部大動脈瘤の場合は、お腹を触った時に、偶然に脈を打っている腫瘤として発見されることもあります。なかには、ご自身で拍動する腫瘤として自覚していても、痛くも何ともないので放置していて、たまたま医師に相談して発見されるというケースもあります。

また、肥満の方(お腹がぼっちゃりしている方)では大きくなっていても、触診で全く拍動

がわからないことも多いです。胸部大動脈瘤は外から触ってわかることはありません。

大動脈瘤が破裂するような大きさになるのには数年以上かかりますが、症状が出ないため見つけにくいという難点があります。つまり、破裂しない限りはっきりとした症状は認めません。しかし、一旦、破裂すると痛みと同時に体内に大出血を起こすため、出血性ショックとなります。破裂した場合は、救急車で病院にたどり着く前に絶命する可能性が高い病気です。

手術は大動脈瘤を切除し人工血管に置き換える(置換する)人工血管置換術が一般的で確実です。最近では大動脈瘤のある部位の大動脈内にカテーテルを用いてステントグラフトというパイプを留置し、膨らんだ部位への血流を遮断して破裂を防ぐ治療法もあります。しかし、大動脈瘤の位置や形態で適応される症例は限られます。また腹部大動脈瘤では手術自体が危険と考えられる高齢者や重い合併疾患のある方が基本的な適応となります。確実に耐久性に優れているのは手術による人工血管置換です。尚、現時点ではステント治療は限られた施設でしか行えず、当院では行えませんので、適応症例は紹介しております。

動脈硬化が原因で起こる大動脈瘤症例では、全身の他の動脈にも病変がある場合が少なくありません。脳梗塞の原因となる脳動脈硬化症・頸動脈狭窄症、心臓を養う冠動脈の硬化が原因の心筋梗塞・狭心症、下肢の血行障害となる閉塞性動脈硬化症などを合併します。当院では大動脈瘤の待機手術の患者様全例に、上記合併疾患の有無とその治療の必要性を評価し、安全な手術治療が行えるようにしております。実際、胸部大動脈瘤手術と冠動脈バイパス術を同時に行った患者さんや、冠動脈バイパス術を行ってから腹部大動脈瘤の手術や下肢の血行再建術を行った患者さんも多数おみえです。

急性大動脈解離や大動脈瘤破裂では、救命には手術治療が不可避であり、可能な限り緊急対応しております。

6. 末梢動脈疾患の手術について

下肢の血行障害に対する手術を行っています。最も多い病気は、両脚へ血液を送る動脈が動脈硬化で徐々に狭くなり、ひどい場合は詰まってしまい、下肢への血流が不十分になる病気で、閉塞性動脈硬化症と言います。足が冷える、歩くとふくらはぎが張って痛くなり、休まないと歩けないという症状(間欠性跛行と言います)が典型的です。さらにひどくなると足先が壊死に陥る場合もあります。喫煙は症状を悪化させる大きな要因で、まずは禁煙することが重要です。

手術は血行再建術で、自家静脈グラフトまたは人工血管を用いてのバイパス術を行います。血行障害がなくなると、足は温かくなり、歩行障害もなくなります。

7. 静脈疾患の手術について

静脈は体の端から心臓に血液が戻る帰り道です。人が立った状態では、下肢の静脈血は重力に反して上へ上へと流れなければなりません。そのため静脈には逆流しないように弁が付いていますが、この弁が壊れてしまい、静脈血がうっ滞して下肢の静脈が腫れる病気を下肢静脈瘤と言います。特に立ち仕事をしている方では、時間が経つにつれ(夕方になると)脚がだるくなり、むくみがひどくなり、痛みを伴うこともあります。ひどい場合はうっ

血により足首近くに色素沈着や潰瘍形成を来たす場合もあります。

軽症の場合は弾カストッキング着用をお勧めしております。当科外来では脚のサイズ(太さ)を測定し、ストッキングの適切なサイズの指導をしております。

中等症以上の方や見た目が軽症の方でも症状が強い方は手術治療を行っております。女性の場合、美容的な観点から手術を希望される場合もあります。手術は原因となる静脈の抜去を基本術式としており、ひどい静脈瘤はそのものも切除して再発を予防しております。尚、当院ではレーザー治療は行っておりません。

8. 無輸血手術について

予定手術の場合、患者さん自身の血液を前もって採取して病院内に貯めておき、手術の時の輸血は自分の血液でまかなうという「自己血輸血」を積極的に行っております。この自己血輸血は、他人の血液を輸血することに伴う合併症や副作用を防ぐ意味で、非常に有効な輸血方法です。冠動脈バイパス術や弁膜症の手術では原則として800mlの自己血を貯めて手術に臨み、その結果、他の人からの輸血を受けることなく退院していただいております。現在、自己血を前もって採取可能であった患者様の多くの方で、自己血輸血のみで経過しております。

以上、私たち心臓血管外科は、機能を再建する外科で、術前より良い状態にすることを目的として取り組んでおります。地域の皆様の日常生活のレベルアップに貢献できるように努力いたしますので、お気軽にご相談下さい。

◆入院手術症例の概要（平成21年1月1日～平成21年12月31日）

疾患名	例数	平均入院期間(術後入院日数)	
虚血性心疾患	30	26.1	(19.1)
弁膜症・先天性心疾患等	24	29.4	(23.3)
大動脈疾患（胸部）	12	37.3	(26.6)
大動脈疾患（腹部）	19	22.5	(15.1)
末梢動脈疾患	22	18.3	(14.0)
静脈疾患	16	7.6	(5.5)

術後入院日数は糖尿病などの持病や合併症の治療も含めた日数です。ちなみに虚血性心疾患で術後の心臓カテーテルを済ませて外科的治療が終了し、退院可能な状態となった術後日数は平均15.7日でありました。胸部大動脈疾患緊急手術の患者さんでは、合併症のため入院治療が長期化する場合があります、平均在院日数が長くなります。

◆ 主疾患の治療成績（平成21年1月1日～平成21年12月31日）

1) 単独冠動脈バイパス術：27例

- ・ off pump 手術：25例（92.6%）
- ・ 平均バイパス本数：2.9本/人
- ・ 緊急手術：2例（7.4%）、準緊急手術：4例（14.8%）
- ・ グラフト開存率：94.8%（73/74本）
- ・ 死亡：1例（緊急例1）

2) 大動脈瘤手術：31例

- ・ 胸部：12例
 - 死亡：2例（急性解離1）
- ・ 腹部：19例
 - 死亡：2例（破裂2）

呼吸器外科

私たちの呼吸器外科は、三重県立総合医療センターが開設された1994年10月に発足しました。当科では、肺癌、気胸、炎症性肺疾患、膿胸、悪性中皮腫、縦隔腫瘍、手掌多汗症、胸部外傷等、呼吸器外科全般にわたる手術を行っています。

これらの中で、最も多く行われる肺癌の手術は、日本では1年間に約26000人に行われています。肺癌の標準手術は病巣のある肺葉（人間の肺は、右は3つの肺葉、左は2つの肺葉に分かれています）と病巣の転移経路であるリンパ節を切除することです。手術のアプローチ方法には開胸手術と胸腔鏡手術があります。開胸手術の利点は直視下に質の高い手術が行えることにありますが、傷がやや大きくなるという欠点があります。また、開胸器にて肋骨と肋骨の間を開大するため痛みも大きくなります。胸腔鏡手術は傷が小さく痛みが少ない利点がある半面、出血した場合の対処が不十分といった欠点を指摘されています。当科では癌の根治性と手術の安全性を確保するために、12cm前後の皮膚切開で行う開胸手術を標準術式としてきましたが、胸腔鏡手技の習熟に伴い2009年から創のサイズを縮小。5～10cmの小切開と胸腔鏡を併用したいわゆる胸腔鏡補助下手術(Hybrid手術)を開始しました。さらに、2010年よりリンパ節への転移がないと判断した臨床病期I期の症例に対しましては5cm程度の小切開と2つの穴で行う完全胸腔鏡下手術を導入しました。

一方で近年、CT等の画像診断装置の進歩により肺の末梢に存在する小さい肺癌が発見される頻度が増加してきました。これらの末梢小型肺癌に対しては肺の切除範囲を小さくしても（区域切除：癌病巣を肺葉がさらに細かく区画された区域単位で切除する）予後が変わらないという報告がみられるようになってきました。肺の切除範囲が少なれば少ないほど呼吸機能が温存されるため、当科でも2cm以下の末梢小型肺癌に対しては、患者さんの同意を得たうえで区域切除を積極的に行っております。

気胸の手術は、日本では1年間に約12000人に行われています。当科では胸腔鏡手術により痛みを和らげ早期の社会復帰ができるように努めております。

炎症性肺疾患、膿胸等に対する手術は、患者さんのQOL（生活の質）が保てるような手術を行うよう努めています。

前述の如く当科では、呼吸器外科のあらゆる疾患に対する手術に対応しています。総合病院の特徴を最大限に利用し、他科との協力のもと、進行肺癌に対する拡大手術や合併症を有する患者さんに対する手術も積極的に行っています。さらに呼吸器内科と密に連携して初診から手術までの期間を短縮するよう努め、肺癌や悪性中皮腫に対する集学的治療（手術、化学療法＝抗癌剤治療、放射線治療等を併用して行う治療）も積極的に行っています。

以上、私たち呼吸器外科は、地域の皆様の健康に貢献できますよう努力いたしますので、お気軽にご相談下さい。

◆入院手術症例の概要（平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日）

患名	例数	平均入院期間(術後入院日数)
肺癌（原発性＋転移性）	41	19.4 (15.4)
肺癌・気胸以外の肺疾患	19	17.1 (13.8)
縦隔腫瘍・その他の縦隔疾患	8	17.3 (13.4)
自然気胸	5	18.5 (15.5)
	13	7.5 (5.2)

◆主疾患の治療成績（平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日）

原発性肺癌手術：46 例

- ・完全切除　：42 例（88.9%）
- ・非完全切除： 4 例（11.1%）
- ・死亡　　： 0 例（ 0.0%）

他の肺疾患手術：37 例

- ・死亡　　： 0 例（ 0.0%）

脳神経外科

頭部外傷、脳血管障害などの救急疾患にたいする迅速な診断、治療はもちろんのこと、脳腫瘍や頸椎、腰椎の変性疾患（椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、後縦靭帯骨化症）を中心に治療をおこなってきました。最近では、虚血性脳血管障害（脳梗塞）の患者に対する、t-PAの急性期静脈投与による治療や、血行再建術などの積極的な治療が増えてきております。また、特殊外来として脊椎・脊髄外来を開いており、脊椎、脊髄疾患の手術症例が増えております。

◆入院疾患の概要

年間手術総数 226例

主な手術内訳		事例数
脳腫瘍		22例
脳血管障害	脳動脈瘤	23例
	脳動静脈奇形	1例
	頸動脈内膜剥離	11例
	バイパス手術	5例
	高血圧性脳内出血	開頭血腫除去術 27例 定位手術 15例
外傷	開頭術	1例
	穿頭術（慢性硬膜下血腫）	21例
水頭症手術		21例
脊椎・脊髄	脊髄腫瘍	4例
	変形性脊椎症	16例
	椎間板ヘルニア	11例
	後縦靭帯骨化症	2例
	外傷	17例
血管内手術		3例
機能的手術（頭蓋内微小血管減圧術）		2例

◆その他

地域医療に対しては、救急患者の積極的な受け入れのみならず、早期のリハビリテーション、早期の退院およびかかりつけ医師への紹介を心がけております。

高齢者に対しても、＜生活の質＞の向上を目指して、積極的な手術治療をすすめております。平成20年8月からは脳卒中患者における地域連携クリニカルパスの運用開始により、急性期を経過した患者様のすみやかな回復期リハビリテーション施設への移行などをはかっております。

小児科

地域周産期母子医療センターの指定を受け、北勢地区基幹病院としての小児医療を目指しております。

以下に各部門の概略を記し、皆様方のご批判、ご教示を賜りながら県立病院として、地域医療のみならず、三重県全県にわたる小児医療に貢献すべく精進します。

1) 周産母子センター（3階東病棟）

本院開院時に県下で初めてNICU（未熟児新生児集中治療室）の認可を受け、多くの未熟児および病的新生児の診療が行われています。退院後のフォローは未熟児新生児専門外来（通称すくすく外来）にて発達のフォローを行っております。

2) 小児科病棟（3階西病棟）

感染症等の一般小児疾患に加え、精査を必要とする各種疾患に対応しております。重篤な急性疾患については当院に設置されている救命救急センターと連携をとり集中治療を行います。また、特殊疾患にて精査を要する患者さんについては、県内外の各分野の専門医と連携を取りながら診断治療を行います。

3) 外来診療

一般の急性期疾患等に加え、心疾患、神経疾患（てんかん等）、アレルギー疾患、内分泌疾患等の専門性の高い疾患については、一般外来とは区別して院外からの専門医の協力を受け、専門外来を開設しております。

4) 救急外来

当院は本来は2次、3次救急を担うべき施設ではありますが、小児救急の特殊性、必要性を考慮して対応しております。特に、紹介いただいた患児の場合は原則24時間お断りすることなく対応させていただいております。

産婦人科

当科では、産婦人科疾患全般を診療対象としていますが、地域がん診療連携拠点病院および地域周産期母子医療センターの指定を受けています。婦人科悪性腫瘍の治療、ハイリスク妊娠の治療、腹腔鏡手術を中心に診療を行っています。

◆ 平成21年診療実績

入院疾患の概要

疾患名	事例数	備考
産科手術（帝王切開）	138例	
ハイリスク分娩	186例	全分娩数 398例
婦人科手術	454例	腹腔鏡手術を含む
内視鏡手術	205例（腹腔鏡 164例）	

主疾患（悪性疾患）を含む治癒成績

子宮頸部悪性腫瘍	59例（上皮内癌を含む）
子宮体部悪性腫瘍	24例
卵巣悪性腫瘍	12例
その他婦人科悪性腫瘍	2例

主疾患治療プロトコール（クリパスを含む。）

婦人科癌化学療法 卵巣癌・子宮体癌を中心に、3週1回投与を基準にして3日間入院コースをクリパスで運用しています。また外来化学療法を積極的に行っています。

腹腔鏡手術 19年度から婦人科疾患の腹腔鏡手術を積極的に行っています。

手術実績

腹式単純子宮全摘術	45例	腹式良性卵巣腫瘍手術	35例
膣式単純子宮全摘術	9例	腹式悪性卵巣腫瘍手術	12例
準広汎子宮全摘術	12例	子宮外妊娠手術	10例
広汎子宮全摘術	8例	円錐切除術	94例
腹腔鏡手術	164例	子宮鏡下手術	41例

◆ その他

高齢化に伴う疾患として子宮脱、子宮下垂の症例が増加傾向にあり、保存的治療（外来）・手術（入院）を行います。21年は9例の根治術を行いました。

整形外科

隔日に定期検討会を開き、各患者さんごとに、原因、症状、経過、種々検査結果、そして治療法と予測される治療結果につきスタッフ全員で検討した上で、患者さんの希望を第一とし、可能な限りより侵襲が少なくかつ最も効果的な治療法を選択しております。

◆入院疾患の概要

入院患者数：864名 紹介患者数：691名 手術総数：884例

疾患名	事例数
四肢骨折手術	367例
人工関節置換術	83例
関節鏡視下手術	259例
断裂靭帯形成術	36例

◆治療の実際

骨折：骨折の状態により種々最新の手術方法を積極的に採用し、早期社会復帰を目指しております。また、患者さんの希望によっては、治療結果に影響のない範囲で、保存的治療や外来での手術も行っております。

変形性関節症：高齢化社会に伴い、変形性関節症は増加傾向にあります。当院では専用の無菌室(クリーンルーム)での人工関節手術や人工関節を用いない骨切り術を中心に組み立て、安定した治療成績を得ております。また、関節鏡視下手術も低侵襲のため積極的に行っております。

スポーツ整形：膝の十字靭帯損傷、半月板損傷、反復性肩関節脱臼、足関節の靭帯損傷等に積極的に治療を行い、スポーツへの復帰に取り組んでおります。関節鏡視下および併用手術は年間平均250例を超え、自家腱移植による靭帯形成術は年間36例となっております。

◆主疾患治療プロトコール

人工股関節置換術：術後4～6週間にて退院

人工膝関節置換術：術後3週間にて退院

単顆置換型人工膝関節置換術：術後2週間にて退院

大腿骨頸部骨折：術後2週間前後で地域連携クリニカルパスにて近隣病院へ転院

半月板切除術：3泊4日にて退院

前十字靭帯再建術：術後2週間にて退院

◆その他

第三次救急病院及び基幹病院として、あらゆる分野の整形外科的疾患の治療を行っておりますが、病状によってはより専門性の高い医療機関を紹介させていただいております。当科では他院との病診連携に力を入れており、他院からの紹介も多く、紹介患者さん優先で診察を行っております。また、症状の落ち着いた方に関しましては積極的に近隣の信頼できる整形外科の先生方にご紹介申し上げております。

泌尿器科

診療方針

当科では主として尿路性器悪性腫瘍(前立腺癌、膀胱癌、腎癌、精巣癌など)の診断・治療を中心に行っております。治療としては手術のみならず、放射線療法や抗癌剤を使用した全身化学療法なども積極的に行っております。その他、前立腺肥大症・尿失禁などの女性泌尿器疾患・神経泌尿器疾患も増加しており、適宜対応しています。なお、尿路結石においては、四日市社会保険病院泌尿器科と連携し、治療を行っています。

◆入院疾患の概要

疾患名	手術名	H7-20年の件数	H20年の件数
前立腺癌	根治的前立腺摘出術	53例	9例
膀胱癌	膀胱全摘術、尿路変向術	61例	5例
膀胱癌	経尿道的膀胱腫瘍切除術	592例	57例
腎癌	根治的腎摘出術/部分切除術	81例	4例
腎盂癌・尿管癌	腎尿管全摘術	50例	4例
精巣癌	高位精巣摘出術	40例	0例

また、良性疾患では前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺切除術を H21 年には 21 例施行しました。経尿道的前立腺切除術や経尿道的膀胱腫瘍切除術などの内視鏡的治療法である経尿道的切除術 (TUR:transurethral resection) では電解質溶液下で良好な切開性能が得られる TURis (TUR in saline) システムを採用し、良好な成績を得ております。

◆主疾患治療プロトコール (クリパスを含む。)

症例数の多い経尿道的膀胱腫瘍切除術をはじめ、各手術ではクリカルパスを用いています。また、疾患別標準資料・説明書を作成し、患者さんの説明に用いています。

一方、悪性疾患 (癌) に対する化学療法も積極的に行っております。進行膀胱癌の全身化学療法として標準的治療とされる MVAC 療法が無効となった症例ではタキサン系抗癌剤やゲムシタビンを中心とした化学療法を行っています。少量の抗癌剤を併用した化学放射線療法も行っています。また、内分泌療法抵抗性となった再燃前立腺癌でもタキサン系抗癌剤を用いた化学療法を積極的に行っております。前立腺癌を診断する経直腸的前立腺生検は前立腺体積にもよりますが、初回生検であれば少なくとも 10-12 ヶ所以上の多数ヶ所生検を行っています。

◆その他

当科では患者さんとの十分な説明と話し合いの結果、治療法の選択を行い、最善の治療を行うことを目指しております。

皮膚科

現在、皮膚科専門医 1 名が診療を行っています。外来は、月曜日は、大学よりの非常勤医師が第 1 診、常勤医師が第 2 診を、火から金曜日は常勤医師のみが診察を担当しています。湿疹皮膚炎群、皮膚感染症、皮膚良性腫瘍、一部の皮膚悪性腫瘍、膠原病、自己免疫疾患（水疱症）など、皮膚科一般の診療を行っています。治療は外用療法や内服療法が中心ですが、化膿部の排膿処置、ヤケドなどの創傷処置、イボや腫瘍への冷凍凝固療法、小腫瘍の摘出術、感染性皮膚疾患の点滴療法なども行っています。あわせて局所処置方法の指導やスキンケア指導、生活環境指導を行うとともに、近年高齢化社会により増加している皮膚癌の早期発見などにも努めています。

◆入院疾患の概要

疾患名	事例数	備考
带状疱疹	5	
自己免疫性水疱症	2	
熱傷	5	
蜂窩織炎	3	
かぶシ水痘さん発疹	2	
水痘	1	
その他	1	

入院患者 19 件／年

◆主疾患（悪性疾患）を含む治療成績

検査処置・手術領域では、診断及び治療方針決定のための皮膚生検、比較的簡単な局所麻酔下での皮膚腫瘍の切除術などを行っています。

年間手術・処置件数 84 件/年（皮膚生検・外来小手術 51 件、手術室手術 33 件）

表皮嚢腫 15 件、母斑 16 件、線維腫 5 件、脂肪腫 3 件、角化腫 3 件、

皮膚癌（上皮内癌を含む）4 件など

◆主疾患治療プロトコール

皮膚感染症の入院治療

带状疱疹 抗ウイルス剤点滴 5～7 日間

蜂窩織炎 抗生剤点滴 7～10 日間 など

耳鼻咽喉科

当科は耳鼻咽喉・頭頸部外科全般の診療を行っていますが、特に頭頸部腫瘍（鼻・副鼻腔、口腔、咽頭、喉頭、甲状腺、唾液腺の良性腫瘍や悪性腫瘍）の手術、副鼻腔炎の内視鏡下手術に力を注いでいます。

また、めまいの診断と治療（良性発作性頭位眩暈症の理学療法、運動療法を含む）、耳鼻咽喉科的な立場からの摂食・嚥下障害の検査（嚥下内視鏡・嚥下造影検査）ならびに治療（嚥下改善手術を含む）、いびきの精査といびきの改善手術も行っております。喉頭癌術後の音声機能喪失に対し、音声回復手術（ボイスプロテーゼ留置術）や、外来においてのボイスプロテーゼの交換術も行っております。

◆入院疾患の概要

疾患名	事例数	備考
咽頭、頸部膿瘍切開排膿	7例	
口腔・頸部手術	25例	
鼻・副鼻腔手術	27例	
扁桃手術・鼓膜換気チューブ留置	15例	
喉頭腫瘍	4例	
いびき	3例	

◆主疾患（悪性疾患）を含む治療成績

頭頸部腫瘍の治療は、手術を含め、積極的に行っています。慢性副鼻腔炎の内視鏡下鼻内副鼻腔手術を行い、良好な成績が得られています。

◆主疾患治療プロトコール（クリパスを含む。）

入院診療におけるクリナルパス適用率は90%以上であり、診療内容の充実と在院日数の短縮に努めております。

精神科

当科は統合失調症、躁うつ病、不安障害など精神障害全般に対する外来診療を行っております。診察日は毎週月曜から金曜までですが、初診、再診共に予約制となっております。なお当科には入院設備がありませんので、入院治療が必要な方などは他の精神科施設に紹介させていただく場合もあります。

◆平成21年診療実績

外来延患者数 5,836人
一日平均外来患者数 24.1人

放射線科

CT, MRI, 血管造影、IVR (interventional Radiology) ,核医学検査の施行と画像診断を行っている。放射線治療では、LINAC(直線加速器)を使用した治療を行っている。四日市医師会等との病診・病病連携システムにより、地域医療機関からの画像診断を行うと共に、院内では中央放射線部門の一員として、各臨床科との密接な連携の元に診療を行っている。

◆平成 21 年度診療実績

入院疾患の概要 (: 当科は入院病床を持っていません)

主疾患 (悪性疾患) を含む治癒成績 (: 各診療科の成績を参照下さい)

放射線治療患者の内訳 (2009 年度)

新規登録患者数	145 例	179 例(治療患者総数)
治癒目的の照射	34 例	36 例
姑息的照射	42 例	66 例
術後照射	65 例	73 例
術前照射	4 例	4 例

疾患 (原発) 別症例数

脳	頭頸部	肺	乳腺	食道	肝 ・胃	大腸 ・直腸	腎膀胱	婦人科	骨軟部	不明
1 例	0 例	55 例	66 例	9 例	0 例	7 例	3 例	4 例	0 例	0 例
1%	1%	38%	46%	6%	0%	5%	2%	3%	0%	0%

当院の放射線治療の特徴は、肺癌・乳癌で全体の 66%を占める。

肺癌では呼吸器内科主導で化学療法を併用した放射線治療が行われている。

乳癌では、当院外科を中心に、近隣の病院からの依頼を含め、乳房温存術後の照射 (54 例 : 乳腺照射件数の 82%) が多い。2008 年 6 月より新しいリニアックで治療を開始している。

麻酔科

手術を受ける患者さんが、安全に手術を受けることが出来るよう麻酔を担当しています。
手術中は患者様のそばで、手術部位以外の全身状態を管理しています。

◆平成21年診療実績

手術症例数

平成21年全手術症例数 2,839 件

うち麻酔科管理症例数 1,477 件

麻酔法	件数
全身麻酔	761
全身麻酔+硬膜外麻酔	551
硬膜外・脊髄くも膜下麻酔・硬脊麻	159
緊急手術	252

◆その他

全例とはいきませんが、全身麻酔、重症の方を中心に術中管理しています。

麻酔科担当外の手術でも、手術中に問題が起こった場合は麻酔科医が対応し、全ての方が安全に手術を受けることが出来るよう努力しています。

(2) 中央放射線部

2009年(平成21年)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均 /月	集計
一般撮影	3,327	2,941	3,209	3,353	3,146	3,237	3,408	3,151	2,998	3,361	3,264	3,235	3,219	38,630
透視	282	262	269	315	289	351	367	338	338	350	319	281	313	3,761
血管造影														
頭腹部	28	18	18	17	17	17	13	10	16	32	29	18	19	233
心臓	47	55	66	38	26	47	46	34	45	57	38	47	46	546
放射線治療														
体外照射	227	487	471	284	355	392	258	281	246	283	225	220	311	3,729
ラジオセラピー	1,118	1,078	1,075	1,080	1,004	1,019	1,090	1,034	1,006	1,158	1,088	1,050	1,067	12,800
セクトロン	220	207	199	233	194	229	236	184	202	212	187	200	209	2,503
CT														
単純	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
造影	33	40	35	36	35	34	42	35	38	41	41	42	38	452
ハイフェージョン	1,338	1,285	1,274	1,313	1,198	1,248	1,326	1,218	1,208	1,370	1,275	1,250	1,275	15,303
3D	39	51	41	47	39	46	53	26	39	42	39	23	40	485
☆CT														
総計	103	104	99	119	106	117	132	90	103	107	104	111	108	1,295
病診連携	286	271	304	301	235	311	327	292	252	305	262	265	284	3,411
RI	79	82	89	103	93	105	108	80	93	84	95	90	92	1,101
MRI														
単純	83	85	95	71	63	97	87	88	67	93	75	77	82	981
造影	10	8	11	17	9	11	15	14	10	7	9	14	11	135
MRA	365	353	393	404	328	416	435	372	345	389	357	355	376	4,512
MRCP	27	33	31	25	17	29	33	27	35	39	31	23	29	350
☆MRI														
総計	273	313	344	398	319	389	428	365	342	386	362	341	355	4,260
診連携	400	353	430	312	269	382	340	328	303	320	285	313	336	4,035
超音波検査														
腹部	195	189	218	174	171	176	187	162	155	183	198	173	182	2,181
心臓	5	4	7	0	0	0	2	2	1	0	1	1	2	23
血管等	123	118	150	143	153	168	176	154	139	196	160	176	155	1,856
コピー	6,337	6,065	6,505	6,353	5,952	5,876	6,031	5,560	5,336	6,038	5,668	5,583	5,942	71,304
合計	12,285	11,841	12,630	12,507	11,732	12,018	12,374	11,365	10,927	12,363	11,643	11,436	11,927	143,121

	1-3	4-6	7-9	10-12	総計
病診連携/CT	3.36%	3.51%	3.14%	2.67%	3.17%
病診連携/MRI	8.19%	6.18%	8.25%	8.45%	7.76%

(3) 中央検査部

中央検査部概要

部門	中央検査部
部門長	草野五男(検査部長) ・ 上野尚幸(GL)
認定資格	細胞検査士 4 名 ・ 輸血認定技師 1 名 ・ 糖尿病療養指導士 5 名 NST 療養士 2 名 ・ 病理検査士 1 名 ・ 神経生理認定技術師 2 名
常勤技師	20 名 (育児休暇 1 名)
業務補助職員	3 名

外部精度管理参加状況

毎月	eQAP	シスメックス株式会社
6 月	日本臨床検査技師会精度管理調査	日本臨床検査技師会
8 月	三重県臨床検査精度管理調査	三重県臨床検査精度管理協議会
9 月	第 4 2 回臨床検査精度管理調査	日本医師会

診療支援

感染症レポート	週報、月報
外来採血	毎日 (午前中)
病棟採血管準備	毎日 (各病棟に配送)
病棟診察前検査報告	毎日 (1 時間早出)
外来迅速検査報告	24 時間勤務体制
チーム医療への参画	NST・ICT・心カテ待機等
各種認定技師の育成	必要に応じて対応

病診連携検査件数

トレッドミル	6
ホルター心電図	5
脳波	28
尿素呼気試験 (ピロリ菌)	0
ABR	2
神経生理検査	0

検査件数

H21年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
尿・糞便	3952	3725	3703	4,078	3769	3,501	3,907	3,582	3,638	3,961	3,474	4,185	45,475
血液	14821	13512	14137	15,220	13864	13,571	14,931	14,369	14,282	15,231	14,053	16,435	174,426
生化 I	80486	74372	78063	82,291	76289	73,705	80,254	75,033	75,150	80,233	72,910	84,825	933,611
生化 II	2029	1837	2190	2,310	2037	1,929	2,222	2,125	2,117	2,158	2,265	2,635	25,854
負荷試験	19	11	8	13	15	6	13	7	5	3	13	17	130
免疫	8001	7510	7551	8,469	7630	7,339	8,395	7,909	7,873	8,206	7,471	8,974	95,328
検体合計	109,308	100,967	105,652	112,381	103,604	100,051	109,722	103,025	103,065	109,792	100,186	117,071	1,274,824
輸血	502	455	489	501	439	425	485	436	448	414	452	499	5,545
微生物	2235	2034	1970	2,118	1911	1,686	1,944	1,840	1,905	1,946	1,867	2,371	23,827
病理	748	676	857	863	753	719	829	742	761	750	720	817	9,235
生理	1805	1639	1794	2,013	1701	1,721	1,889	1,686	1,659	1,641	1,610	1,949	21,107
合計	114,598	105,771	110,762	117,876	108,408	104,602	114,869	107,729	107,838	114,543	104,835	122,707	1,334,538

(4) 薬剤部

○投薬等に関わる収入

単位：千円	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
投薬収入	22,233	21,273	24,315	19,345	18,022	15,601	17,791	17,315	16,931	19,803	17,488	18,795
調剤料収入	600	544	584	314	229	166	180	181	178	222	221	179
調剤技術基本料収入	241	232	230	130	104	90	98	97	99	116	123	109

○薬剤管理指導等の件数

単位：件	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
薬剤管理指導料算定件数	207	169	255	220	194	223	218	198	190	222	186	183
薬剤情報提供料算定件数	1,218	995	1,114	1,065	1,141	997	1,168	1,179	1,099	1,339	1,413	1,207

○診療科別外来処方箋発行件数

院外処方箋

	内科	外科	心外	脳外	小児	産婦	整形	皮膚	泌尿	耳鼻	精神	放射	神経	循環	呼吸	消化	呼外	合計
1月	161	435	116	191	565	308	309	352	300	267	349	0	192	777	494	690	10	5,516
2月	67	425	79	175	503	309	294	381	301	329	348	1	164	669	458	630	8	5,141
3月	52	454	100	231	555	298	300	418	333	382	393	2	217	845	528	726	18	5,852
4月	63	434	98	222	530	333	286	422	312	355	369	5	199	838	565	664	16	5,711
5月	134	411	95	194	581	312	238	358	269	273	338	5	191	748	478	654	10	5,289
6月	93	470	99	214	509	317	285	433	278	253	351	6	199	777	510	722	17	5,533
7月	85	462	104	202	496	353	280	488	280	262	392	5	229	811	535	703	16	5,703
8月	76	466	78	194	515	301	287	463	287	206	349	4	207	729	473	651	19	5,305
9月	129	416	111	203	561	326	268	22	267	213	344	6	213	759	485	653	16	4,992
10月	132	449	100	175	588	300	231	28	304	180	375	4	237	801	572	694	18	5,188
11月	95	429	78	178	663	286	219	34	251	180	324	6	171	734	534	597	11	4,790
12月	150	428	92	196	618	289	217	24	289	233	335	8	233	767	515	642	17	5,053
	1,237	5,279	1,150	2,375	6,684	3,732	3,214	3,423	3,471	3,133	4,267	52	2,452	9,255	6,147	8,026	176	64,073

全件処方箋

	内科	外科	心外	脳外	小児	産婦	整形	皮膚	泌尿	耳鼻	精神	放射	神経	循環	呼吸	消化	呼外	合計
1月	505	483	118	212	747	338	404	394	339	287	468	0	205	816	600	796	10	6,722
2月	283	466	88	198	619	329	389	412	339	349	467	7	180	711	555	737	8	6,137
3月	295	509	104	259	725	313	390	475	365	403	527	7	232	895	641	843	19	7,002
4月	270	488	106	244	669	359	360	477	336	371	504	7	210	883	673	779	17	6,753
5月	411	466	101	224	749	347	345	415	295	283	465	5	205	787	576	745	11	6,430
6月	284	515	102	232	612	358	369	486	307	268	469	9	217	817	615	818	17	6,495
7月	339	499	111	228	664	407	360	559	311	279	518	6	253	851	649	807	16	6,857
8月	370	509	84	221	656	345	396	534	313	217	480	6	222	769	576	751	19	6,468
9月	457	466	116	219	720	372	356	44	285	229	464	7	231	794	592	740	16	6,108
10月	453	510	108	198	912	353	321	41	332	197	498	5	261	852	689	798	18	6,546
11月	482	473	84	204	1023	343	323	49	272	197	448	7	187	778	635	682	12	6,199
12月	479	484	102	223	807	368	310	36	308	247	444	10	260	815	619	734	19	6,265
	4,628	5,868	1,224	2,662	8,903	4,232	4,323	3,922	3,802	3,327	5,752	76	2,663	9,768	7,420	9,230	182	77,982

単位：％(休日・夜間を除く)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
院外処方率	82.1	83.8	83.6	84.6	82.2	85.2	83.2	82.0	81.7	79.3	77.3	80.7

(5) 看護部

看護部の理念

1. 患者さんが満足した医療が受けられるよう、安全で質の高い看護を実践し、地域からの信頼を得ます。
2. 看護師の資質（豊かな人間性、科学的根拠に基づいた知識と技術）を向上し看護師個々のキャリアアップと定着をめざします。

平成21年度看護部目標

『やさしさを感じられる職場をつくろう』

笑顔で対話を・・・働く仲間への思いやりを・・・

患者さんが安心を得られるように

平成21年度看護部実践報告

1. 看護職員の確保と定着

1) 確保について

(1) 就職説明会

- ・ 県立看護大学の合同説明会への参加
- ・ ナース専科主催の説明会への参加
- ・ 福祉看護就職フェアへの参加
- ・ 院内就職説明会の開催（7月、8月）
- ・ 潜在看護師就職説明会（ナースセンター）への参加（2回）

(2) 学校訪問

- ・ 副師長による学校訪問（県内9校）
- ・ 看護部長、院長、運営調整部長の訪問（県内5校）

(3) 潜在看護師の再チャレンジ研修（3日シリーズ）・・・10名参加

(4) 広報活動

- ・ 就職説明会ポスター作成
- ・ 助産師・看護師募集の新聞折込チラシ
- ・ ホームページ画面の適宜更新

(5) 採用内定者への対応

- ・ 内定者のつどい（11月）
- ・ メッセージカード・年賀状・看護部活動・医療センターニュースなどを送付

(6) 実習環境の充実

- ・ 実習中に職場アピールを兼ねた懇親会の実施
- ・ 実習材料の整備と統一
- ・ 看護研修室の整備

(7) 看護学生の職場体験を目的とした夏休みアルバイトの受け入れ

8月～9月に計6名

2) 定着について

(1) 看護支援室の活動

- ・支援室におけるメンタルフォロー、技術支援等（訪問者：延 114 人）
- ・職場ラウンド
- ・癒しの空間の提供

(2) 師長会、副師長会の小集団活動（職場環境・職場風土・明日葉）での取り組み

- ・中途採用者への職場適応支援
- ・新人看護師家族への状況報告など

(3) KAIZEN 委員会活動による職場環境の活性化の取り組み

2. 職場環境の改善と充実

1) 病棟看護体制の充実

8月より7：1看護体制を導入し、10月より診療報酬施設基準取得

2) TQM 活動

(1) 各セクション、グループでの TQNM 活動への支援・指導

(2) TQM 発表会

- ・院内 TQM 発表大会・・・16 題（看護部 11 題）
- ・病院事業庁 TQM 発表大会・・・当院より 5 題（看護部 2 題）

3) 時間外勤務削減

各セクションにおいて時間外削減にむけた取り組みを実施中

*時間外 1 人平均は前年度より若干減少したが目標達成（130 時間）はできなかった。

4) メモリアル休暇

メモリアル 3 連休取得率 73%

5) 日々の業務改善の共有

「小さな気づき」は全体で 147 件

他部署の気づきを活用した件数は 349 件であった。

3. 看護職員の育成

1) BSC シートを活用した目標管理

(1) 院長シート→看護部長シートに基づいて各師長、認定看護師がそれぞれ BSC シートを作成。目標達成に向けて組織運営・実践活動を行う。

(2) スタッフは各師長のシートに基づいて『私の目標シート』を作成し各セクションの目標達成にむけて役割を担う

2) キャリアラダーによる教育

各看護師はキャリアステップ登録をし、主体的に個々のスキルアップを図る。

3) 新人看護師育成

(1) プリセプター、アソシエイトによる各職場での OJT

(2) 新人支援 WG を中心としたメンタル支援

(3) 新人教育研修、リフレッシュ研修など

4) 師長・副師長の能力アップ

(1) 小集団活動による取り組みの推進

(2) 年度末に各セクションの活動報告と小集団活動の合同報告会を開催

5) 地域の医療職者への貢献

感染対策・がん看護・褥瘡ケア・ACLSなどの研修に院外からも参加を募り、延べ139施設からの参加があった。

4. 学生実習等の受け入れ

1) 看護学生実習受け入れ状況 (延べ人数)

学校名	人員 (人)	割合
三重県立看護大学	1,501 人	53%
三重県立桑名高校専攻科	293 人	10%
四日市医師会看護専門学校	949 人	34%
四日市医療大学	24 人	1%
聖十字看護専門学校	40 人	1%
合計	2,807 人	100%

2) 高校生の一泊看護体験・・・7月30日(木)

25人受け入れ

(6) 機能訓練グループ

平成21年(2009) リハビリテーション室 実施単位数

入院

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
運動器	367	364	412	504	428	648	700	613	405	554	631	577	6,203
脳血管疾病等	1,154	1,144	1,224	1,057	978	859	792	743	903	1,128	992	1,107	12,081
呼吸器	57	78	150	137	149	158	99	122	118	116	63	93	1,340

外来

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
運動器	396	362	368	264	232	328	371	379	384	355	326	311	4,076
脳血管疾病等	162	135	112	91	94	59	57	53	77	150	99	105	1,194
呼吸器	3	3	3	4	4	4	5	4	5	4	2	6	47

(7) 栄養グループ

平成21年 年間栄養指導件数

	入院外来合計人数	個別指導			集団指導		
		人数 (名)	入院 (名)	外来 (名)	人数 (名)	母親教室(外来)	
						(件)	(名)
1 月	76	64	34	30	12	1	12
2 月	72	64	41	23	8	1	8
3 月	83	73	41	32	10	1	10
4 月	68	55	34	21	13	1	13
5 月	57	50	28	22	7	1	7
6 月	77	64	39	25	13	1	13
7 月	81	72	52	20	9	1	9
8 月	62	53	38	15	9	1	9
9 月	64	56	35	21	8	1	8
10 月	81	71	44	27	10	1	10
11 月	83	67	37	30	16	1	16
12 月	59	49	23	26	10	1	10
合計	863	738	446	292	125	12	125

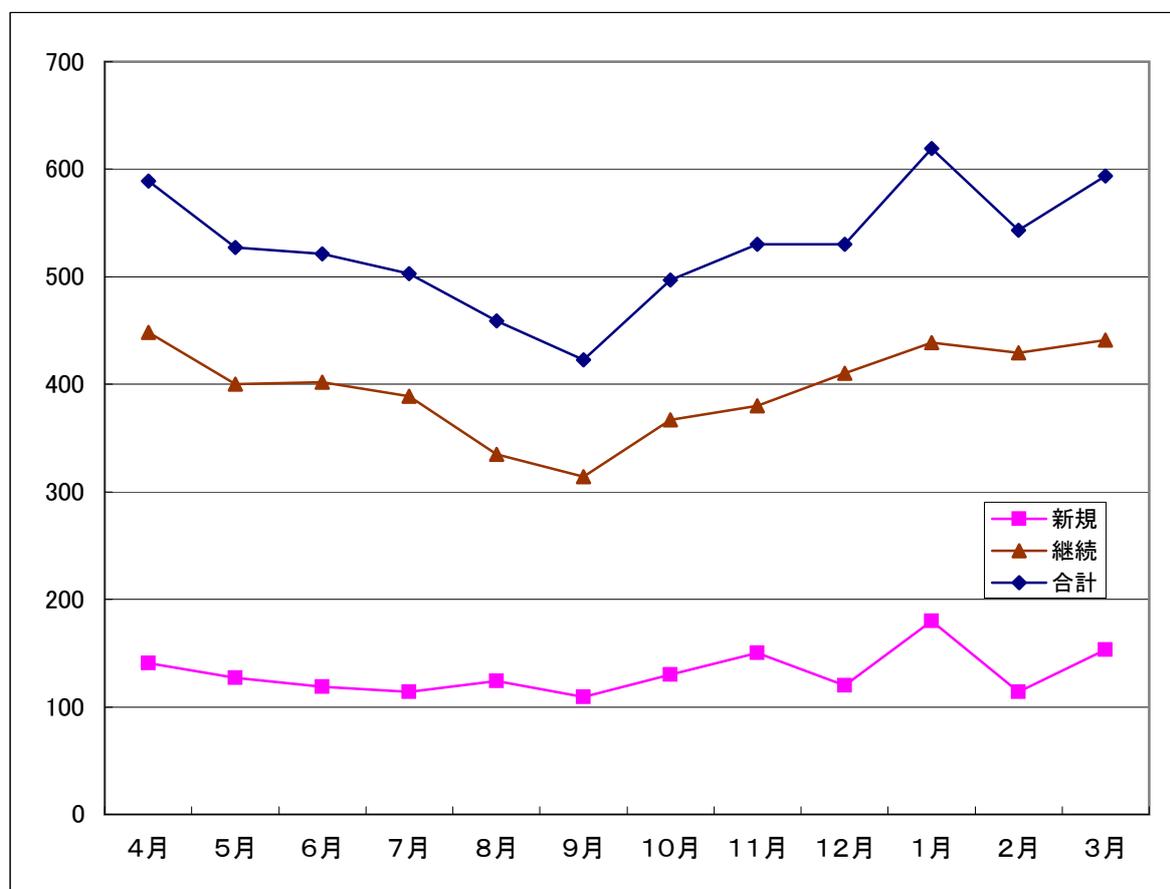
平成21年栄養指導件数(個別指導)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
腎 臓 病	2	1	2	3	0	1	5	1	2	1	2	4	24
高 血 圧 症	9	15	14	12	8	12	9	6	13	10	17	4	129
心 臓 病	16	13	17	13	10	10	22	12	13	18	16	13	173
肝 臓 病	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
糖 尿 病	20	21	21	17	15	28	18	12	14	27	18	18	229
潰 瘍	1	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	5
膵 臓 病	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
高 脂 血 症	3	3	3	1	6	3	7	4	8	5	4	6	53
肥 満 症	10	6	6	3	3	6	1	2	2	2	2	1	44
妊 娠 中 毒 症	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	4
炎症性腸疾患	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
貧 血 症	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	5
そ の 他	3	5	5	4	8	4	8	11	3	5	7	3	66
合 計	64	64	73	55	50	64	72	53	56	71	67	49	738

(8) 地域連携室

平成21年度医療福祉相談件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	入院	90	93	81	75	81	75	93	108	87	137	91	121	1,132
	外来	43	30	35	36	39	32	28	38	30	36	18	30	395
	その他	8	4	3	3	4	2	9	4	3	7	5	2	54
	計	141	127	119	114	124	109	130	150	120	180	114	153	1,581
継続	入院	363	336	337	294	284	263	313	315	340	374	373	366	3,958
	外来	62	52	56	90	49	46	48	58	65	53	50	66	695
	その他	23	12	9	5	2	5	6	7	5	12	6	9	101
	計	448	400	402	389	335	314	367	380	410	439	429	441	4,754
合計	入院	453	429	418	369	365	338	406	423	427	511	464	487	5,090
	外来	105	82	91	126	88	78	76	96	95	89	68	96	1,090
	その他	31	16	12	8	6	7	15	11	8	19	11	11	155
	計	589	527	521	503	459	423	497	530	530	619	543	594	6,335

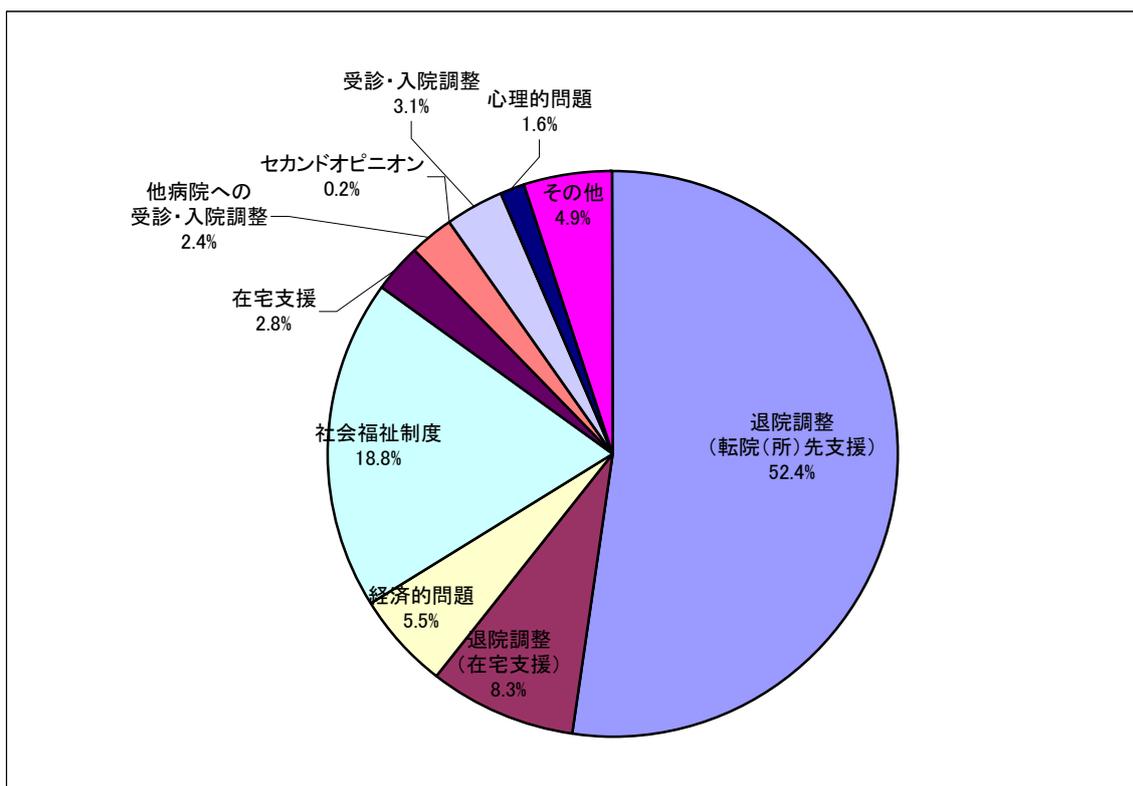


相談人数は、新規については、20年度を上回ったが、継続が20年度を下回った。また、月別でも、12月、1月を除く月で20年度を下回った。

医療福祉相談内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
退院調整（転院（所）支援）	372	320	331	289	260	265	311	325	344	404	349	358	3,928
退院調整（在宅支援）	67	61	43	43	51	25	43	48	49	55	77	58	620
経済的問題	36	38	42	25	33	28	39	32	33	54	32	24	416
社会福祉制度	105	124	121	128	117	90	108	112	129	145	110	127	1,416
在宅支援	21	19	14	32	12	10	7	16	22	19	17	24	213
他病院への受診・入院調整	19	9	17	20	10	14	23	16	24	21	19	17	209
セカンドオピニオン	1	1	1	1	4	1	4	2	1	0	1	0	17
受診・入院調整	36	18	21	31	8	14	17	24	21	23	8	14	235
心理的問題	16	9	6	9	17	3	12	10	13	9	15	2	121
その他	32	33	30	38	26	29	30	38	26	31	26	27	366
計	705	632	626	616	538	479	594	623	662	761	654	651	7,541

(重複あり)



相談人数が減少したにも関わらず、医療相談件数（重複相談あり）は年々増加傾向にあり、相談内容の内訳を見ると、退院調整、経済的問題がコンスタントに増えており、特に平成21年に入ってからは不況の世相を反映したのか伸び率が大幅に増加している。

また、関係機関より入院患者以外の方の相談もあるなど、外来～入院～退院まで一連で関わることも増えてきた。このようなことから、地域連携の機能が地域に根差した病院の窓口として動いていることが伺える。

転院・在宅等 退院調整相談件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
退院調整	転院先調整	253	241	242	204	193	200	232	225	272	310	263	289	2,924
	関係機関調整	119	79	89	85	67	65	79	100	72	94	86	69	1,004
在宅支援		67	61	43	43	51	25	43	48	49	55	77	58	620

退院調整相談の新規相談者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
退院調整	転院先調整	52	49	44	38	43	41	52	64	44	72	46	71	616
	関係機関調整	7	3	6	5	6	5	7	8	17	14	6	7	91
在宅支援		16	17	9	10	13	5	9	9	14	10	17	9	138

退院調整の主な退院先

病院					診療所	在宅		施設	死亡	計
一般	回復期	療養型	精神科	その他		在宅	自宅待機			
67	267	46	16	64	12	153	7	84	58	774

転院先調整件数は前年度より600件減っているが、新規件数は100件近くも増加している。このことから、一人の患者と関わる回数が減り、ソーシャルワーク介入依頼が増えたことが考えられる。その要因の一つには、パスの活発化である。回復期リハ病棟へ転院した患者数は前年度とほぼ同数のため、大腿骨頸部骨折や脳卒中のクリパス適応が増え、患者の動きが以前よりスムーズになってきたことから、全体の相談件数は減ったが新規介入件数が増えたことが窺える。

21年度 病診連携・病病連携登録医（医療機関）数

病診連携登録医数（21年度末現在）						病病連携登録医療機関数
いなべ医師会	桑名医師会	四日市医師会	亀山医師会	鈴鹿医師会	合計	
23	23	268	5	63	382	13
うち21年度新規登録数（内数）						うち20年度新規登録病病連携機関数
いなべ医師会	桑名医師会	四日市医師会	亀山医師会	鈴鹿医師会	合計	
0	0	10	0	0	10	0

当院では、病診連携を積極的に進める方針から、近隣医師会と病診連携システムに係る合意を交わし、病診連携システムへの賛同を趣旨とする登録医制度を設けており、21年度は新規に10名の登録をいただいた。

また、それぞれの機能分担を図る観点から、周辺地域の病院との病病連携も推進しているところであり、21年度末現在で、13の医療機関と病病連携システムの合意を交わしている。

今後も、更なる登録医療機関の充実と共に、地域医療連携の推進を図りたいと考えている。

21年度 紹介患者数と紹介率

診療科	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	初診数	260	394	268	316	381	398	397	446	445	457	232	272	4,266
	紹介数	14	20	12	13	18	20	17	14	10	17	11	10	176
外科	初診数	99	83	99	93	72	96	90	99	109	98	92	94	1,124
	紹介数	42	23	35	32	27	36	31	47	47	46	27	43	436
心外科	初診数	6	11	14	12	15	6	15	7	10	8	9	7	120
	紹介数	3	10	11	7	11	5	8	5	7	5	6	2	80
脳外科	初診数	83	103	81	86	87	80	92	90	96	99	96	85	1,078
	紹介数	10	17	12	13	9	9	14	15	10	11	11	18	149
小児科	初診数	186	243	162	224	208	220	330	376	233	237	177	239	2,835
	紹介数	33	21	28	32	32	24	28	41	36	35	44	55	409
産婦人科	初診数	108	107	125	119	136	133	132	123	125	115	130	142	1,495
	紹介数	39	48	71	51	54	53	72	67	70	53	60	54	692
整形外科	初診数	213	247	247	245	244	225	204	250	213	228	174	236	2,726
	紹介数	55	41	63	75	49	52	61	67	35	58	51	54	661
皮膚科	初診数	70	74	83	106	83	13	8	6	9	9	5	8	474
	紹介数	15	15	9	13	4								56
泌尿器科	初診数	31	43	37	54	44	55	35	22	29	28	31	41	450
	紹介数	20	19	16	25	14	24	16	12	17	12	20	18	213
眼科	初診数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	紹介数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻いんこう科	初診数	77	57	51	60	81	52	41	42	53	42	41	58	655
	紹介数	23	17	15	20	20	10	12	12	10	7	5	16	167
精神科	初診数	5	2	8	3	5		4	1	4		3	3	38
	紹介数	4	1	5	2	2		3	1			1	1	20
神経内科	初診数	36	39	52	54	48	40	62	39	44	46	41	56	557
	紹介数	15	20	18	29	22	12	24	19	18	19	18	28	242
循環器科	初診数	75	66	78	68	54	65	62	61	54	75	54	86	798
	紹介数	34	31	47	35	26	30	23	24	23	27	30	35	365
放射線科	初診数	60	48	68	76	55	59	62	60	44	69	68	72	741
	紹介数	59	48	68	76	55	59	61	59	44	69	68	72	738
呼吸器科	初診数	95	78	94	91	83	71	100	99	73	88	71	102	1,045
	紹介数	39	36	50	42	36	35	40	56	33	40	29	40	476
消化器科	初診数	120	106	168	139	137	104	136	118	116	124	102	97	1,467
	紹介数	55	42	80	69	72	45	71	63	60	46	50	42	695
呼吸器外科	初診数	4	5	2	3	1	1	4	5	4	6	5	5	45
	紹介数	3	5	2	3	1		2	4	2	4	4	4	34
合計	初診数	1,528	1,706	1,637	1,749	1,734	1,618	1,774	1,844	1,661	1,729	1,331	1,603	19,914
	紹介数	463	414	542	537	452	414	483	506	422	449	435	492	5,609
	救急車搬送患者数	297	297	313	359	342	285	343	309	362	304	277	310	3,798
	紹介率	50	42	52	51	46	43	47	44	47	44	54	50	47

※ 紹介数＝初診である紹介患者数

※ 紹介率＝(初診患者数+救急車搬送患者数)/初診患者数(6歳未満時間外除く)

当院は急性期病院として、病診・病病連携に取り組んでおり紹介率は年々上昇している。また、救急救命センター併置病院としても救急搬送受け入れ患者数が増加しており、今後も引き続き地域医療機関と連携し適切な医療提供体制の充実に努めていきたい

平成21年度 病診連携検査 検査種類別件数

MRI	CT	胃透視	胃カメラ	心エコー	トレッドミル	ホルター EKG	脳波	ABR
368	500	1	85	19	6	5	28	2
ABI	頸動脈 エコー	腹部 エコー	甲状腺 エコー	下肢静脈 エコー	下肢動脈 エコー	尿素呼気 試験	マンモ グラフィ	神経生理 検査
1	6	35	6	7	0	0	1	0
							合計	1,070

当院では、外部医療機関からの依頼により検査のみを行うシステムである病診連携検査を実施している。

これは、大型医療機器等を地域で共同利用し、地域医療機関との機能分担を図る趣旨で実施しているものである。全体の件数としては、全体に占める割合が高いCTの減少に影響され、200件以上も減少する結果となった。

がん相談支援センター相談実績 (H21.4～H22.3)

総相談件数	105件		相談内容 (事務的)	2次検診を受ける方法	0件
対応方法	面談	83件		検診を希望して受ける方法	0件
	電話	22件		ドックを受ける方法	0件
相談者	本人	57件		受診の方法	2件
	家族	66件		予約の方法	0件
	医療関係者	0件		緩和ケアへの入院方法	3件
当院受診歴	なし	19件		セカンドオピニオン受診の方法	7件
	あり	75件		当院へのアクセスの方法	2件
	不明	9件		担当医の案内	1件
原発のがん部位	脳脊髄・眼	2件		診療科の案内	2件
	頭頸部	1件		転医・転院の方法	5件
	食道・胃	10件		PET検査を受ける方法	0件
	大腸・直腸	9件		パンフレット・カタログの持ち帰り	0件
	肝・胆・膵	7件		FAX	0件
	肺	33件		逆紹介	0件
	乳房	7件	その他	5件	
	子宮	8件	相談内容 (医療相談)	がん検診	0件
	卵巣	3件		告知	5件
	前立腺	11件		がんの検査	5件
	腎・膀胱	6件		がんの治療	47件
	血液・リンパ	1件		セカンドオピニオン	17件
	その他	2件		受診科	1件
	不明	7件		緩和ケア	17件
がんでない	0件	ホスピス		12件	
治療状況	治療前	21件		在宅医療	12件
	治療中	45件		転医・転院	6件
	治療後	13件		入院・入院生活	1件
	再発・転移	5件		日常生活	7件
	緩和ケア	16件		症状	4件
	その他	0件		副作用	18件
	不明	2件	医師との関係	11件	
	がんでない	0件	精神的問題	8件	
利用回数	初めて	82件	その他	21件	
	2回目以上	20件			

セカンドオピニオン外来実績 (H21.4～H22.3)

診療科	件数
泌尿器科	2件
外科	6件
呼吸器科	2件
婦人科	1件
消化器科	1件

(9) 医療安全管理部 感染対策室

院内感染対策チーム (Infection Control Team)

メンバー構成

リーダー：感染対策室 (ICN 垣内)

メンバー：ICD (吉田、伊藤秀、西森、森谷)

ICD 薬剤師 (森)、薬剤師 (西出)

リンクナース (田上)

細菌検査技師 (森外、東⇒6月～畑中)

施設管理 (中村)

* ICN 倉田：2009年1月～3月は感染対策室長

4月以降は、SSIと5階BSIサーベイランスの継続

毎週のミーティングとICT会に参加

実績

1. 新型インフルエンザ対応訓練の実施

2009年1月9日 17:30～20:30 参加者総数：131名

医師・研修医：21名、看護師：61名、コメディカル：15名、事務16名、院外：18名

-内容- 吉田ICDより新型インフルエンザについて講演(30分)

PPE着脱訓練・N95フィットテスト(60分)

新型インフルエンザ想定訓練(75分)

2. 新型インフルエンザ対応 (院内の他部門と協力)

1) 新型インフルエンザ対策委員会の開催(4月・10月)

2) 情報の変化に対応し、適宜マニュアル改訂、職員への周知

3) 疑似症患者、確定患者入院措置への対応

4) 発熱外来設置 2009年5月16日～2009年7月8日

5) 学情報や患者受診状況に応じた、診療体制の見直し

6) 発熱患者待合スペースの設置(ポケベル運用)

7) ワクチン接種までの期間、職員の曝露後対策として、抗インフルエンザ薬の予防投与を実施(95名重複あり)

8) インフルエンザ入院サーベイランス

9) 相談電話の対応

10) マスク自販機設置(正面玄関、救急外来前)

11) 職員のワクチン接種計画

患者診療に関わるリスク別に接種順位を決定。

10月28日～30日に集団接種 358名。

以降、優先順位の高い医療従事者から順に接種し、合計約600名に接種。

12) ワクチン予約センター設置・ワクチン外来にて、患者への集団接種を実施

2009年11月17日～ 集団接種開始 11月、12月で計15回

小児301名、妊婦71名、その他548名に接種。

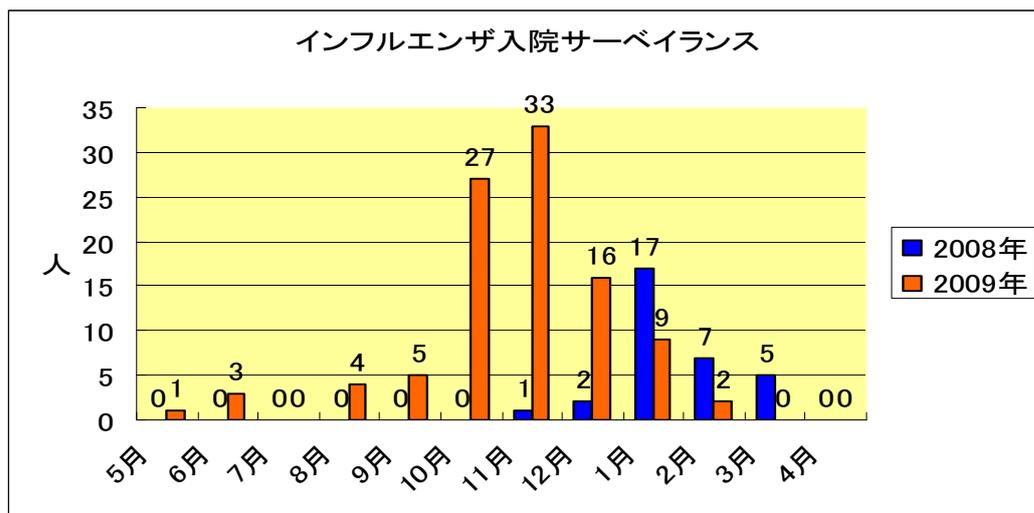
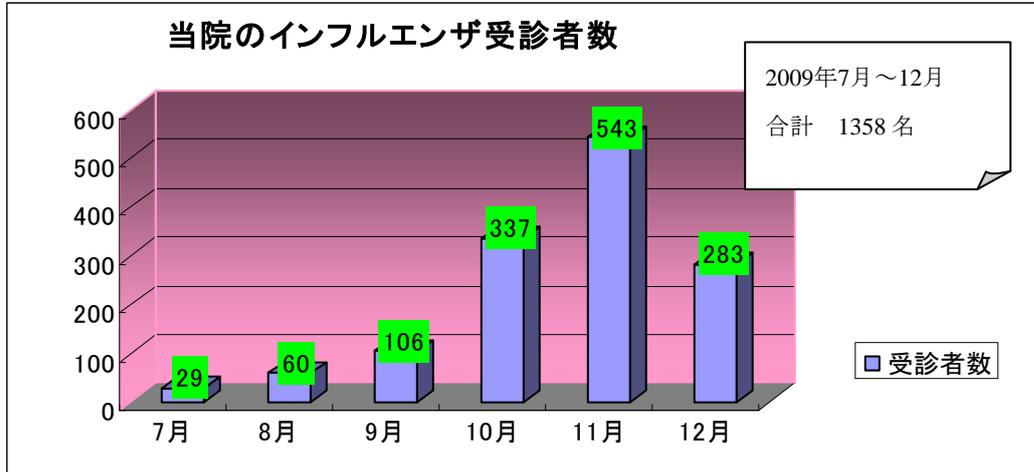
13) 外来患者に向けたポスター掲示

14) 情報共有のための院内掲示板書き込み (45回)

* 入院中の患者で、インフルエンザを発生したのは5名(12月、1月)

同室患者への予防内服、患者の隔離、予防策を速やかに実施。

他患者や職員への感染拡大はなかった。



3. 感染対策物品の見直し、検討 (施設管理課と協同)

- ・ ガス誘導のチューブのディスポ化

粘膜と接触するものであり、チューブ内の消毒も難しく、使用頻度も少ないことから、安全性を考えディスポ化に変更。

- ・ 小児病棟ベッドのマットレス化

唯一、布団を使用していたが、洗濯の問題もあり、汚染時にすぐに処理できるマットレスに変更。

- ・ ドレッシング材の見直し

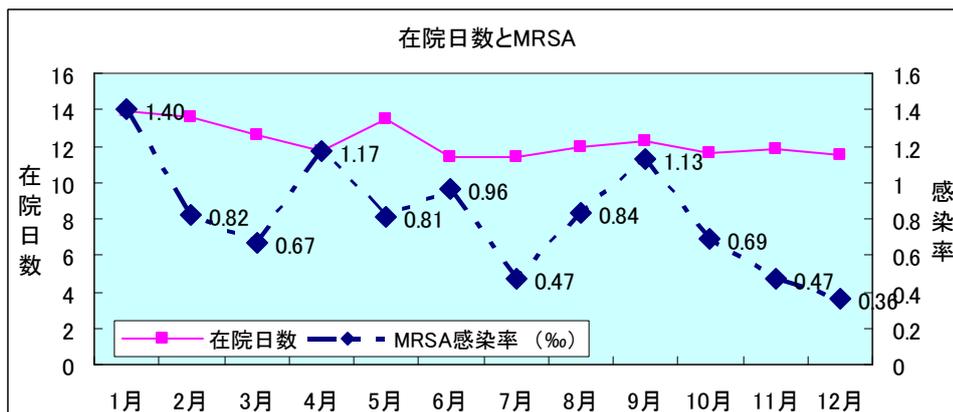
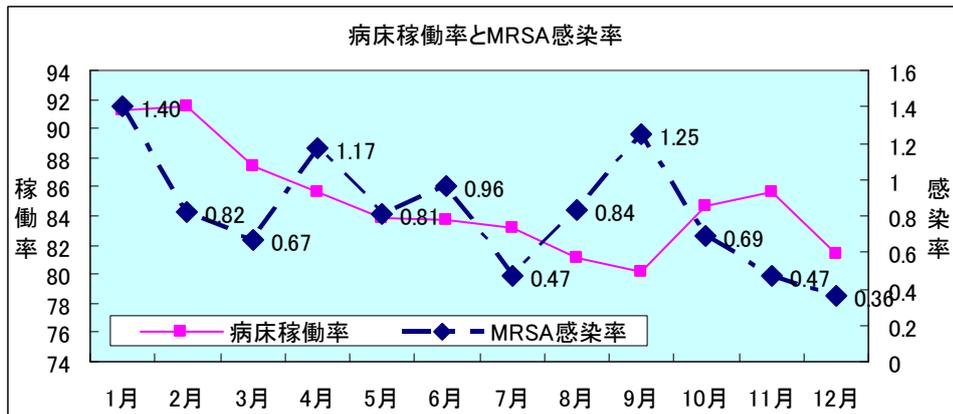
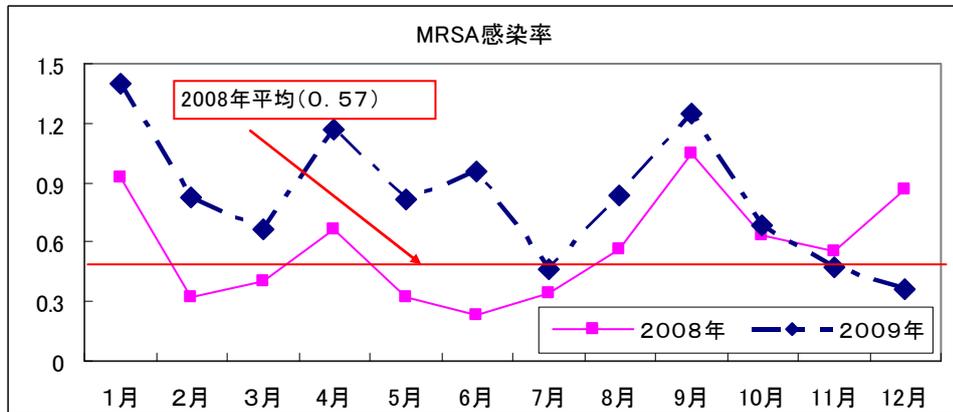
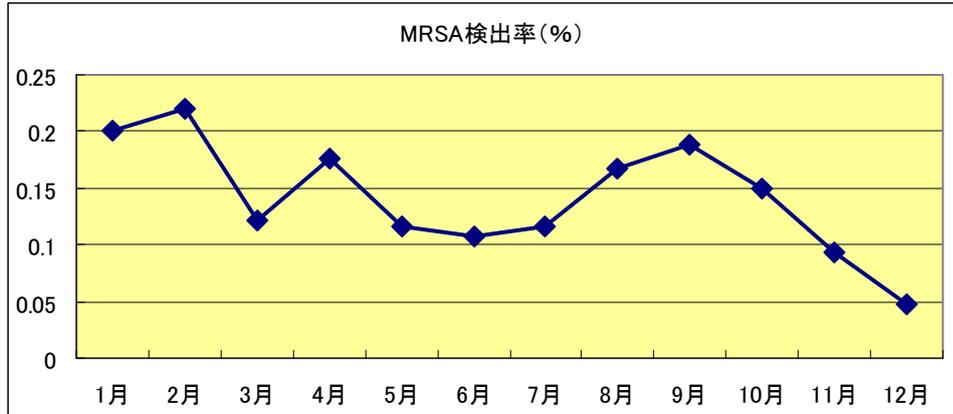
創傷用、ライン固定用と2社のドレッシング材を採用していた。

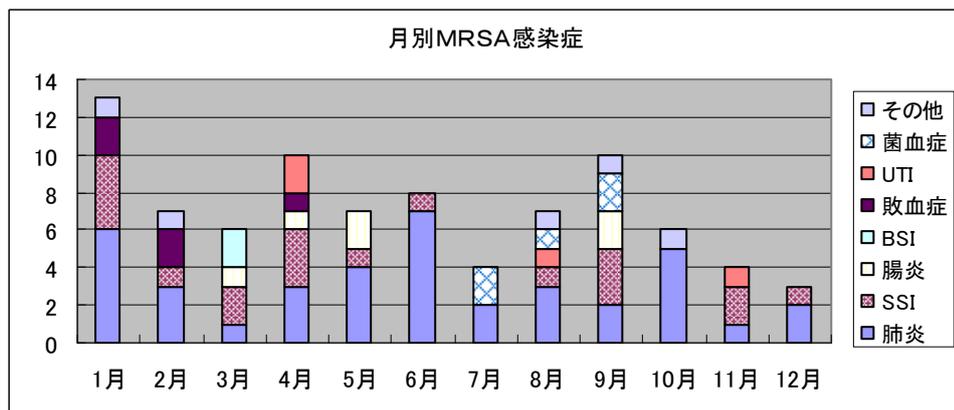
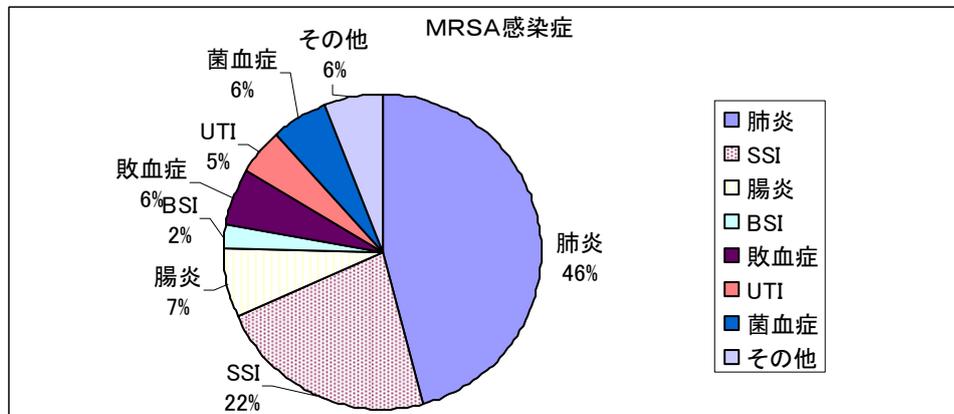
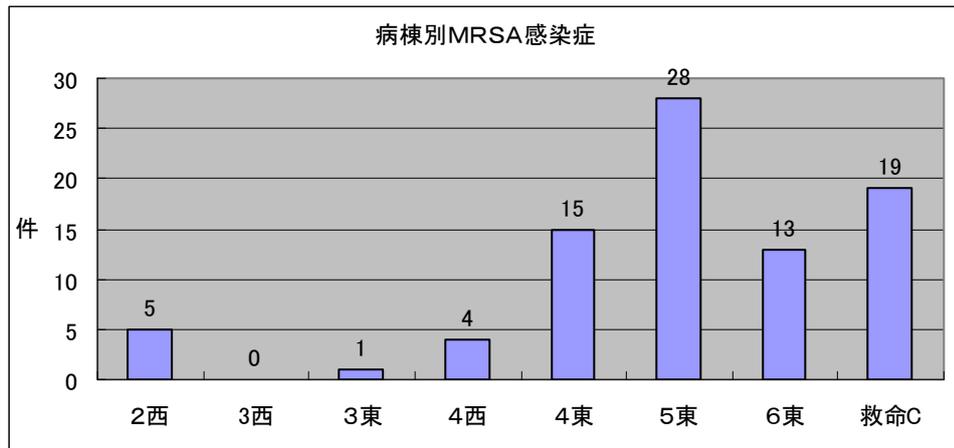
今回、ライン固定用も創傷保護に使用可能となり、コストも減額したため、現場の使用状況を調査し、サイズやデザイン別の適正使用について指導し、全てIV3000に変更した。

4. MRSA サーベイランス結果

① 2009年 MRSA 感染率

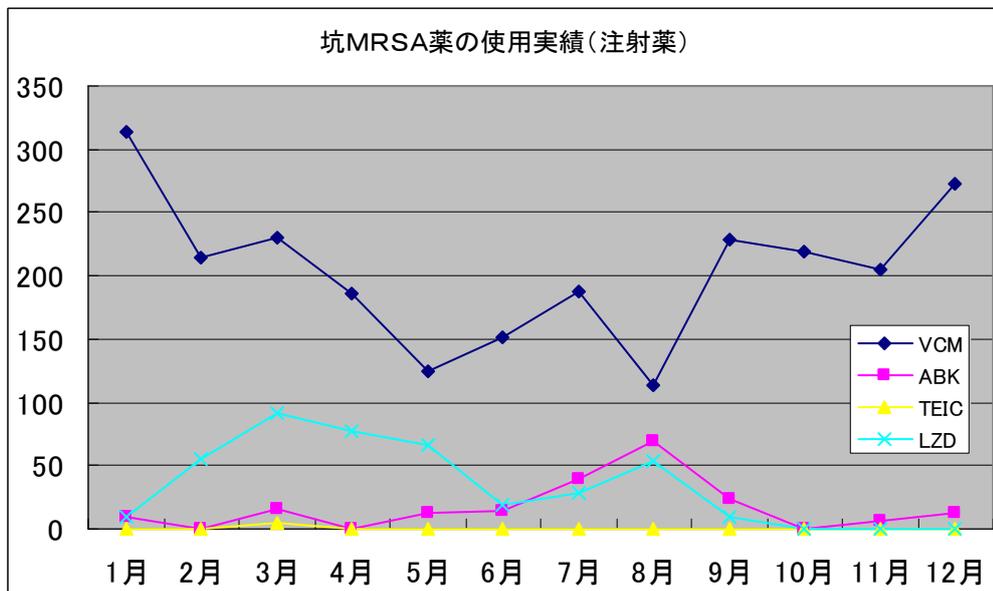
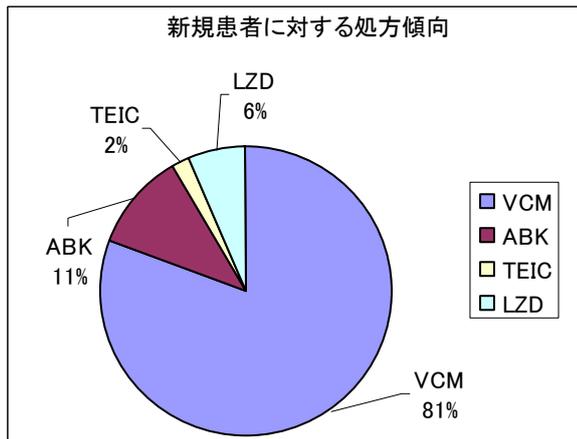
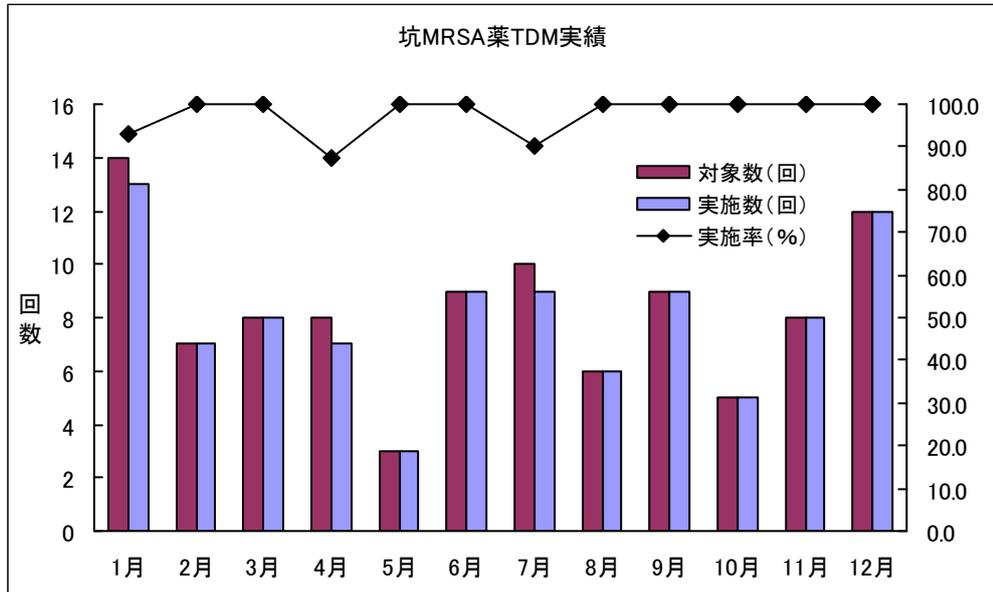
資料1—①





② 抗MRSA薬使用実績 TDM実績、抗菌薬使用実績

資料1-② (薬剤部)

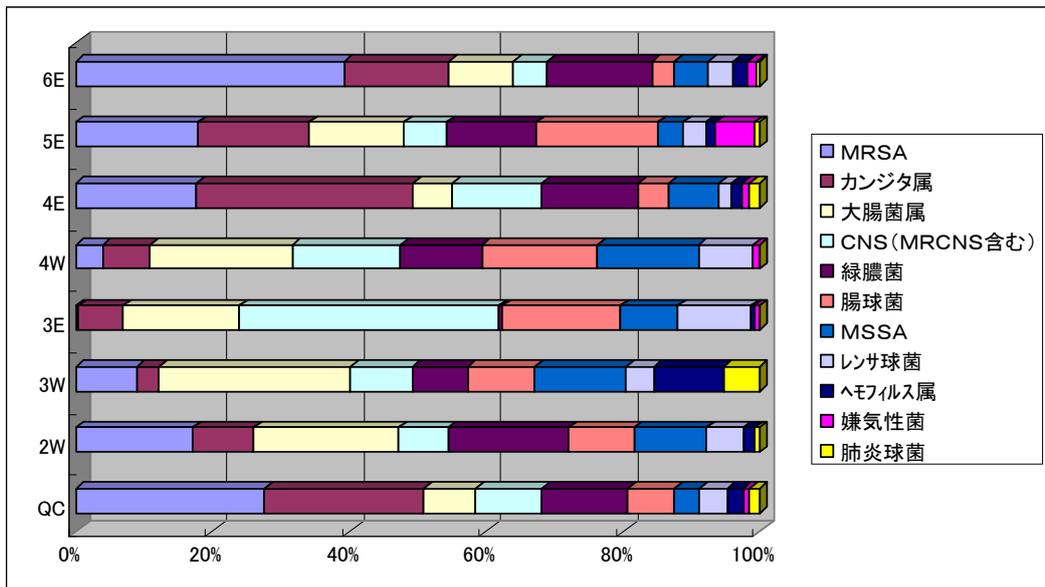


③ MRSA・緑膿菌・肺炎球菌の PCG 感受性率

資料 1 - ③ (細菌検査)

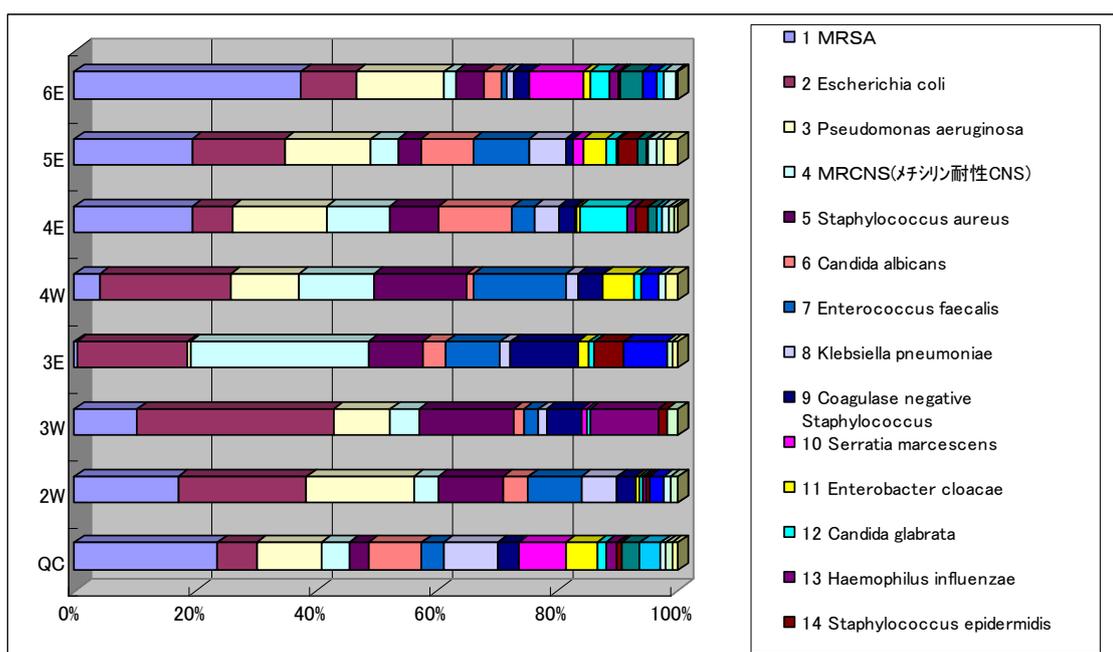
2009 年病棟別検出菌件数 * 重複患者含む

	QC	2W	3W	3E	4W	4E	5E	6E	合計
MRSA	117	29	22	1	4	72	80	95	420
カンジタ属	99	15	8	16	7	129	72	37	383
大腸菌属	32	36	69	41	21	24	62	23	308
CNS(MRCNS含む)	41	12	22	92	16	53	28	12	276
緑膿菌	53	30	20	1	12	58	59	37	270
腸球菌	29	16	24	42	17	18	79	8	233
MSSA	16	18	33	20	15	30	16	12	160
レンサ球菌	17	9	10	26	8	7	15	9	101
ヘモフィルス属	10	3	25	1	0	7	6	5	57
嫌気性菌	4	0	0	2	1	4	26	3	40
肺炎球菌	6	1	13	0	0	6	3	1	30



2009 年病棟別検出菌上位 20 * 重複患者含む

		QC	2W	3W	3E	4W	4E	5E	6E	合計
1	MRSA	117	29	22	1	4	72	80	95	420
2	Escherichia coli	32	36	69	41	21	24	62	23	308
3	Pseudomonas aeruginosa	53	30	20	1	11	58	59	37	269
4	MRCNS(メチリン耐性 CNS)	23	7	10	66	12	38	18	5	179
5	Staphylococcus aureus	16	18	33	20	15	30	16	12	160
6	Candida albicans	43	7	4	9	1	45	35	7	151
7	Enterococcus faecalis	18	15	5	20	15	13	38	2	126
8	Klebsiella pneumoniae	44	10	3	4	2	15	25	3	106
9	Coagulase negative Staphylococcus	17	5	12	25	4	10	5	7	85
10	Serratia marcescens	39	0	2	0	0	1	7	22	71
11	Enterobacter cloacae	26	1	0	4	5	2	15	3	56
12	Candida glabrata	7	1	1	2	1	29	7	8	56
13	Haemophilus influenzae	9	1	24	0	0	5	2	4	45
14	Staphylococcus epidermidis	4	1	3	11	0	8	12	1	40
15	Stenotrophomonas maltophilia	15	0	0	0	0	5	6	9	35
16	Streptococcus agalactiae (B)	0	4	0	16	3	0	1	6	30
17	Acinetobacter baumannii	17	0	0	0	0	3	1	3	24
18	Proteus mirabilis	4	2	0	0	1	5	5	5	22
19	Klebsiella oxytoca	5	2	4	2	0	3	5	1	22
20	Enterococcus faecium	5	0	0	2	2	2	10	0	21



MRSA 感受性率(入院)

	S	I	R	合計(件数)
PCG			100.00%	215
MPIPC			100.00%	215
GEZ			100.00%	213
CTX			100.00%	166
CMZ			100.00%	213
IPM/CS			100.00%	213
SBT/ABPC			100.00%	213
LVFX	5.10%	7.50%	87.30%	213
EM	6.00%		93.90%	215
CLDM	7.90%	0.40%	91.50%	213
FOM	25.80%		74.10%	213
MINO	63.20%	0.40%	36.20%	215
GM	65.20%	0.90%	33.80%	213
RFP	99.40%		0.60%	166
AMK	99.50%		0.40%	213
LZD	100.00%			49
ABK	100.00%			213
CP	100.00%			213
VCM	100.00%			215
ST	100.00%			213
TEIC	100.00%			215

2009 年の途中から
薬剤パターン変更

	追加薬剤
	削除薬剤

緑膿菌感受性率(入院)

	S	I	R	合計(件数)
ABPC			100.00%	150
CEZ			100.00%	151
CTM			100.00%	32
CTX			100.00%	150
CFX			100.00%	119
CMZ			100.00%	32
FMOX			100.00%	151
SBT/ABPC			100.00%	151
CP	0.60%		99.30%	150
ST	0.80%		99.10%	118
MINO	1.30%		98.60%	151
AZT	58.00%	26.60%	15.30%	150
IPM/CS	64.90%	9.90%	25.10%	151
MEPM	76.80%	7.20%	15.80%	151
LVFX	83.40%	7.20%	9.20%	151
CPFX	84.70%	7.90%	7.20%	151
CAZ	86.70%	7.90%	5.30%	151
CZOP	90.70%	6.70%	2.50%	119
CFPM	92.00%	5.90%	1.90%	151
PIPC	94.00%		6.00%	150
GM	94.00%	5.90%		151
AMK	100.00%			151

2009年の途中から
薬剤パターン変更

 追加薬剤
 削除薬剤

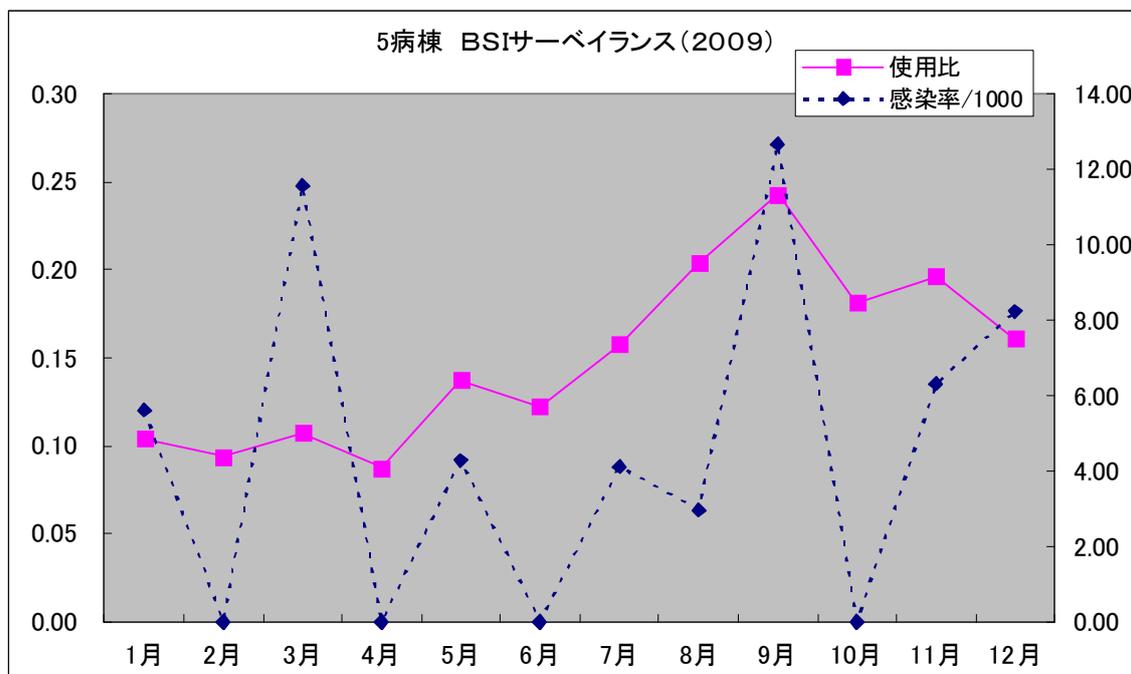
肺炎球菌感受性率

	S	I	R	合計(件数)
TC	13.90%	1.00%	85.00%	187
EM	15.70%	11.90%	72.20%	184
PCG	20.50%	51.50%	27.80%	190
ST	50.20%	38.70%	10.90%	191
MEPM	82.30%	14.70%	2.90%	34
SPFX	93.90%	6.00%		33
CP	83.90%		16.00%	187
OFLX	87.30%	9.50%	3.10%	189
CTX	88.30%	10.50%	1.00%	189
IPM/CS	93.10%	6.80%		191
CTRX	94.20%	3.60%	2.00%	191
AMPC	98.30%	1.60%		186
LVFX	100.00%			34
VCM	100.00%			188

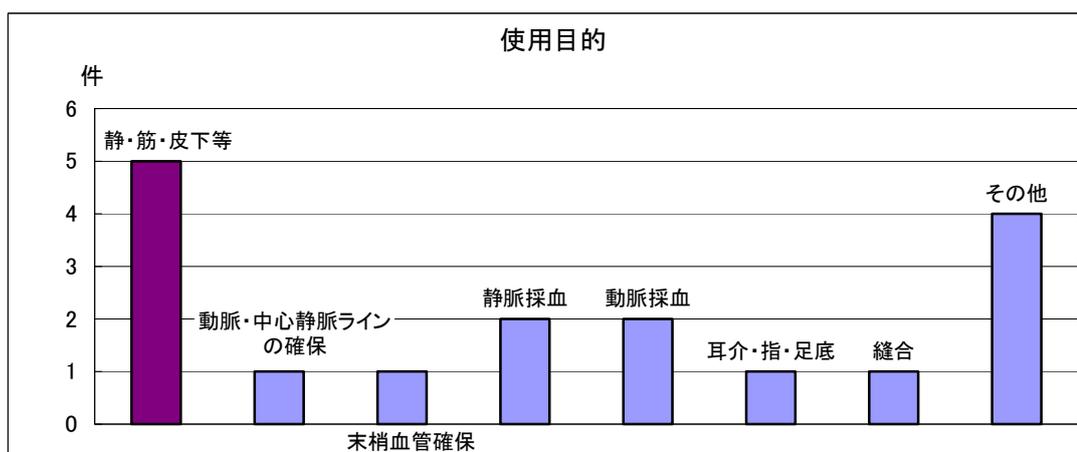
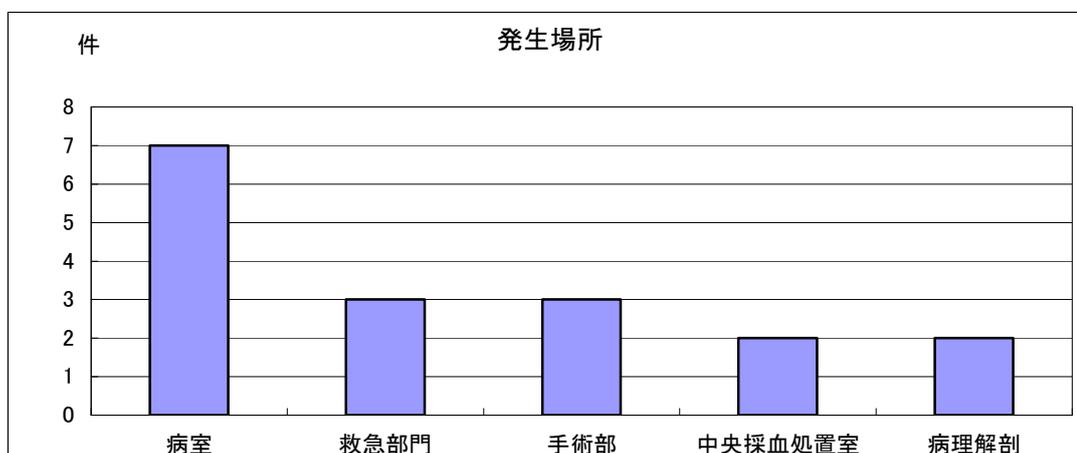
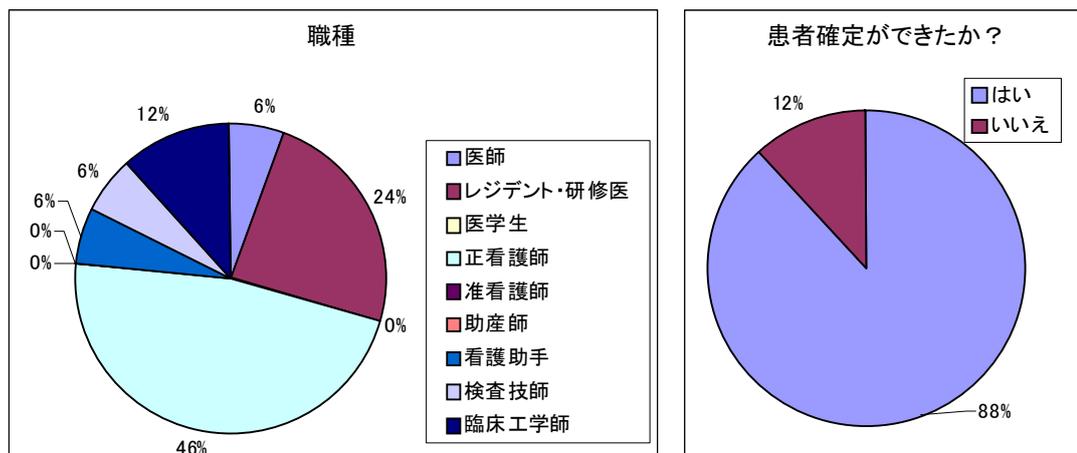
2009年の途中から
薬剤パターン変更

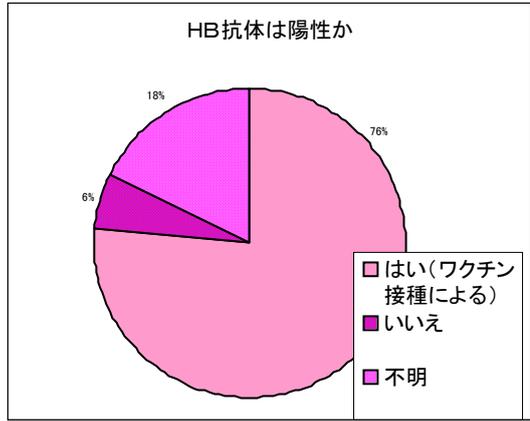
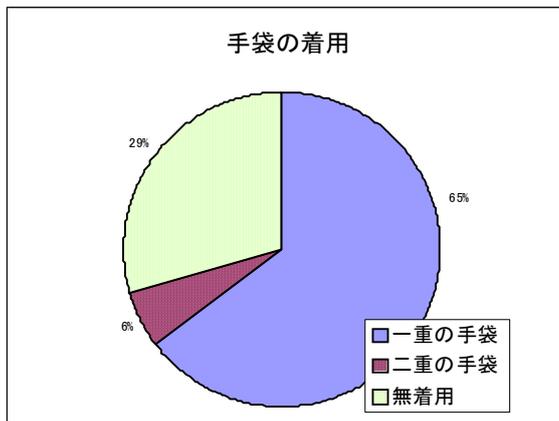
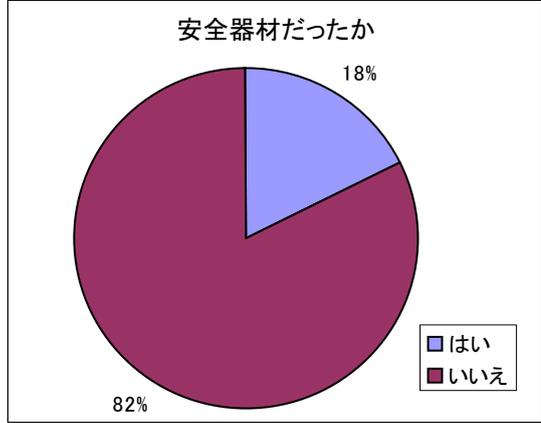
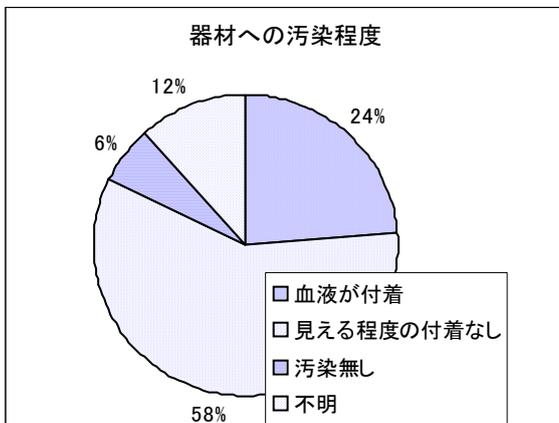
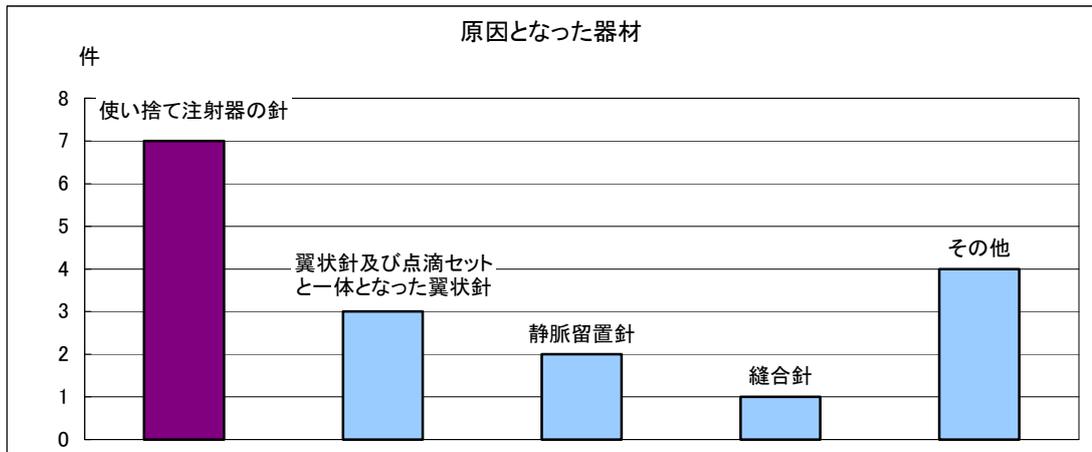
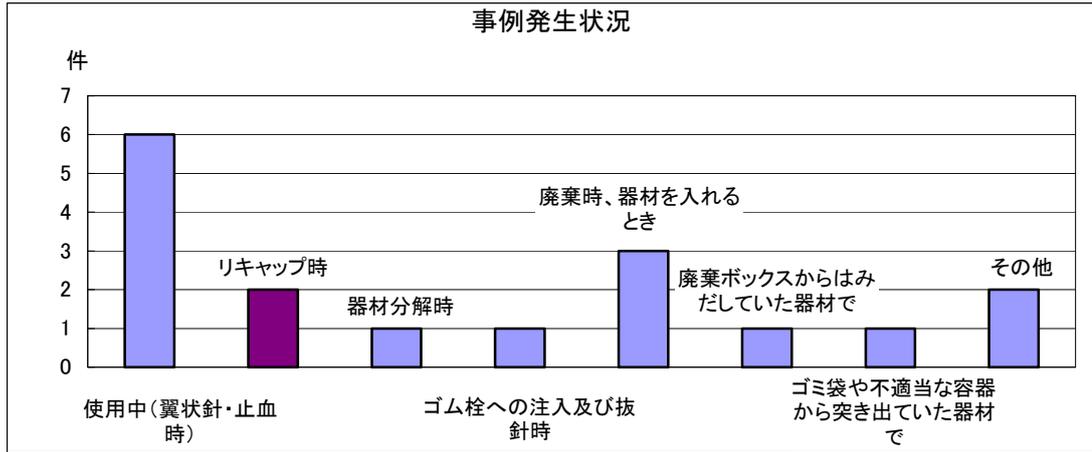
■ 追加薬剤
■ 削除薬剤

5. 血流感染サーベイランス



6. 針刺し・切創サーベイランスのまとめ（資料2）





7. 職員インフルエンザワクチン接種率 () は 2008 年

職員接種率： 93. 4% (95.4%)

看護師・介助士 92. 5% (95.6%)

医師・研修医 98. 9% (89.3%)

コメディカル 93. 1% (98.6%) 事務職員 92% (98.4%)

委託業者：155名 (151名)

* 新型インフルエンザ (H1N1) ワクチン接種も実施したため、季節性インフルエンザワクチンの接種率が例年に比べ低下した。

8. Infection Control News の発行

毎月 1 回のサーベイランス情報の他、感染防止情報、お知らせなど、感染症情報と共に適宜発信した。

* 新型インフルエンザ (H1N1) の流行に伴い、掲示板での情報発信も増えた。

9. 感染防止講演会開催

	対象者	参加人数	テーマ	研修時間	担当者
1月9日	院内職員	131名	新型インフルエンザについて (受け入れ訓練)	120分	吉田、倉田、垣内
10月16日	院内職員	75名	当院における新型インフルエンザ対応の実際と今後の課題	60分	吉田、垣内

10. 感染症法による発症届 報告

2類感染症 結核： 8件

3類感染症 O157： 1件

4類感染症 レジオネラ： 2件

5類感染症：

後天性免疫不全症候群 2件、クロイツフェルトヤコブ病 1件、梅毒 1件

新型インフルエンザ発生届： 疑似症 2件、確定後入院 2件

以後、入院サーベイランスにて報告 96件

11. 職員の結核健診検査 (QFT - 2G) 実施

昨年導入し、医師・看護師を対象に実施した。

2009年は、コメディカルを対象に実施。

4月新規採用者と昨年10月以降採用者もあわせ、計184名に実施 (5月)。

今後は、5月・10月に新規入職者を対象に実施していく。

医療安全管理部 医療安全対策室

1 新体制について

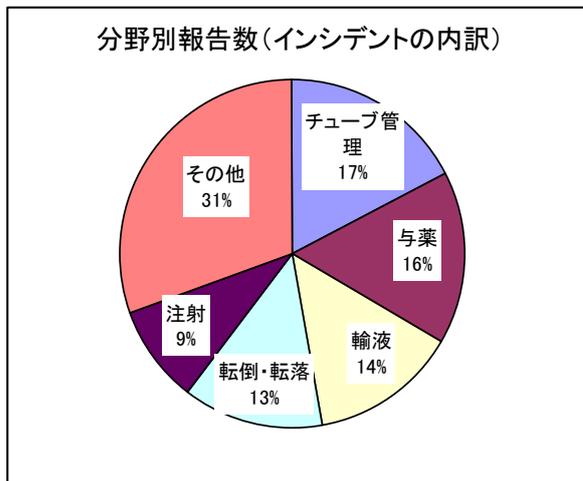
平成 22 年 4 月 1 日から、渉外担当として警察OBを採用予定です。院内暴力及び迷惑行為の防止のため活動を行います。

これで医師（兼任）1名、看護師1名、事務2名、渉外担当1名、業務補助1名という体制になります。今後とも医療事故の防止・院内の安心安全確保に努めていきます。

2 平成 21 年度のインシデントについて

全職員から、日常の診療における「ヒヤリ」「ハッ」とした経験（インシデント：間違いには至らなかった、または患者さんに有害な結果が発生しなかったこと）や、結果的に患者さんにとって本来の治療目的に反した有害な事象（アクシデント：事故）が報告されます。また、アクシデントは、三重県の公表基準に従って公表しています。

○平成 21 年度の総数は以下のとおりです。



インシデント（ヒヤリ・ハット）報告
：総計 1003 件

【注】

チューブ管理：点滴時のチューブの閉塞や抜き
与薬：薬の量や種類、手渡し間違い
輸液：点滴速度、点滴時間の間違い
注射：注射量、注射時間の間違い
転倒・転落：歩行時、排泄時の転倒やベッドからの転落

いずれも大事に至りませんでした。全ての報告は医療安全対策室で目を通し、事故防止対策に繋がっています。

3 平成 21 年度に実施した医療安全対策について

院内からのインシデント・アクシデント報告を受け、あるいは院外で起こった事故の情報を収集して、事故防止のための対策を立てています。平成 21 年度に実施した主な対策・取り組みは次のとおりです。

処方箋確認を徹底するための院内キャンペーンの実施

転倒転落事故防止ガイドラインの策定

誤認手術防止対策として「タイムアウト」実施

患者誤認防止キャンペーンの実施

経鼻栄養チューブの確認方法策定

血管外漏出に注意すべき薬剤と漏出時の対処方法策定

これらの対策は、各部門の代表者からなるリスクマネジメント部会で決定し、毎月メールマガジンとして院内に配信して周知を図るなど、情報の共有に努めています。

4 研修会の実施について

毎年2回、全職員を対象に医療安全管理の研修・講習会を実施しています。

平成21年度は、初めての取組として、院内スタッフによる「ヒヤリ・ハット劇」研修を開催しました。劇を見て事故防止策や家族への説明について参加者が意見交換を行い、医療安全について改めて考えるよい機会となりました。職員から内容について大変高い評価を得ています。

また、院内での転倒転落防止ガイドラインを作成し、その発表と同時に転倒転落防止についての研修会を開催しました。

第1回 平成21年7月27日

出演者 当院医師・看護師・薬剤師

タイトル チームヒヤリの栄光

～あなたならどうする！医療事故発生時のシミュレーション～



第2回 平成21年8月21日

講師 当院医師及び看護師

タイトル 転倒転落後の対応と防止策～当院の一事例を振り返って～

5 院内暴力対策について

全国的に、患者さんやその家族から病院職員に対する暴力行為や、病院の運営を妨げる迷惑行為が問題となっています。これに対し当院では、医療安全対策室が中心となり対応に取り組んでいます。

なお、平成22年度からは前述のとおり警察OBを採用し、体制を強化するところです。

平成21年度に医療安全対策室が報告を受けた暴力行為、迷惑行為は9件でした。そのうち4件については、警察に通報、相談等の対応を取りました。

(10) 学会・研究発表および論文発表実績

循環器科

<学会発表>

第 133 回日本循環器学会東海地方会 2009. 6. 13

心肺停止にて来院し、救命し得た原発性左冠動脈主幹部解離の一例

県立総合医療センター循環器科 熊谷直人、櫻井正人、山中 崇、森木宣行、牧野克俊
同心臓血管外科 真栄城亮、井上健太郎、天白宏典、近藤智昭

第 134 回日本循環器学会東海地方会 2009. 11. 7

脳梗塞で発見された感染性 Valsalva 洞動脈瘤の一例

県立総合医療センター循環器科 宮木崇典、熊谷直人、山中 崇、櫻井正人、森木宣行、
牧野克俊
同心臓血管外科 真栄城亮、井上健太郎、天白宏典、近藤智昭

<研究会>

第 96 回三重循環器研究会 2009. 3. 12

心肺停止にて来院し、救命し得た原発性左冠動脈主幹部解離の一例

県立総合医療センター循環器科 貝沼圭吾、熊谷直人、加藤慎也、櫻井正人、森木宣行、
牧野克俊
同心臓血管外科 井上健太郎、天白宏典 近藤智昭

三重県超音波研究会 循環器分科会 2009. 12. 4

収縮性心膜炎の 2 例

県立総合医療センター循環器科診療放射線グループ 診療放射線技師 伊藤力
同循環器科 熊谷直人、森木宣行

三重心不全フォーラム 2009 Winter 2009. 12. 2

左心不全から両心不全にいたる病態について

県立総合医療センター循環器科 熊谷直人

呼吸器科

<学会・地方会>

第 113 回日本結核病学会東海地方学会・第 95 回日本呼吸器学会東海地方学会

H21.6.27-6.28 名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール）

・左上葉無気肺を呈し気管支結核との鑑別を要した気管支喘息の 1 例

○都丸敦史、前田 光、藤原研太郎、大西真裕、中原博紀、油田尚総、吉田正道

・尿中抗原に加え喀痰培養、血清抗体価により診断しえたレジオネラ肺炎の 1 例

○藤原研太郎、都丸敦史、前田 光、大西真裕、中原博紀、油田尚総、吉田正道

- ・気胸で発見されたリンパ脈管筋腫症の1例
○中原博紀、都丸敦史、前田 光、藤原研太郎、大西真裕、油田尚総、吉田正道
- ・再燃と移動性浸潤影を呈した乳癌放射線治療関連 COP の1例
○前田 光、都丸敦史、藤原研太郎、大西真裕、中原博紀、油田尚総、吉田正道
- ・副腎偶発腫瘍を契機に発見された肺葉内肺分画症の1例
○大西真裕、都丸敦史、前田 光、藤原研太郎、中原博紀、油田尚総、吉田正道

第 114 回日本結核病学会東海地方学会・第 96 回日本呼吸器学会東海地方学会

H21.11.22-11.23 愛知県産業労働センター（ウイंकあいち）

- ・血糖管理で自然軽快した *Mycobacterium gordonae* 感染症の疑い例
○大西真裕、都丸敦史、前田 光、藤原研太郎、中原博紀、油田尚総、吉田正道
- ・気管支喘息治療中に続発した肺 MAC 症及び肺ムーコル症の1例
○都丸敦史、前田 光、藤原研太郎、大西真裕、中原博紀、油田尚総、吉田正道
- ・著明な好酸球増多を呈した肺ペニシリウム症の1例
○前田 光、都丸敦史、藤原研太郎、大西真裕、中原博紀、油田尚総、吉田正道
- ・アミオダロンによる薬剤性肺障害の1例
○藤原研太郎、都丸敦史、前田 光、大西真裕、中原博紀、油田尚総、吉田正道

第 95 回中部肺癌学会

H21.9.12 (財)三重北勢地域地場産業振興センター「じばさん三重」

- ・傍腫瘍性神経症候群が先行した肺小細胞癌の1例
○大西真裕、都丸敦史、前田 光、藤原研太郎、中原博紀、油田尚総、吉田正道

第 38 回 日本呼吸器内視鏡学会 中部支部会

H21.12.5 名古屋市立大学病院病棟・中央診療棟 3 階大ホール

- ・気管支病変を呈したクリプトコッカス症の1例
○中原博紀、都丸敦史、前田 光、藤原研太郎、大西真裕、油田尚総、吉田正道

<研究会>

第 67 回東海呼吸器感染症研究会

H21 年 9 月 5 日 ロイヤルパークイン名古屋

- ・気管支喘息治療中に続発した肺 MAC 症及び肺ムーコル症の1例
○都丸敦史、前田 光、藤原研太郎、大西真裕、中原博紀、油田尚総、吉田正道

第 105 回三重胸部疾患症例検討会

平成 22 年 1 月 12 日 四日市都ホテル

出題 1. 結節影 油田尚総

Chugai Lung Cancer Symposium 平成 22 年 3 月 2 日 ベイシスカ

アバスチンの効果が早期に確認された 2 例 吉田正道

<講演>

第 289 回北勢地区呼吸器談話会

平成 21 年 4 月 20 日 四日市医師会館

最近経験した症例から 油田尚総

第 292 回北勢地区呼吸器談話会

平成 21 年 7 月 27 日 四日市医師会館

呼吸器真菌感染症 吉田正道

第 294 回北勢地区呼吸器談話会

平成 21 年 10 月 19 日 四日市医師会館

当院における最近の呼吸器内視鏡検査について 油田尚総

第 297 回北勢地区呼吸器談話会

平成 22 年 1 月 18 日 四日市医師会館

最近経験した症例から 吉田正道

第 164 回三重県病院薬剤師会桑員地区勉強会 平成 21 年 8 月 21 日 くわなメディアライブ

呼吸器感染症の適正な抗菌薬使用方～PK/PD 理論を含めて～ 吉田正道

消化器科

第 253 回三重肝胆膵疾患研究会 平成 21 年 9 月 25 日 7st 津

PIVKA-II が高値を示した肝偽腫瘍の 1 例

三重県立総合医療センター消化器科

森谷勲、為田雅彦、山口由美、伊藤圭一、高瀬幸次郎

第 254 回三重肝胆膵疾患研究会 平成 21 年 11 月 28 日 7st 津

C 型慢性肝炎の急性増悪に対してインターフェロン療法が著効した一例

三重県立総合医療センター消化器科

為田雅彦、森谷勲、山口由美、伊藤圭一、高瀬幸次郎

第 210 回内科学会東海地方会 平成 22 年 2 月 20 日 名古屋国際会議場

出血性胃潰瘍にて発見された胃アニサキス症による vanishing tumor の 1 例

三重県立総合医療センター消化器科

為田雅彦、森谷勲、大矢由美、伊藤圭一、高瀬幸次郎

第 210 回内科学会東海地方会 平成 22 年 2 月 20 日 名古屋国際会議場

胃石によるイレウスの 1 例

三重県立総合医療センター内科

田中萌絵、森谷勲、為田雅彦、大矢由美、伊藤圭一、高瀬幸次郎

神経内科

<学会>

第 5 回 MMC 神経内科セミナー 2009 年 4 月 25 日

これでもう迷わない！脳梗塞の t-PA 治療

三重県立総合医療センター 近藤諭、吉田智之、鈴木賢治

第 6 回 MMC 卒後研修臨床懇話会 2010 年 1 月 30 日

弧発性 Creutzfeldt-Jakob 病の一例

三重県立総合医療センター 田中蒔絵、野口智之、近藤諭、吉田智之、鈴木賢治

MMC 神経内科・脳神経外科合同セミナー 2010 年 2 月 6 日

虚血性脳卒中内科と外科のチーム医療～頸動脈内膜剥離術を中心に～

三重県立総合医療センター 吉田智之、鈴木賢治

北勢地区学術講演会 2010 年 2 月 17 日

当院での一過性脳虚血発作経験例

三重県立総合医療センター 吉田智之、鈴木賢治

第 210 回日本内科学会東海地方会 2010 年 2 月 20 日

肺動静脈奇形に伴った脳梗塞の 1 例

三重県立総合医療センター 吉田健太、鈴木あゆ美、笹邊淳、吉田智之、鈴木賢治

第 126 回日本神経学会東海北陸地方会 2010 年 3 月 6 日

橋梗塞後に両側中小脳脚に Waller 変性を認めた 3 例

三重県立総合医療センター 吉田智之、鈴木賢治

外科

<学会>

第 109 回日本外科学会定期学術集会 2009. 4. 4 福岡

大腸穿孔症例における予後予測スコアの有用性に関する検討

三重県立総合医療センター外科

小西尚巳 渡部秀樹 尾嶋英紀 伊藤秀樹 木下恒材 重盛千香 池田哲也 登内 仁

日本消化器病学会東海支部第 110 回例会 津 2009. 6. 6

高度貧血を契機に発見された巨大 Brunner 腺過形成の 1 例

沖上正人、渡部秀樹、尾嶋英紀、伊藤秀樹、小西尚巳、木下恒材、重盛千香、池田哲也、
登内 仁

第 17 回 日本乳癌学会 東京 2009. 7. 3

当院の乳房温存手術の状況—断端陽性の検討

重盛千香、伊藤みのり、渡部秀樹、尾嶋英紀、小西尚巳、伊藤秀樹、木下恒材、池田哲也、
登内仁、草野五男

第 64 回日本消化器外科学会総会 2009. 7. 17 大阪

膵癌術後に発症した髄膜癌腫症に対し Gemcitabine が著効した一例

三重県立総合医療センター外科

小西尚巳 沖上正人 渡部秀樹 尾嶋英紀 木下恒材 重盛千香 池田哲也 伊藤秀樹
登内 仁

第 71 回日本臨床外科学会総会 京都 2009. 7. 19

CABG 後の胸骨感染に対し大網充填術を施行し、その後前胸部にヘルニアを認めた一例

伊藤みのり、沖上正人、渡部秀樹、尾嶋英紀、伊藤秀樹、小西尚巳、木下恒材、重盛千香、
池田哲也、登内仁、井上健太郎、 天白宏典、 近藤智明

第 71 回日本臨床外科学会総会 京都 2009. 7. 21

急性期に腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行しえた気腫性胆嚢炎の 1 例

池田哲也、伊藤みのり、渡部秀樹、尾嶋英紀、伊藤秀樹、小西尚巳、木下恒材、重盛千香、
登内仁

市民公開講座 四日市 2009. 10. 30

チーム医療による癌診療 大腸癌

尾嶋英紀、池田哲也、沖上正人、渡部秀樹、小西尚巳、伊藤秀樹、木下恒材、重盛千香、
登内 仁

市民公開講座 四日市 2009. 10. 30

チーム医療による癌診療 胃癌

小西尚巳、尾嶋英紀、池田哲也、沖上正人、渡部秀樹、伊藤秀樹、木下恒材、重盛千香、
登内 仁

第 64 回大腸肛門病学会 福岡 2009. 11. 6

術前化学放射線療法を施行した直腸癌 5 例の検討

三重県立総合医療センター外科

尾嶋英紀、池田哲也、沖上正人、渡部秀樹、小西尚巳、伊藤秀樹、木下恒材、重盛千香、
登内 仁

第 71 回日本臨床外科学会総会 京都 2009. 11. 19

膿瘍形成を伴う小腸 GIST に対し腹腔鏡下切除を行った 1 例

三重県立総合医療センター外科

志村匡信、尾嶋英紀、沖上正人、渡部秀樹、小西尚巳、伊藤秀樹、木下恒材、重盛千香、
池田哲也、登内 仁

第 22 回日本内視鏡外科学会 東京 2009. 12. 5

腹腔鏡下に切除し得た小腸炎症性線維性ポリープの一例

渡部秀樹、沖上正人、尾嶋英紀、小西尚巳、伊藤秀樹、木下恒材、重盛千香、池田哲也、
登内 仁

第 263 回三重外科集談会 津 2009. 12. 13

S 状結腸膀胱瘻の 3 例

井出正造、渡部秀樹、沖上正人、尾嶋英紀、小西尚巳、伊藤秀樹、木下恒材、重盛千香、
池田哲也、登内 仁

<論文>

日本臨床外科学会雑誌 Vol. 70 (2009) , No. 3 p.912-916

骨盤内神経鞘腫の 1 例

西川 隆太郎 1)、本泉 誠 3)、小西 尚巳 2)、木下 恒材 2)、池田 哲也 2)、登内 仁
2)

1) 伊賀市立上野総合市民病院外科

2) 三重県立総合医療センター外科

3) 玉城町立病院

日本臨床外科学会雑誌 Vol. 70 (2009) , No. 2 p.516-519

胆管壁内嚢胞の 1 例

西川 隆太郎 1)、小西 尚巳 2)、木下 恒材 2)、池田 哲也 2)、登内 仁 2)

1) 伊賀市立上野総合市民病院外科

2) 三重県立総合医療センター外科

心臓血管外科・呼吸器外科

<学会・研究会発表>

第 39 回 日本心臓血管外科学会学術総会 平成 21 年 4 月 22～24 日 富山
急性 A 型大動脈解離に対する心タンポナーデ解除の有効性—全例救命生存経験からの検討
近藤智昭、天白宏典、井上健太郎、真栄城亮

第 37 回 日本血管外科学会総会 平成 21 年 5 月 14～15 日 名古屋
全例救命し得た上腸間膜動脈閉塞を合併した急性大動脈解離の 4 例
近藤智昭、天白宏典、井上健太郎、真栄城亮

第 26 回 日本呼吸器外科学会総会 平成 21 年 5 月 14～15 日 小倉
術後病理組織診断に難渋した肉腫型胸膜中皮腫の 1 例
井上健太郎・天白宏典・真栄城亮・近藤智昭
周術期に脳転移をきたした非小細胞肺癌手術症例の検討
天白宏典、井上健太郎、真栄城亮、近藤智昭

第 52 回 関西胸部外科学会学術集会 平成 21 年 6 月 4～5 日 岡山
ハートポジショナーが有効であった胸骨正中切開による左全摘の 1 例
天白宏典、近藤智昭、井上健太郎、真栄城亮

第 95 回 日本肺癌学会中部支部会 平成 21 年 9 月 12 日 四日市
大量血胸にて発症した悪性胸膜中皮腫の 1 例
天白宏典、井上健太郎、近藤智昭、真栄城亮

第 50 回 日本肺癌学会総会 平成 21 年 11 月 12～13 日 東京
肺癌、胃癌の重複癌手術後 3.5 年目に発症した 3 つの同時性多発肺の 1 切除例
井上健太郎・天白宏典・真栄城亮・近藤智昭
当科で経験した悪性胸膜中皮腫の 4 手術例
天白宏典、井上健太郎、近藤智昭、真栄城亮

第 6 回 南部病診連携の会 平成 21 年 11 月 20 日 四日市
当院における心臓血管外科の現状
近藤智昭

脳神経外科

第 7 4 回 日本脳神経外科学会中部支部学術集会
くも膜下出血と小脳出血を来した末梢性前下小脳動脈動脈瘤の 1 例
藤本昌志、亀井裕介、岡田昌彦

第 1 1 回 三重大阪脊椎脊髄外科シンポジウム

後方からアプローチした OPLL の 2 例

亀井裕介、藤本昌志、岡田昌彦

第 6 2 回 三重脳神経外科集談会

Cavernous sinus meningioma の一例

亀井裕介、寺田美生、藤本昌志、岡田昌彦

第 6 3 回 三重脳神経外科集談会

大型脳底動脈遠位部動脈瘤の 2 症例

亀井裕介、藤本昌志、岡田昌彦

第 1 9 回 脳神経外科同門会

脊椎脊髄手術の合併症の検討

亀井裕介、岡田昌彦、藤本昌志

当院における indocyanine green(ICG)を用いた術中蛍光血管撮影の検討

藤本昌志、亀井裕介、岡田昌彦

産婦人科

<学会発表・シンポジウム>

谷口晴記、塚原優己、井上孝実、山田里佳、大島教子、林公一、蓮尾泰之、佐久本薫、早川智、喜多恒和、稲葉憲之、和田裕一：HIV 母子感染予防対策マニュアル改訂時の検討項目と今後の課題、HIV 母子感染予防対策マニュアル改訂時の検討項目と今後の課題、2009 年 4 月 3-5 日、京都市

谷口晴記、塚原優己、井上孝実、山田里佳、大金美和、辻麻里子、内山正子、渡邊英恵、源河いくみ、外川正生、喜多恒和、稲葉憲之、和田裕一：HIV 母子感染予防対策マニュアル第 5 版改訂時の検討項目および今後の課題、第 27 回日本産婦人科感染症研究会、2009 年 6 月 20 日、宇都宮市

伊藤譲子、田中浩彦、小林巧、吉田佳代、朝倉徹夫、谷口晴記：子宮体癌術後に TC 療法を行い、著明な紅斑を生じた一例、第 18 回三重県産婦人科腫瘍研究会、2009 年 7 月 2 日、津市

田中浩彦、小林巧、伊藤譲子、吉田佳代、朝倉徹夫、谷口晴記、長尾賢治：広間膜内に発育する径 10cm 以上の子宮筋腫に対し腹腔鏡下手術を施行した 3 症例、第 49 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会、2009 年 9 月 3 日～5 日、高知

伊藤譲子, 田中浩彦, 小林巧, 吉田佳代, 朝倉徹夫, 谷口晴記: 子宮体癌術後にTC療法を行い, 全身性びまん性紅斑を生じた一例, 第125回東海産婦人科学会, 2009年9月23日, 岐阜市

田中浩彦, 小林巧, 吉田佳代, 朝倉徹夫, 谷口晴記, 長尾賢治: リガシユアV、バイクランプを用いた子宮周囲靱帯処理(腹腔鏡下付属器切除術、単純子宮全摘術において、第11回東海産婦人科内視鏡懇話会ワークショップ「婦人科内視鏡手術(腹腔鏡/子宮鏡/卵管鏡)における機材選択と操作のコツ」、2009年10月17日、名古屋、

小林巧, 田中浩彦, 伊藤譲子, 吉田佳代, 朝倉徹夫, 谷口晴記: 胎児母体間輸血症候群(feto-maternal transfusion syndrome)の原因としてchorangiosisが疑われた1例: 第17回日本胎盤学会学術集会, 2009年10月17日, 東京都

上田あすか, 森尚義, 谷口晴記: “治療の個別化”を重視したHAART療法の実施, 第23回日本エイズ学会学術集会・総会, 2009年11月26日-28日, 名古屋市

森尚義, 谷口晴記: 5度の薬剤変更を経てDarunavirとRaltegravirの併用が奏効した多剤耐性HIV感染症の1例, 第23回日本エイズ学会学術集会・総会, 2009年11月26日-28日, 名古屋市

田中浩彦, 小林巧, 伊藤譲子, 吉田佳代, 朝倉徹夫, 谷口晴記: 腹腔鏡下手術を施行した卵巣成熟奇形腫内thuroid-type carcinomaの1例, 第22回日本内視鏡外科学会総会、2009年12月3日-5日, 東京.

谷口晴記: 日本性感染症学会・エイズ学会合同シンポジウム 妊娠と性感染症～性感染症について知り、母子感染を防いで元気な赤ちゃんを産むために～, HIV感染症と妊娠・わが国の最新の状況と問題点・母子感染予防の取り組みとその変遷, 第22回日本性感染症学会学術大会, 2009年12月13日, 京都市

<講演会等>

谷口晴記: 母子感染予防対策マニュアルとその変遷. エイズ予防財団主催平成20年度研究成果発表会「わが国における妊婦のHIV感染～対応策とその進歩」. 2009.1.24 (仙台)

谷口晴記: 母子感染予防対策マニュアルとその変遷. エイズ予防財団主催平成20年度研究成果発表会「わが国における妊婦のHIV感染～対応策とその進歩」. 2009.2.01 (佐世保)

谷口晴記: 私たちは、エイズ・マラリアなどの病気をとめられるか. ガールスカウト三重県支部総会 2009.5. 24, 津市

朝倉徹夫：子宮がんについて，第2回県立総合医療センター市民公開講座「チーム医療によるがん診療」、平成21年2月28日（四日市）

朝倉徹夫：婦人科がんについて，第3回県立総合医療センター市民公開講座「チーム医療によるがん診療」、平成21年10月31日（四日市）

<座長>

1) 座長：谷口晴記：HIV 母子感染予防対策の成果・そして課題、第23回日本エイズ学会学術集会シンポジウム10, 2009.11.26-28, 名古屋市

<論文・著書>

谷口晴記, 田中 浩彦, 伊藤 譲子, 吉田佳代, 朝倉徹夫：性感染症 up to date, 【性感染症への対応と治療】7.梅毒.臨床婦人科産科 63(2), 170-173, 2009

谷口 晴記, 井上孝実, 大金美和, 山田里佳, 源河いくみ, 佐野（嶋）貴子, 辻麻里子, 内山正子, 沼直美, 渡邊英恵), 喜多恒和, 外川正生, 塚原優己：わが国独自の「HIV 母子感染予防対策マニュアル」改訂の骨子, 産婦人科の実際. 58 (3), 445-451, 2009

森尚義, 谷口晴記：ダルナビルとラルテグラビルの併用が奏効した多剤耐性 HIV 感染症の1例, 新薬と臨床, 58(7), 1259-1262, 2009

Tanaka H, Ito M, Yoshida K, Asakura T, Taniguchi H. : Nonbacterial thrombotic endocarditis complicated with stage Ia ovarian cancer. : Int J Clin Oncol. 2009 Aug;14(4):369-71. Epub 2009 Aug 25

田中浩彦、伊藤譲子、吉田佳代、朝倉徹夫、谷口春記：腹腔鏡下手術後に判明した成熟奇形腫合併甲状腺腫性カルチノイドの1例 日産婦内視鏡学会 2009：25；233-235

佐野（嶋）貴子, 山田 里佳, 谷口 晴記, 近藤 真規子, 今井 光信, 塚原 優己：妊娠と HIV 感染、臨床検査, 53(4), 467-471, 2009

源河 いくみ、山田 里佳、谷口 晴記、他：HIV 母子感染予防のための薬物療法（特集 産科の薬物療法）--（母体疾患の薬物療法）、周産期医学, 39(11)、1569～1576, 2009

整形外科

第 216 回整形外科集談会東海地方会 (平成 21 年 6 月 20 日 名古屋市)

大腿骨膝蓋面に発症した離断性骨軟骨炎の 1 例

加藤弘明、牧野祥典、岡村直樹、森本剛司、北尾 淳、松本壽夫：森健太郎

第 1 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (平成 21 年 6 月 25 日～27 日 札幌市)

Fast-fix による半月板縫合術後の再鏡視所見

北尾 淳、松本壽夫、森本剛司、川村豪伸、村木 真

第 19 回三重関節鏡・関節外科研究会 (平成 21 年 10 月 22 日 津市)

脛骨顆間隆起骨折に対する鏡視下スクリュー固定法の経験

加藤弘明、松本壽夫、北尾 淳、森本剛司、岡村直樹、牧野祥典

第 48 回東海整形外科外傷研究会学術集会 (平成 22 年 3 月 20 日 名古屋市)

踵骨裂離骨折の 1 例

牧野祥典、松本壽夫、北尾淳、森本剛、岡村直樹、加藤弘明

第 3 回東海人工関節研究会 (平成 22 年 1 月 23 日 名古屋市)

大腿骨コンポーネントが脱転した Oxford UKA の 1 例

北尾淳、松本壽夫、岡村直樹、森本剛、加藤弘明、牧野祥典

第 16 回東海関節鏡研究会 (平成 22 年 2 月 16 日 名古屋市)

運動により疼痛が増悪した膝関節内索状物の 1 例

岡村直樹、松本壽夫、北尾淳、森本剛、加藤弘明、牧野祥典

皮膚科

<学会発表>

第 10 回 三重大学皮膚科同門会学会 平成 21 年 2 月 8 日

昨年最も印象に残った 1 例

加古智子

泌尿器科

第 45 回 三重泌尿器科医会 (1 月 27 日・津市)

三重県立総合医療センター泌尿器科における手術統計 (2008)

栃木宏水、神田英輝、松浦 浩、亀田晃司

第 51 回 中北勢泌尿器科医会 (10 月 9 日・四日市市)

当科における男子尿道炎の検討

松浦 浩、金井優博、栃木宏水、亀田晃司

耳鼻咽喉科

研究会発表・座長

第 94 回 北勢耳鼻咽喉科談話会

日時：平成 21 年 3 月 5 日（木）

場所：ロワジールホテル四日市

座長：三重県立総合医療センター 耳鼻咽喉科 有馬忍

講演：唾液腺腫瘍の取り扱いについて

演者：三重県立総合医療センター 耳鼻咽喉科 有馬忍

講演

三重県事業庁：看護研修

日時：平成 21 年 5 月 30 日

場所：三重県津庁舎

講演：摂食・嚥下障害について

演者：三重県立総合医療センター 耳鼻咽喉科 有馬忍

研究会発表

138 回 耳鼻咽喉科東海地方部会

日時：平成 21 年 9 月 7 日（日）

場所：名古屋市立大学

口演：最近経験した神経鞘腫の 3 例

演者：三重県立総合医療センター 耳鼻咽喉科 有馬 忍

麻酔科

・学会発表

木崎理絵 1、大井由美子 2、奥田真弘 3

三重県立総合医療センター麻酔科 1、国立病院機構三重病院麻酔科 2、

三重大学医学部附属病院臨床麻酔部 3

親の私服同伴入室は小児の術前不安を軽減するか

日本麻酔科学会 第 56 回学術集会

平成 21 年 8 月 17 日 神戸市

看護部

I. 平成21年度 三重県病院事業庁看護研究発表会 : H21年6月27日

1. 小林 茜. 中井智恵. 片岡広子
「4階東病棟スタッフにおける褥瘡発生予防行動に対する認識」
－背抜き前と背抜き後の殿部圧・背部圧を比較して－
2. 長井万季
臨地実習で役割モデルとなる臨床看護師の認識と行動
－経験での違いと認識・行動する契機－

II. ハートナーシング (メディカ出版) 2009年第22号8号

- 6東病棟 谷口美佳 他 KYT チーム
「安全防止対策: KYT 活動」

検査部

第13回 日本神経生理検査研究会 中部地区研修会

名古屋市立大学 平成21年9月26日

演題名: 「神経伝導検査における測定時の注意点」

演者: 坂下文康

中央放射線部

一般演題

第11回三重県超音波研究会 2009年7月5日 三重県総合文化センター

「増大傾向を認めた肝血管腫の一例」水谷 美晴

第15回三重県放射線技師超音波研究会 2009年7月25日 三重県立総合医療センター

「虫垂について」水谷 美晴

第15回三重県超音波研究会循環器分科会 2009年12月4日 三重大学付属病院

「収縮性心膜炎の一例」伊藤 力

講演

三重県放射線技師超音波研究会 2009年7月25日 三重県立医療センター

「症例検討」安本 浩二

津神原地区画像研究会 2009年7月17日 ころの医療センター

「脾臓超音波」安本 浩二

中部超音波フォーラム 2009年7月26日、8月23日、9月13日、10月18日 金沢、名古屋

「胆道系の超音波」安本 浩二

中部超音波フォーラム 2009年11月21日 愛知ガンセンター
「超音波用語の解説（胆道・臍）」安本 浩二

放射線技師会・技術学会合同中部地方会 2009年11月7日 大垣
「下肢動脈超音波検査について」安本 浩二

座長

診療放射線技術フォーラム 平成21年3月28日 三重大学医学部
〈シンポジウム〉「テーマ：みんなで放射線技師の将来を考えよう」加藤 進

薬剤部

〈原著論文〉

新薬と臨牀 第58巻 第7号 135-138

「ダルナビルとラルテグラビルの併用が奏効した多剤耐性 HIV 感染症の1例」

○森 尚義、谷口 晴記

〈学会発表〉

第1回東海 HIV/AIDS 治療研究会 平成21年9月26日 名古屋

「Darunavir と Raltegravir 併用療法に関する治療効果と安全性の検討」

○森 尚義、谷口 晴記

第23回日本エイズ学会学術集会 総会 平成21年11月26日 名古屋

「多剤耐性獲得患者への Darunavir と Raltegravir 併用療法に関する有効性・安全性・アドヒアランスの検討」

○森 尚義、谷口 晴記

第23回日本エイズ学会学術集会 総会 平成21年11月26日 名古屋

「5度の薬剤変更を経て Darunavir と Raltegravir の併用が奏効した多剤耐性 HIV 感染症の1例」

○森 尚義、谷口 晴記

第23回日本エイズ学会学術集会 総会 平成21年11月28日 名古屋

「“治療の個別化”を重視した HAART 療法の実施」

○上田 あすか、森 尚義、谷口 晴記

栄養グループ

第12回日本病態栄養学会年次学術集会 平成21年1月10・11日
「ストーマ排液調整に食物繊維が奏効を示した1例について」 秦 いづみ

第7回 北勢・地域連携栄養カンファレンス 平成21年3月14日
「新しい術後食の取組み」 秦 いづみ

第24回日本静脈経腸栄養学会 平成21年1月30・31日
「栄養療法が奏効したフルニエ症候群の1例」 秦 いづみ

第24回日本静脈経腸栄養学会 平成21年1月30・31日
「上大静脈血栓症で中心静脈栄養が困難になった短腸症候群に対して NST が介入し良好な経過をみた一例」 沖野 美由紀

3. 統計データ

(1) 患者統計

平成21年 診療科別外来延べ患者数

科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科	651	408	472	455	636	470	561	610	676	696	697	683	7,015
外科	1,198	1,165	1,213	1,274	1,077	1,220	1,275	1,185	1,138	1,163	1,030	1,105	14,043
心臓血管外科	165	144	151	153	161	156	158	123	165	150	134	150	1,810
脳神経外科	474	459	505	528	499	521	535	475	459	479	463	445	5,842
小児科	1,065	894	1,098	1,057	1,061	1,019	1,115	1,117	1,114	1,333	1,463	1,167	13,503
産婦人科	1,277	1,136	1,252	1,211	1,167	1,278	1,280	1,188	1,199	1,198	1,047	1,175	14,408
整形外科	1,313	1,202	1,276	1,182	1,112	1,304	1,316	1,318	1,280	1,253	1,181	1,112	14,849
リハ科	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
皮膚科	504	521	629	614	549	626	723	654	54	50	62	52	5,038
泌尿器科	651	684	701	692	611	644	658	656	620	669	597	615	7,798
眼科	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
耳鼻咽喉科	516	602	734	676	545	565	558	431	379	368	352	410	6,136
精神科	486	490	554	528	487	492	539	505	490	520	465	456	6,012
放射線科	204	407	421	282	193	251	202	214	229	233	177	162	2,975
神経内科	316	315	376	333	310	369	426	350	371	396	271	356	4,189
循環器科	1,082	941	1,166	1,152	1,034	1,115	1,177	1,044	1,055	1,069	1,013	1,012	12,860
呼吸器科	964	915	1,085	1,117	995	1,058	1,126	995	1,029	1,090	1,032	979	12,385
消化器科	1,281	1,201	1,348	1,301	1,170	1,427	1,413	1,297	1,294	1,315	1,138	1,257	15,442
呼吸外科	46	33	52	43	49	42	44	40	35	41	33	54	512
合計	12,193	11,519	13,034	12,598	11,657	12,557	13,106	12,202	11,587	12,023	11,155	11,190	144,821

平成21年 診療科別入院延べ患者数

科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	1,125	1,162	1,272	1,082	1,114	1,033	1,135	1,161	1,085	1,048	1,117	1,068	13,402
心臓血管外科	446	398	338	423	444	404	434	347	343	301	288	199	4,365
脳神経外科	1,091	837	815	777	800	610	492	591	651	934	798	674	9,070
小児科	872	625	882	990	849	765	869	811	763	951	931	1,059	10,367
産婦人科	805	873	845	882	942	1,017	941	782	823	854	875	991	10,630
整形外科	816	819	859	799	737	816	892	1,055	738	1,023	1,113	850	10,517
リハ科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	66	21	7	51	48	27	35	22	0	0	0	0	277
泌尿器科	294	268	331	286	336	412	407	202	269	284	227	208	3,524
眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	109	109	136	142	58	82	126	72	66	38	10	59	1,007
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経内科	494	447	486	363	362	386	345	345	368	379	404	461	4,840
循環器科	762	672	769	731	574	567	572	572	637	534	582	725	7,697
呼吸器科	1,344	1,337	1,380	1,159	1,188	1,110	1,248	1,267	1,028	1,130	1,149	1,160	14,500
消化器科	930	782	630	673	972	894	884	905	1,057	1,113	866	753	10,459
呼吸外科	135	166	243	173	205	210	183	219	159	130	179	175	2,177
合計	9,289	8,516	8,993	8,531	8,629	8,333	8,563	8,351	7,987	8,719	8,539	8,382	102,832

入退院状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
新入院数	714	619	714	733	626	727	756	694	640	764	731	679	8,397
内紹介入院数	57	58	74	61	48	65	51	40	43	66	80	72	715
内救急入院数	118	97	99	124	126	97	146	117	112	125	158	130	1,449
転科入院数	21	27	23	35	19	26	25	30	19	20	21	29	295
退院数	627	633	710	727	650	740	741	705	657	742	711	780	8,423
内死亡退院数	38	31	36	47	43	30	35	27	34	38	34	32	425
転科退院数	21	27	23	35	19	26	25	30	19	20	21	29	295
平均在院日数	13.9	13.6	12.6	11.7	13.5	11.4	11.4	11.9	12.3	11.6	11.8	11.5	12.3

外来通院状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初診数	1,599	1,349	1,416	1,429	1,641	1,547	1,617	1,650	1,555	1,656	1,696	1,562	18,717
内紹介患者数	393	413	421	414	374	493	495	421	384	428	434	361	5,031
内救急患者数	977	597	717	663	1,025	649	794	866	1,014	1,053	1,141	1,067	10,563
平均通院日数	7.6	8.5	9.2	8.8	7.1	8.1	8.1	7.4	7.5	7.3	6.6	7.2	7.8

(2) 図書蔵書状況

蔵書状況（2009年12月31日現在）

	図書	製本雑誌	視聴覚資料	計
外国	203冊	0冊	0巻	203
国内	1236冊	0冊	82巻	1318
合計	1439冊	0冊	82巻	1521

雑誌受入タイトル数

外国雑誌	60タイトル
国内雑誌	82タイトル
計	142タイトル

(3) 病歴管理室統計

疾病別・診療科別・性別・退院患者数 (ICD小分類)

(H21. 1. 1~H21. 12. 31)

コード	疾病分類名	性別	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
	総数	男女	4439 4037	0 0	537 422	128 45	267 147	642 538	0 1326	439 439	12 7	305 43	92 42	169 100	551 209	634 288	585 397	78 34
C0100	感染症及び寄生虫症	男女	181 137	0 0	4 1	0 0	0 0	90 66	0 15	0 0	3 5	0 0	0 0	2 2	3 4	41 21	34 22	4 1
C0101	原因の明示された腸管感染症	男女	35 27	0 0	0 0	0 0	0 0	31 23	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 0	2 3	0 0
C0102	感染症と推定される下痢及び胃腸炎	男女	61 41	0 0	4 0	0 0	0 0	38 22	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	7 10	12 8	0 0
C0103	呼吸器結核	男女	4 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	4 1	0 0	0 0
C0104	その他の結核	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0105	百日咳	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0106	敗血症	男女	17 16	0 0	0 1	0 0	0 0	2 2	0 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	3 4	9 6	3 0	0 0
C0107	その他の細菌性疾患	男女	13 6	0 0	0 0	0 0	0 0	3 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	8 2	0 0	2 1
C0108	梅毒	男女	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0109	淋菌感染症	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0110	主として性的伝播様式をとるその他の感染症	男女	0 7	0 0	0 0	0 0	0 0	0 7	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0111	ヘルペスウイルス感染症	男女	4 1	0 0	0 0	0 0	0 0	3 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0112	水痘	男女	3 1	0 0	0 0	0 0	0 0	3 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0113	帯状疱疹	男女	2 5	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	2 3	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0114	麻疹	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0115	風疹	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0116	皮膚、粘膜の病変を伴うウイルス疾患	男女	2 6	0 0	0 0	0 0	0 0	2 6	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0117	B型ウイルス肝炎	男女	5 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	5 0	0 0
C0118	C型ウイルス肝炎	男女	11 11	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	11 10	0 0
C0119	その他のウイルス肝炎	男女	2 1	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0
C0120	ヒト免疫不全ウイルス〔HIV〕病	男女	0 4	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 2	0 0	0 0
C0121	ムンプス	男女	3 3	0 0	0 0	0 0	0 0	3 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0122	その他のウイルス疾患	男女	7 7	0 0	0 0	0 0	0 0	4 6	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	1 0	2 0	0 0	0 0
C0123	皮膚糸状菌症	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0124	カンジタ症	男女	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0
C0125	その他の真菌症	男女	8 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	6 0	0 0	2 0
C0126	結核の続発・後遺症	男女	2 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 0	0 0	0 0
C0127	その他の感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0128	その他の感染症及び寄生虫症	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0200	新生物	男女	975 1003	0 0	212 235	2 0	13 9	0 0	0 489	5 4	0 0	240 25	24 10	0 0	5 2	207 51	233 156	34 22
C0201	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物	男女	10 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	10 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0202	食道の悪性新生物	男女	62 4	0 0	32 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	3 0	27 1	0 0

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科	
C0203	胃の悪性新生物	男	89	0	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	28	0	
		女	45	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
C0204	結腸の悪性新生物	男	61	0	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	
		女	64	0	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	
C0205	直腸S状結腸移行及び直腸の悪性新生物	男	46	0	36	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8	0	0	
		女	27	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	
C0206	肛門及び肛門管の悪性新生物	男	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0207	肝及び肝内胆管の悪性新生物	男	47	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39	0	
		女	70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70	0	
C0208	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物	男	14	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	
		女	11	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	
C0209	膵の悪性新生物	男	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	
		女	12	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	
C0210	その他の消化器の悪性新生物	男	7	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	
		女	5	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
C0211	咽頭の悪性新生物	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0212	気管、気管支及び肺の悪性新生物	男	219	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	186	4	29	
		女	59	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	46	0	11	
C0213	その他の呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
		女	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3	
C0214	骨及び関節軟骨の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0215	皮膚の悪性黒色腫	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0216	その他の皮膚の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0217	中皮及び軟部組織の悪性新生物	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
		女	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0218	乳房の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	76	0	76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0219	子宮頸部の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	85	0	0	0	0	85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0220	子宮体の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	80	0	1	0	0	79	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0221	子宮の部位不明の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0222	卵巣の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	111	0	0	0	0	110	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
C0223	その他の女性性器の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0224	前立腺の悪性新生物	男	93	0	0	0	0	0	0	0	93	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0225	その他の男性性器の悪性新生物	男	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0226	腎及び腎盂の悪性新生物	男	18	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	1	0	0	
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	
C0227	膀胱の悪性新生物	男	114	0	0	0	0	0	0	0	114	0	0	0	0	0	0	
		女	13	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	
C0228	その他の尿路の悪性新生物	男	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	
		女	8	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	
C0229	眼及び付属器の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0230	中枢神経系の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0231	甲状腺の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	
C0232	ホジキン病	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0233	非ホジキンリンパ腫	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	
		女	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0234	白血病	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0235	その他のリンパ組織、造血組織の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0236	その他の悪性新生物	男	35	0	8	0	5	0	0	0	0	1	0	0	10	11	0	
		女	39	0	21	0	1	0	4	0	0	2	0	1	1	4	5	
C0237	子宮頸部の上皮内癌	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	12	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C0238	その他の上皮内新生物	男女	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0239	皮膚の良性新生物	男女	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0240	乳房の良性新生物	男女	0 3	0 0	0 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0241	子宮平滑筋腫	男女	0 105	0 0	0 0	0 0	0 0	0 105	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0242	卵巣の良性新生物	男女	0 82	0 0	0 0	0 0	0 0	0 80	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 2	0 0
C0243	泌尿器の良性新生物	男女	1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0244	中枢神経系のその他の新生物	男女	8 7	0 0	0 0	0 7	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0245	その他の新生物	男女	125 67	0 0	10 8	2 0	1 0	0 10	4 4	0 0	7 1	9 6	0 0	5 0	2 1	82 34	3 3
C0300	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	男女	24 19	0 0	1 7	0 0	8 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	3 2	8 3	4 4	0 0
C0301	鉄欠乏性貧血	男女	1 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 3	0 0
C0302	その他の貧血	男女	5 2	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 1	0 0	2 1	0 0
C0303	出血性の病態並びにその他の血液、造血器	男女	17 14	0 0	1 7	0 0	7 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 1	7 3	1 0	0 0
C0304	免疫機構の障害	男女	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0
C0400	内分泌、栄養及び代謝疾患	男女	49 96	0 0	4 1	0 0	15 73	0 0	1 1	0 0	1 1	0 0	0 0	11 7	7 7	9 6	1 0
C0401	甲状腺中毒症	男女	1 1	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0
C0402	甲状腺炎	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0403	その他の甲状腺障害	男女	2 3	0 0	0 0	0 0	1 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 1	0 0	0 0	0 0
C0404	インスリン依存性糖尿病	男女	1 1	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0
C0405	インスリン非依存性糖尿病	男女	12 4	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	5 0	3 2	2 1	0 0
C0406	その他の糖尿病	男女	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0
C0407	卵巣機能障害	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0408	栄養失調及びビタミン欠乏症	男女	0 2	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0
C0409	肥満症	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0410	高脂血症	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0411	体液量減少	男女	3 7	0 0	2 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 3	1 2	0 1	0 0
C0412	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	男女	29 78	0 0	1 0	0 0	14 68	0 0	0 0	1 0	0 1	0 0	0 3	3 3	3 3	6 3	1 0
C0500	精神及び行動の障害	男女	10 12	0 0	0 0	0 0	1 4	0 4	0 0	0 0	0 0	0 0	4 1	2 0	2 0	1 3	0 0
C0501	血管性及び詳細不明の痴呆	男女	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0
C0502	アルコール使用による精神及び行動の障害	男女	1 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0503	その他の精神作用物質使用の精神、行動障害	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0504	精神分裂病、分裂病及び妄想性障害	男女	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0505	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	男女	1 1	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0506	神経症性障害、ストレス及び身体表現性障害	男女	3 5	0 0	0 0	0 0	0 2	0 2	0 0	0 0	0 0	0 0	3 0	0 0	0 0	0 1	0 0
C0507	精神遅滞	男女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0508	その他の精神及び行動の障害	男女	3 4	0 0	0 0	0 0	1 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	1 2	0 0

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科	
C0600	神経系の疾患	男女	116	0	1	0	15	29	0	3	0	0	5	51	6	4	2	0
		男女	91	0	1	0	9	35	1	4	0	0	1	36	1	1	2	0
C0601	髄膜炎	男女	6	0	0	0	0	4	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
		男女	6	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
C0602	中枢神経系の炎症性疾患	男女	4	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
		男女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
C0603	脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	男女	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0
		男女	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0
C0604	パーキンソン病	男女	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
		男女	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0
C0605	アルツハイマー病	男女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		男女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
C0606	多発性硬化症	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
C0607	てんかん	男女	36	0	0	0	4	21	0	0	0	0	8	1	1	1	1	0
		男女	29	0	0	0	2	21	1	0	0	0	5	0	0	0	0	0
C0608	片頭痛及びその他の頭痛症候群	男女	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
		男女	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
C0609	一過性脳虚血性発作及び関連性症候群	男女	12	0	0	0	2	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0
		男女	5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0
C0610	睡眠障害	男女	10	0	0	0	0	2	0	0	0	4	0	3	1	0	0	0
		男女	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0611	神経、神経根及び神経そのの障害	男女	15	0	0	0	0	0	3	0	0	1	11	0	0	0	0	0
		男女	14	0	0	0	3	2	0	4	0	0	1	4	0	0	0	0
C0612	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	男女	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0613	自律神経系の障害	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0614	その他の神経系の疾患	男女	19	0	0	0	6	1	0	0	0	0	9	2	1	0	0	0
		男女	14	0	0	0	4	3	0	0	0	0	4	1	1	1	0	0
C0700	眼及び付属器の疾患	男女	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		男女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
C0701	麦粒腫及びさん粒腫	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0702	涙器の障害	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0703	結膜炎	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0704	角膜炎	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0705	白内障	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0706	網膜剥離及び裂孔	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0707	網膜血管閉塞症	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0708	緑内障	男女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0709	斜視	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
C0710	屈折及び調節の障害	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0711	盲<失明>及び低視力	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0712	その他の眼及び付属器の疾患	男女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
C0800	耳及び乳様突起の疾患	男女	20	0	0	0	1	2	0	0	0	6	3	2	5	1	0	0
		男女	18	0	0	0	1	2	0	0	0	6	1	1	5	2	0	0
C0801	外耳炎	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0802	耳垢栓塞	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0803	その他の外耳疾患	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0804	中耳炎	男女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
		男女	3	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
C0805	耳管炎	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0806	耳管閉塞	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

コード 疾病分類名		総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C0807 中耳真珠腫	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0808 その他の中耳及び乳様突起の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0809 メニエール病	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0810 中枢性めまい	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
	女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
C0811 その他の内耳疾患	男	10	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3	2	1	1	0
	女	12	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	1	1	5	1	0
C0812 難聴	男	4	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
	女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
C0813 その他の耳疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0900 循環器系の疾患	男	800	0	8	98	109	4	0	0	0	0	0	95	459	17	10	0
	女	379	0	3	41	75	7	8	1	0	0	0	51	161	23	9	0
C0901 本態性高血圧	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
C0902 高血圧性心疾患	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
	女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
C0903 高血圧性腎疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0904 高血圧性心腎疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0905 二次性高血圧症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0906 狭心症	男	177	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	156	0	0	0
	女	49	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0
C0907 急性心筋梗塞	男	70	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	65	2	0	0
	女	23	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	19	2	0	0
C0908 冠動脈硬化症	男	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0909 陳旧性心筋梗塞	男	68	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	65	0	0	0
	女	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
C0910 その他の虚血性心疾患	男	8	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	0
	女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
C0911 慢性リウマチ性心疾患	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	女	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0912 慢性非リウマチ性心内膜疾患	男	15	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0
	女	5	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
C0913 心筋症	男	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
	女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
C0914 不整脈及び伝導障害	男	38	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	30	4	2	0
	女	23	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	14	3	3	0
C0915 心不全	男	107	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	100	5	1	0
	女	61	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	59	0	0	0
C0916 その他の心疾患	男	6	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
	女	12	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	7	2	0	0
C0917 くも膜下出血	男	12	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	15	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
C0918 脳内出血	男	49	0	0	0	46	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0
	女	49	0	0	0	39	0	0	0	0	0	0	0	2	4	4	0
C0919 脳梗塞	男	107	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	90	4	1	1	0
	女	64	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	51	1	9	2	0
C0920 脳動脈硬化	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0921 その他の脳血管疾患	男	44	0	0	0	40	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
	女	23	0	0	0	22	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0922 肺塞栓症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0923 動脈硬化	男	12	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
	女	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
C0924 大動脈瘤及び解離	男	46	0	2	35	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1	0	0
	女	14	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
C0925 レイノー症候群	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0926 動脈の塞栓症及び血栓症	男	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0927 その他の動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	男	6	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科		
C0928	静脈炎、静脈の塞栓症及び血栓症	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	
		女	5	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0
C0929	下肢の静脈瘤	男	7	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	9	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0930	痔核	男	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0931	食道静脈瘤	男	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0932	低血圧症	男	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
C0933	その他の循環器系の疾患	男	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		女	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1000	呼吸器系の疾患	男	650	0	3	3	253	0	0	0	0	42	1	21	296	5	26		
		女	327	0	0	1	163	0	0	0	0	16	0	10	124	6	7		
C1001	急性鼻咽頭炎	男	5	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
C1002	急性副鼻腔炎	男	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
C1003	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	男	24	0	0	0	15	0	0	0	0	7	0	0	2	0	0	0	0
		女	13	0	0	0	12	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
C1004	急性喉頭炎及び気管炎	男	5	0	0	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		女	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1005	その他の急性上気道感染症	男	22	0	0	0	13	0	0	0	0	5	0	0	4	0	0	0	0
		女	14	0	0	0	7	0	0	0	0	4	0	2	1	0	0	0	0
C1006	インフルエンザ	男	64	0	0	0	58	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0
		女	29	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
C1007	肺炎	男	188	0	3	0	57	0	0	0	0	0	0	11	116	1	0	0	0
		女	105	0	0	1	33	0	0	0	0	0	0	2	67	2	0	0	0
C1008	急性気管支炎	男	54	0	0	0	51	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
		女	54	0	0	0	52	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
C1009	急性細気管支炎	男	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		女	6	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1010	アレルギー性鼻炎	男	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1011	慢性副鼻腔炎	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
C1012	その他の鼻及び副鼻腔の疾患	男	6	0	0	0	1	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
C1013	扁桃及びアデノイドの慢性疾患	男	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
C1014	その他の上気道の疾患	男	20	0	0	0	0	0	0	0	0	18	0	0	2	0	0	0	0
		女	5	0	0	0	1	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
C1015	急性、慢性と明示されない気管支炎	男	6	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
		女	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
C1016	慢性閉塞性肺疾患	男	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	27	0	1	0	0
		女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0
C1017	喘息	男	58	0	0	0	38	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0
		女	32	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0
C1018	気管支拡張症	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
C1019	じん肺	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1020	間質性肺疾患	男	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	0	1	0	0
		女	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0
C1021	気胸	男	65	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	45	0	19	0	0
		女	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	4	0	0
C1022	その他の呼吸器系の疾患	男	57	0	0	3	2	0	0	0	0	0	1	6	37	3	5	0	0
		女	21	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	12	2	3	0	0
C1100	消化器系の疾患	男	514	0	206	4	13	0	0	0	0	7	0	7	6	271	0	0	
		女	327	0	128	0	10	7	1	0	0	4	0	3	4	170	0	0	
C1101	う蝕	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1102	歯肉炎及び歯周疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1103	その他の歯及び歯の支持組織の障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1104	口内炎及び関連疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1105	その他の口腔、唾液腺及び顎の疾患	男	9	0	0	0	2	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0
		女	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0

コード 疾病分類名		総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C1106 胃潰瘍	男	56	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	51	0
	女	25	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	20	0
C1107 十二指腸潰瘍	男	25	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	18	0
	女	6	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
C1108 部位不明の消化性潰瘍	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1109 胃炎及び十二指腸炎	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
	女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
C1110 その他の食道、胃及び十二指腸の疾患	男	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	0
	女	8	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0
C1111 虫垂の疾患	男	38	0	31	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0
	女	37	0	24	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	2	7	0
C1112 単径ヘルニア	男	63	0	63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	10	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1113 その他のヘルニア	男	5	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	9	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1114 クロウン病	男	5	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1115 潰瘍性大腸炎	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1116 腸閉塞	男	57	0	21	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	1	31	0
	女	48	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	0
C1117 過敏性腸症候群	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1118 便秘	男	7	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
	女	4	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
C1119 裂肛及び痔瘻	男	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	3	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1120 その他の胃腸の疾患	男	45	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	21	0
	女	33	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0
C1121 腹膜炎の疾患	男	5	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	女	7	0	4	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
C1122 アルコール性肝疾患	男	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	10	0
	女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
C1123 慢性肝炎	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
C1124 肝硬変	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
	女	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
C1125 その他の肝疾患	男	23	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	17	0
	女	11	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0
C1126 胆石症	男	62	0	23	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38	0
	女	67	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	30	0
C1127 胆のう炎	男	9	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0
	女	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	6	0
C1128 急性膵炎	男	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0
	女	8	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0
C1129 慢性膵炎	男	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	女	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1130 その他の膵疾患	男	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	女	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1131 その他の消化器系の疾患	男	53	0	17	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	32	0
	女	30	0	6	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	21	0
C1200 皮膚及び皮下組織の疾患	男	26	0	3	0	0	5	0	6	5	0	2	0	2	1	2	0
	女	26	0	0	0	0	10	0	6	1	1	3	0	0	5	0	0
C1201 皮膚及び皮下組織の感染症	男	18	0	3	0	0	3	0	6	3	0	0	0	1	1	1	0
	女	20	0	0	0	0	6	0	6	0	1	3	0	0	4	0	0
C1202 アトピー性皮膚炎	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1203 接触皮膚炎	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1204 その他の皮膚炎及び湿疹	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1205 幹せん及びその他の丘疹落せつ性障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1206 じんま疹	男	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1207 爪の障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1208 脱毛症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C1209	ざ瘡	男 女	0 1	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1210	色素異常症	男 女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1211	うおのめ及びびべんち	男 女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1212	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	男 女	6 3	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	2 1	0 0	2 0	0 0	1 0	0 1	1 0	0 0
C1300	筋骨格系及び結合組織の疾患	男 女	167 162	0 0	1 0	0 0	45 9	9 13	0 0	99 131	0 0	0 0	9 3	0 2	4 3	0 1	0 0
C1301	慢性関節リウマチ	男 女	0 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0
C1302	痛風	男 女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1303	その他の炎症性多発性関節障害	男 女	1 10	0 0	0 0	0 0	1 8	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0
C1304	関節症	男 女	19 69	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	19 69	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1305	四肢の後天性変形	男 女	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1306	膝内障	男 女	21 25	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	21 25	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1307	関節痛	男 女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1308	その他の関節障害	男 女	10 11	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	10 11	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1309	全身性エリテマトーデス	男 女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1310	乾燥症候群	男 女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1311	ベーチェット病	男 女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1312	その他の全身性結合組織障害	男 女	12 6	0 0	0 0	0 0	7 4	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	4 1	0 1	1 1	0 0	0 0
C1313	脊椎障害	男 女	50 10	0 0	0 0	33 7	0 0	0 0	13 1	0 0	0 0	0 1	2 1	0 1	2 0	0 0	0 0
C1314	椎間板障害	男 女	20 7	0 0	0 0	9 1	0 0	0 0	9 5	0 0	0 0	0 0	2 1	0 0	0 0	0 0	0 0
C1315	頸腕症候群	男 女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1316	腰痛症及び坐骨神経痛	男 女	1 2	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1317	その他の背部痛	男 女	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1318	その他の脊柱障害	男 女	7 3	0 0	0 0	3 1	0 0	0 0	4 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0
C1319	軟部組織障害	男 女	14 6	0 0	1 0	0 0	0 0	1 0	10 5	0 0	0 0	0 1	1 0	0 0	1 0	0 0	0 0
C1320	肩の傷害	男 女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1321	骨粗しょう症	男 女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1322	その他の骨の密度及び構造の障害	男 女	3 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	3 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1323	骨髄炎	男 女	1 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1324	若年性骨軟骨症	男 女	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1325	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	男 女	7 6	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	7 6	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1400	尿路性器系の疾患	男 女	109 290	0 0	4 4	1 1	0 0	12 11	0 220	0 0	53 11	0 0	0 0	14 9	18 24	7 10	0 0
C1401	急性及び急速進行性腎炎症候群	男 女	0 1	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1402	ネフローゼ症候群	男 女	3 0	0 0	0 0	0 0	2 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0
C1403	その他の糸球体疾患	男 女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C1404	腎尿細管間質性疾患	男 女	19 31	0 0	0 0	0 0	2 4	0 2	0 0	0 0	6 5	0 0	0 3	3 10	5 7	3 0	0 0

コード 疾病分類名		総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C1405 慢性腎不全	男	9	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	2	0
	女	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
C1406 その他の腎不全	男	12	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3	4	1	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1407 尿路結石症	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	女	5	0	0	0	0	0	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0
C1408 膀胱炎	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	女	6	0	0	0	0	1	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0
C1409 その他の尿路系の疾患	男	23	0	2	0	0	8	0	0	0	3	0	0	2	8	0	0
	女	30	0	0	0	0	5	2	0	0	2	0	0	4	14	3	0
C1410 前立腺肥大	男	29	0	0	0	0	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1411 その他の男性性器の疾患	男	11	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	1	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1412 乳房の障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1413 卵管炎及び卵巣炎	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	5	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1414 子宮頸部の炎症性疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1415 その他の女性骨盤臓器の炎症性疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	12	0	2	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1416 子宮内膜症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	70	0	0	0	0	0	70	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1417 女性性器脱	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	8	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1418 卵巣、卵管及び子宮広間膜の非炎症性障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	13	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1419 月経障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	6	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1420 閉経期及びその他の閉経周辺期障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1421 女性不妊症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1422 その他の女性性器の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	99	0	2	0	0	0	97	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1500 妊娠、分娩及び産じょく	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	564	0	0	0	0	0	564	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1501 自然流産	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	15	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1502 医学的人工流産	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	16	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1503 その他の流産	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	43	0	0	0	0	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1504 妊娠中毒症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	14	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1505 妊娠早期の出血	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	16	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1506 前置胎盤、胎盤早期剥離及び分娩前出血	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	17	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1507 胎児、羊膜腔の母体のケア、分娩の諸問題	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	142	0	0	0	0	0	142	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1508 早産	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	8	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1509 分娩後出血	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	5	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1510 単胎自然分娩	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	207	0	0	0	0	0	207	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1511 その他の妊娠及び分娩の障害及び合併症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	80	0	0	0	0	0	80	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1512 産じょくに関連する合併症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1600 周産期に発生した病態	男	136	0	0	0	0	136	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	92	0	0	0	0	92	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1601 妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	男	33	0	0	0	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	19	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1602 出産外傷	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1603 周産期に特異な呼吸障害及び心血管障害	男	33	0	0	0	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	17	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

コード 疾病分類名		総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C1604 周産期に特異な感染症	男	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1605 胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	男	13	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	10	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1606 その他の周産期に発生した病態	男	52	0	0	0	0	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	45	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1700 先天奇形、変形及び染色体異常	男	23	0	0	1	1	10	0	3	0	1	2	0	4	0	0	1
	女	17	0	0	0	2	13	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
C1701 二分脊椎	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1702 その他の神経系の先天奇形	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1703 心臓の先天奇形	男	4	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	女	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
C1704 その他の循環器系の先天奇形	男	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	女	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1705 唇裂及び口蓋裂	男	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1706 小腸の先天欠損、閉鎖及び狭窄	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1707 その他の消化器系の先天奇形	男	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1708 停留精巣	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1709 その他の泌尿器系の先天奇形	男	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	3	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1710 股関節部の先天奇形	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1711 足の先天奇形	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1712 脊柱及び骨性胸部の先天奇形	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1713 その他の筋骨格系の先天奇形及び変形	男	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1714 その他の先天奇形	男	6	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1
	女	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1715 染色体異常	男	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1800 症状、徴候及び異常臨床、検査所見	男	65	0	3	0	2	44	0	0	0	0	1	2	4	8	1	0
	女	56	0	1	0	1	30	6	0	0	0	1	2	2	10	2	1
C1801 腹痛及び骨盤痛	男	4	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	女	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1802 めまい	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	女	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0
C1803 不明熱	男	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	女	6	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0
C1804 頭痛	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1805 老衰	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
C1806 症状、徴候及び異常臨床、検査所見	男	57	0	1	0	2	42	0	0	0	0	1	2	3	6	0	0
	女	44	0	1	0	1	27	3	0	0	0	1	1	1	6	2	1
C1900 損傷、中毒及びその他の外因の影響	男	572	0	87	19	81	10	0	322	4	10	3	1	8	10	5	12
	女	418	0	41	2	41	6	11	291	1	5	1	1	4	7	4	3
C1901 頭蓋骨及び顔面骨の骨折	男	11	0	4	0	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	女	5	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1902 頭部、胸部及び骨盤の骨折	男	49	0	8	0	5	0	0	33	0	0	1	0	0	0	0	2
	女	30	0	5	0	2	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	1
C1903 大腿骨の骨折	男	47	0	0	0	0	0	0	47	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	101	0	0	0	0	0	0	101	0	0	0	0	0	0	0	0
C1904 その他の四肢の骨折	男	116	0	0	0	0	0	0	116	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	83	0	2	0	0	0	0	81	0	0	0	0	0	0	0	0
C1905 多部位の骨折	男	3	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
C1906 多部位の脱臼、捻挫及びストレイン	男	98	0	1	1	1	0	0	95	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	77	0	0	0	1	0	0	76	0	0	0	0	0	0	0	0
C1907 眼球及び眼窩の損傷	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1908 頭蓋内損傷	男	54	0	3	3	47	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	31	0	2	0	27	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

コード 疾病分類名		総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C1909 その他の内臓の損傷	男	33	0	16	0	0	0	0	1	0	7	0	0	0	0	0	9
	女	14	0	8	0	0	1	1	0	0	3	0	0	0	0	0	1
C1910 挫減損傷及び外傷性切断	男	5	0	1	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
C1911 部位不明及び多部位の損傷	男	88	0	39	4	21	0	0	21	0	2	1	0	0	0	0	0
	女	35	0	15	1	7	0	0	9	0	2	1	0	0	0	0	0
C1912 自然開口部からの異物侵入の作用	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	女	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
C1913 熱傷及び腐食	男	10	0	3	0	1	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
	女	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
C1914 薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒	男	8	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	4	1	0
	女	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0
C1915 薬用を主としない物質の毒作用	男	9	0	5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0
	女	4	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
C1916 虐待症候群	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1917 その他及び詳細不明の外因の作用	男	14	0	3	0	0	4	0	0	0	0	0	0	2	4	1	0
	女	7	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0
C1918 外傷の早期合併症	男	26	0	4	10	0	1	0	2	0	0	0	0	6	1	1	1
	女	17	0	4	1	0	0	9	0	0	0	0	0	2	1	0	0
C1919 損傷、中毒及び外因による影響の続発・後遺	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2100 健康状態に影響をおよぼす要因、保健	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2101 検査及び診査のための保健サービスの利用者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2102 無症候性ヒト免疫不全ウイルス感染状態	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2103 予防接種	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2104 伝染病に関する健康障害をきたす恐れのある者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2105 避妊管理	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2106 分娩前スクリーニング及び妊娠管理	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2107 生殖に関連する保健サービスの利用者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2108 分娩後のケア及び検査	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2109 歯の補てつ	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2110 特定の処置及び保健ケアの保健サービス利用	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2111 腎透析依存	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2112 その他の理由による保健サービスの利用者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※上記コードは疾病分類表（小分類）であり、数字は退院患者数と他科へ転科した患者数を合計した数です。